

347
358

始



特206
850

KOKYO SEIKASHU



公愛
聖歌集



NIHIL OBSTAT.

Sapporo, die 15. Maji 1933.

Didymus JORDAN O. F. M.

Vicarius Del.

IMPRIMATUR.

Sapporo, die 4. Sept. 1933.

+ Wenzeslaus KINOLD O. F. M.

Epps Panemot. et Vic. Apost.

序

靈あるもの誰か歌なかるべき。況んや心琴の處るべきに處り、靈感の呼應、聖心の交響その時に適へるに於てをや。聖使徒は曰へり。

聖靈に満たされよ

詩詠、讚美の聖歌の中に互に語れ

心々に主に歌うたひ奏でまつれ、と。

聖アウグスチノは其の入信の楔を自ら曰はずや。

妙に調ひし爾の聖會の聲の如何に我が心を打ちしか。その讚美の歌に我が泣きしと幾許ぞ。耳朶に流れ入るその響。眞理は忽ちにしてわが胸底に滴り落ちて、敬虔の念慮率然として湧き、たぎつ涙、また止まるを知らず。あゝ我は爾の福祉の中に漂ひたりしよ、と。

これや寔に人の心境に一味相貫の自然、超自然交錯の尊き姿にあらずして何ぞや。されば敬虔の徒は聖詩歌の靈城を守るに吝ならず。實に旦には神を稱へ、夕にはシオンを思ひて

われ若し、神を想起せず

其の都をば歡びの極となさずんば

いで我が舌よ、顎に付け

いで我が右手よ、藝術を忘れよかし

と、ヘブレアの歌人の泣きしぞ思ほゆる。

今や藝術の母なる聖會、彌榮えに榮えて、讚美の歌の絶ゆる隙なし。聖教の移植、我が邦土、日や浅き、人や稀なる、歌草の繁り、尙未だ豊饒を告ぐるに到らずと雖、茲に「聖歌集」一卷をものして聖用に供ふ。

神よ、冀くば心よりなる信證の實のりと受け給へかし。謹みて御名を尊み奉り、聖會のみ恵みに答ふるになむ。

新墾の野にかぎろひの草の花

摘みて結びて手むけるかも

一九三三年 望月 聖母被昇天の日

編纂者識

凡例

一 往年の日本公教會司教會議において、全教區共通用のカトリック聖歌集編纂が議決され、依頼された數名の委員の手によつてその編纂が著手せられたのであるが、半途にして時期尙早との意見に遭遇し、一轉して公式聖歌集出版までの豫備として結成せられたものが本書である。

一 曲譜は邦人の手に成つたものも數種採つたが、多くは各國の異種多様のものを選集し主として従來日本に於て用ゐられた一切の中から、適當と思はれるものを蒐集した。又歐洲に於て數百年前より使用され來つた恰ど古典的價値を有する曲をそのまま採つたのも可成ある。随つて各歌曲は重厚、輕快、それ〴〵の趣きを有してゐる。それ故に各教會にては、收められた多數の中から好む所の曲譜を自由に選んで用ゐられたい。

一 歌詞に至つては根本的に訂正、新作せられてゐるが、勿論完璧とは信じてゐない。日本にはカトリック聖歌が用ゐられてから年尙浅く、随つて歌詞についても未だ深く留意されてゐない。それだけに又歌詞に對する種々な異見もあり得ることであらう。

一 一體聖歌の價値なるものは、その歌曲と歌詞とが藝術的の香りを含むことのみ依るのではなくして、實に敬虔の精神に添ふか否かに依るのである。之は各國の經驗が證明してゐる事實である。

一 カトリック聖歌の眞義を悟るにはミサ典禮の精神を味得ることが肝要である。乃ち典禮が客觀的の性質を有つてゐる如く聖歌も同様の性質を大分に有してゐるのである。其處に時代、作者を超越したものが認められる。

一 本書に收めた聖歌の作曲者、作歌者等、一々その名を記入しない方針をとつたものもこのカトリック典禮の客觀性に照應するものがあるからである。この點は世間一般の歌集や詩書と自ら撰を異にする。

一 典禮に於て許される限り日本語聖歌が一層頻繁に用ゐられることを望みたい。又歌隊のみに限られず、信徒一般が敬虔の念もて齊唱する善習慣の擴まらんことをも併せて希望する。その理由に依つて本書に收められたラテン語聖歌の曲譜も、多くの種類の中から殊更に齊唱に適する簡單なものを選んだ。

一 本書は此の聖歌集の發行に至るまでの多くの人々の勞作、第一に曲譜の選集、第二に歌詞の修正と作詩、第三に印刷と其の困難な校正其の他の事務等々に於ける夫々の擔任者の必死の努力に就て、特に第一、第二の點に於ては東京にある公教大神學校に深き感謝を表明し神がその働きに酬い給はんことを祈る。

「附 記」

一 聖歌の唱ひ方に就て、歌を遅緩せぬ様に注意を乞ひたいと思ふ。總じて流暢輕快がよい
二 「折り返し」が最初に置かれてある歌は、必ず最後にも今一度これを歌つて、歌の結びとすることを忘れぬ様に願ひたい。

三 殊に日曜日の「讀誦のミサ」の場合には、一番から十七番に至るまでのミサ聖祭の歌のみでなく、聖體の部にあるもの、或は祝日、季節に應じて他の歌をも適當に用ゐ得られる。その聖歌と聖歌との間にはそれ／＼の部分に相當するミサの祈りを挟んで、齊誦するのは非常に奨むべき事である。然し、又聖體拜領前には共同或は個人的にその準備の祈禱を爲し得る幾許かの時間が残る様に、聖歌を加減して用ゐる事が大切である。

四 二〇六番の歌は洗禮の時のみではなく、初聖體拜領や堅振の秘蹟の時、又信徒一般の特別の集會の際に信仰宣言を表明するために用ひ得る。

一〇八番(テ デウム)の歌は感謝を表す機會に用ゐるに最も適當である。
一九四番より一九九番までの死者と葬禮との歌は、勿論通夜の時などにも用ゐ得られるのである。

五 本書の卷末には歌詞の簡單な解説が附してあるが、委しい解説は別に發表して一般の便宜に具へる豫定である。

目次

序	一頁	御復活	六四—七二
凡例	三頁	御昇天	七三—七四
目次	六頁	聖靈	七五—八一
初行索引	八頁	三位一體	八二
ミサ聖祭	一一—一七	聖心	九五—一〇七
待降節	一八—二二	主に對する讚美	一〇八—一一八
御降誕	二三—四一	主に對する讚美	一一〇—一一〇
聖名	四二—四三	主に求む	一一一
三王來朝	四四—四六	主禱文	一一二—一一三
悔悛	四七—五〇	信望愛	一一四—一一五
御苦難	五一—五六	攝理	一一六
十字架	五七—五九	奉獻	一一七—一一八
悲みの聖母	六〇—六二	キリストに對する歌	一一九—一二八
枝の主日	六三	キリストに對する歌	一二九
		我が主を愛する歌	一二〇
		愛の歌	一二一
		熱き願ひ	一二二
		御主を慕ふ	一二三
		葡萄の樹	一二四
		善き牧者	一二五
		信頼	一二六
		熱心	一二七
		王なる基督	一二八
		聖母	一二九—一七二
		無原罪の聖母	一六〇—一六二
		聖母月	一六三—一六六
		被昇天	一六七—一六八
		聖母の御名	一六九—一七一
		聖母(小兒用)	一七二
		天使	一七三—一七七
		大天使聖ミカエル	一七三
		天使	一七四—一七七

聖人	一七八—一九三	救靈の水	二〇五
聖ヨゼフ	一七八—一八〇	奉教の誓ひ	二〇六
聖バトロ	一八一—一八二	邦國のため	二〇七
日本聖殉教者	一八三—一八五	幼兒の歌	二〇八
聖フランシスコ・ザベリオ	一八六—一八八	夕べの歌	二〇九
		善き終りを願ふ	二一〇
アシジの聖フランシスコ	一八九	勤行を了へて	二一一
		聖堂を出づる時	二一二
聖アロイジオ	一九〇	ラテン語聖歌	二一三—二二八
小さき花の聖テレジア	一九一	パンツエリンゲア	二二三
諸聖人	一九二—一九三	オエスカ	二二四
死者	一九四—一九五	アドロテオパニス	二二五
葬禮	一九六—一九九	オサルタリス	二二六
天國	二〇〇—二〇一	アドロテデガオテ	二二七
雑	二〇二—二〇三	パニスアングエリクス	二二八
聖家族	二〇二—二〇三	タントウムエルゴ	二二九—二三四
聖會	二〇四	アドレムス	二二五—二二六
		アレルヤ	二二七
		歌ミサ	二二八
		歌詞小註	二五七頁

終

初行索引

あ

ああイ)エズスマリア 二〇二
 ああしゆよ 九四
 ああなつかしき 一四二
 ああみははマリア 七一
 あいのいけにへの 九五
 あいのしゆよ 一五
 あいのみははよ 一四九
 あかつきのほしよ 一四四
 あさなゆふなに 一七四
 あさにけに 六二
 アドレムス 二二五
 アドロテ オ)パニス 二一五
 アドロテ テ)サテ 二一七
 あなめでたきかな 二一九

二〇二
 九四
 一四二
 七一
 九五
 一五
 一四九
 一四四
 一七四
 六二
 二二五
 二一五
 二一七
 二一九

あはれこの 四三
 あはれみのかみ 二一
 あはれみのみこころ 一〇六
 あふぐもかしこし 一〇二
 あふぐもたふとし 四二
 あふげやあふげや 三六
 あまつみはは 一三〇
 あめつちをつくり 一二八
 あめつちのしゆよ 一六
 あめつちのわかれし 一六二
 あめなるきさいの 一四七
 あめなるきさいよろこび 七二
 あめなるみかみに 一一八
 あめにはみさかえ 二八
 あめにますみちちよ 一一三
 あめにますわれらのちち 一一二
 あめにみさかえ 二
 あめのかどきみはのぼり 一四一

あもりきます 四五
 あやにくすしき 一七一
 あれきこゆるうた 二七
 アン)ナのみこ 一三三
 い 一三三
 イ)エズスのみこころ 一〇三
 いけにへを 一三
 いざいざよろこべ 六六
 いざやこよしゆのみもとに 九八
 いざゆかな 一七〇
 いざよのとも 三五
 いざわがのぞみ 七
 いたましくもたてる 六〇
 いとしもきよき 五
 いとたかきみははよ 一三六
 いにけるそのたま 一九六

いのちのかてにと

いのりする 八七

いはへやうたへ 一五三

いばらのかむり 六四

いまはのゆふげ 五一

う

うけしみめぐみの 一二
 うけましし 五三
 うつしよにも 一四五
 うるはしきよけし 一三一
 うるはしくも 一三二
 うるはしの 一一九
 うるはしき 一六五
 うれしきこのとのに 一五〇
 うれひかなしみに 二〇三

八七
 一五三
 六四
 五一
 九
 一二
 五三
 一四五
 一三一
 一三二
 一一九
 一六五
 一五〇
 二〇三

お

オ)エスカ)イ)アトルム 二一四
 ををしくもいさぎよき 一八四
 お)おせいなる 一八八
 お)お)マリアうましき 一四六
 をさなきをめで 二〇八
 オ)サルタリス 二一六
 おそれなき 四九
 をはりのやすみの 一九七
 オ)リブのやまより 七三
 かをしたかみ 一五四
 かぜもかをりて 一六四
 かたくなびとの 一八三
 かのをかこえ 一三九

か

二一四
 一八四
 一八八
 一四六
 二〇八
 二一六
 四九
 一九七
 七三
 一五四
 一六四
 一八三
 一三九

き

かみこそ 八三
 かみにはみさかえ 三〇
 かみにませば 一一五
 かみのこの 一八二
 かみよみやをさりて 二二二
 きけたへなるしらべ 二四
 きませすくひぬし 二二
 きませみたまよ 七六
 きみならで 四八
 きよきをとめとて 一五五
 きよくたふとき 四
 きよけきしゆのあい 九六
 きよけきみからだ 八四
 キ)リエ)レイ)ソ)ン 二二八

け

けがしきめにこそみえね
けがれもあらなく
けふしいくちよの
けふみあるじは

一四
一六一
一九二
三三

こ

こころもきよけき
こよなきめぐみの
こよひも

一六〇
五七
二〇九

さ

さかえもさちも
ささぐるうたこそ
さつきのきさいを

二〇〇
一三八
一六三

さん)みのみかみの

一

し

シオンよながうたを
しきしまの
しのはりよいまいづこ
しゆこそわがほまれよ
しゆにたのみまつる
しらべもたへに
しらゆりとときよく
しろたへのきぬに

九〇
一八五
一五九
一一〇
二〇五
九七
一九九
六五

す

すくひのみこはけふ
すくひのみこはくだり

三二
三九

そ

そらのかなた

一四〇

た

たかくたふとく
たがたてつる
たふときつとめを
たふときみやぬち
たふときヨゼフよ
たのしけく
タントウメルゴ

一三四
一八一
二一一
八五
一七九
一六六
二一九

ち

ちちなるみかみよ
ちよるづに

八二
八〇

つ

つみびとなるみを

六

と

とどめたまひける

八九

な

なつかしのははよ
なべてのたまよ
なべてのひとを
なみだのかわくひまなく
なやみしげきたびなれや
なやみつかれまし

一四三
一〇九
二九
一一一
一〇一
五六

は

はしきみこはも

四六

はしらになひつ

五四

パニス アンジェリクス

二一八

はるはうばよ

一〇〇

パンジエ リングア

二一三

ひ

ひいづるくに
ひかりもくすしき
ひさかたのあまつみそら
ひさかたのあめにもとよむ
ひさかたのくもゐをはるか
ひさかたのそのみやこさし
ひじりらを
ひせきにこもりて
ひせきにこもれる
ひとごとに

二〇七
四四
七四
七四
七四
七九
一〇四
九二
八八
一七六

ひのもとに

一八六

ふ

ふけゆくしじまを
ふりさけみれば

二三
一三三

ほ

ほめよたたへよかみの
ほめよたたへよちよよろづ

二〇四
五八

ま

まづしきをもとめて
ましてしばし
まなかひに
まぼろしのかげを

一八九
二〇一
五〇
四七

マリアさま

み

みいつかぎりなき
 みかみのたまひし
 みかみはみづからの
 みこころに
 みこそいぶせき
 みことそのははの
 みこのじふじかの
 みさかえきみにあれや
 みすくひのみづに
 みそらにきこゆる
 みそらゆく
 みたまよあもりて
 みたまよくだりて
 みたまよゆたけき

一七二
 八
 一四
 一八〇
 一二二
 二五
 一七八
 六一
 六三
 二〇六
 二二六
 二六
 二七
 七一
 七一
 七五

みつかひあきのみやゐに
 みつかひのパン
 みつかひのりたまへば
 みつかひのをさと
 みはくぎうたれつ
 みははよながこらは
 みまやのもしび
 みめぐみふらせよ
 みもたまも
 みよやゲツセマニのその

一六八
 九一
 一五七
 一七三
 五五
 一四八
 三七
 二〇
 一七
 一五八

ものみなねむる
 もろびとこぞりて
 もろびとひれふし

や

やさしきみははよ
 やすみしし
 やまとしまねに
 やまとは
 やみぢにさまよひ
 やみにすむひと

三四
 九九
 一〇
 一九五
 一〇五
 一八七
 一五二
 一九
 三一

ゆ

ゆくてはをぐらく
 ゆふづつのかげの
 ゆふやみかけくらく

一七七
 一九一
 五二

ゆふやみせまる

四一

よ

よきまきもりの
 よにありしときの
 よにたまはりし
 よのいくさにかちし
 よろこびたたへよ
 よろこびのいづみ
 よろこびのくにの
 よろこべけふぞ
 よろづのくにたみ
 よろづのくにの
 よをさるともをば

一二五
 一九四
 三
 一九三
 七〇
 一八
 九三
 六七
 六九
 一〇七
 一九八

ら

らうたきみこの

四〇

わ

わかきひじり
 わがきみイエズス
 わがしゆの
 わがたまのかて
 わがたまのひとりし
 わがたまのみくに
 わがためじふじかに
 わがともよなべて
 わがみのまもりの
 わがみはは
 わがみわがたま
 わたしのむねに
 わびしきひのとも
 われをあいて
 われこそひときの
 われらかみをほめ

一九〇
 六八
 一六七
 一一
 一五一
 二一〇
 一一〇
 一一六
 一七五
 一六九
 一二七
 一七
 五九
 一一一
 一二四
 一〇八

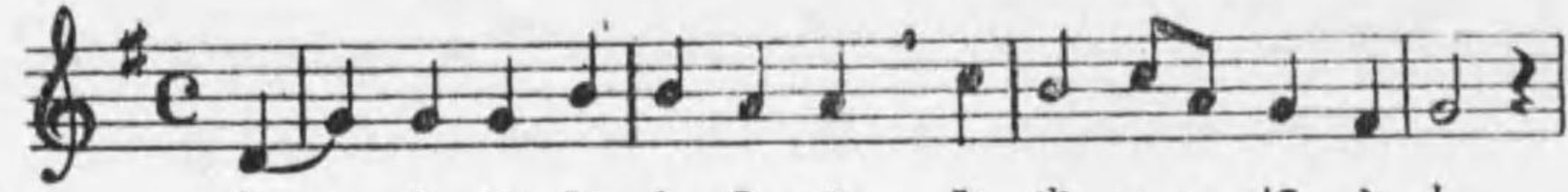
われらのははなる

一三五

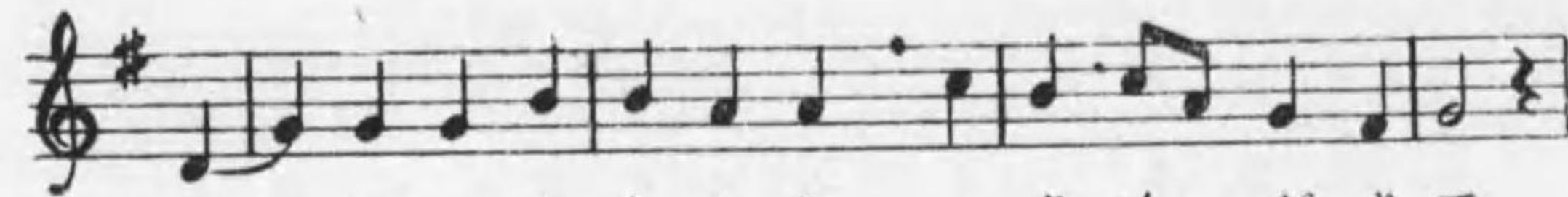
1

ミサ 聖 祭 (一)

ミサの始まる時



さーん みの みかみの みまへー にふし



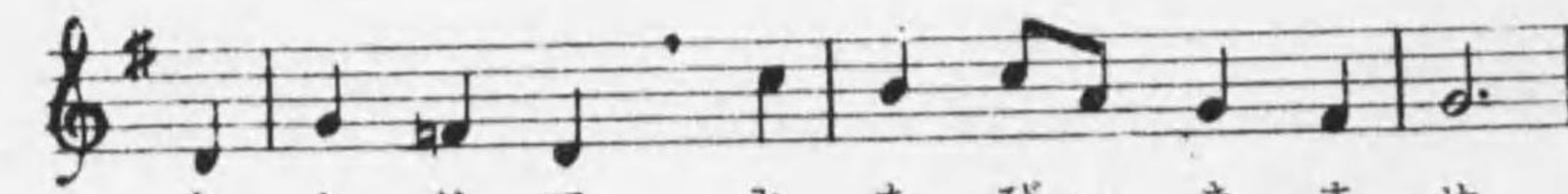
みーいつか しこみ へりくーだりて



くーじき みまつりを たーたへ たてまつる



ちちなる みかーみ このみこのたーま

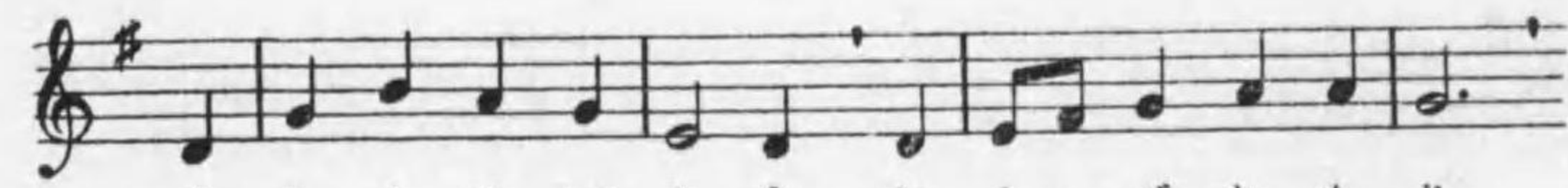


きよめて みちびーきませ

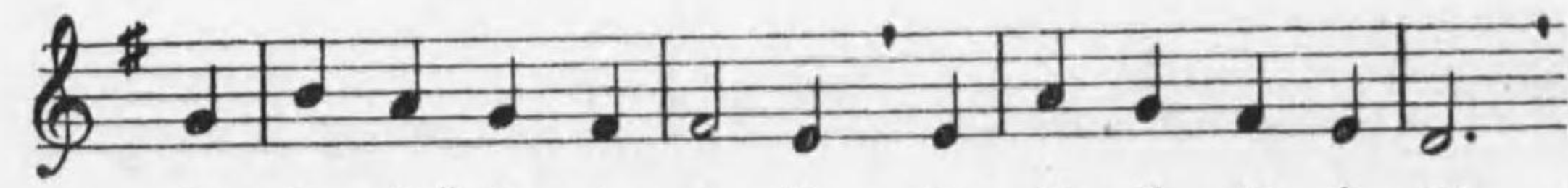
み	き	こ	ち	稱	奇	へ	御	み	三
ち	よ	の	ち	へ	し	り	稜	ま	位
び	め	身	なる	た	し	く	威	へ	の
き	て	こ	る	た	き	だ	か	に	み
ま		の	み	ま	聖	り	し	伏	か
ま		た	か	つ	奠	て	こ	し	み
せ		ま	み	る	を		み	の	の



よにたまはりしあめなるさち



くらきをてらすおとづれなり

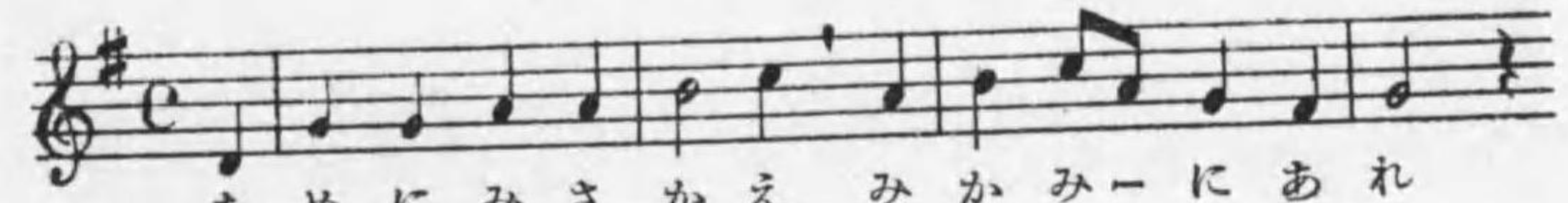


みことたふとみこころおきて

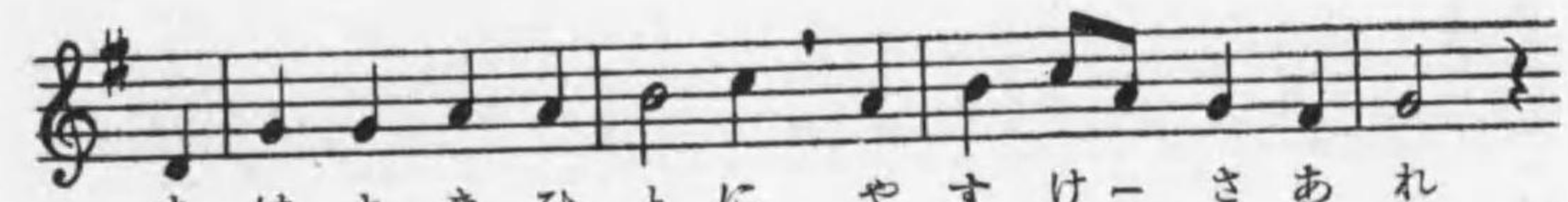


ちからのかぎりまもりゆかなん

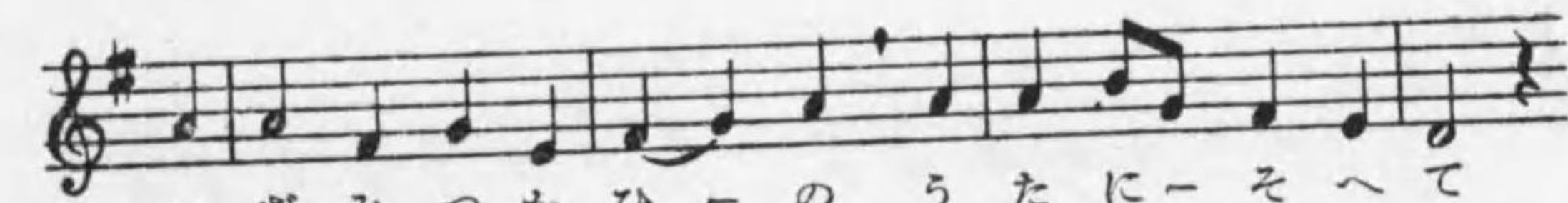
世にたまはりし
 あめなるさち
 くらきを照らす
 おとづれなり
 御言たふとみ
 ころおきて
 ちからのかぎり
 まもりゆかなん



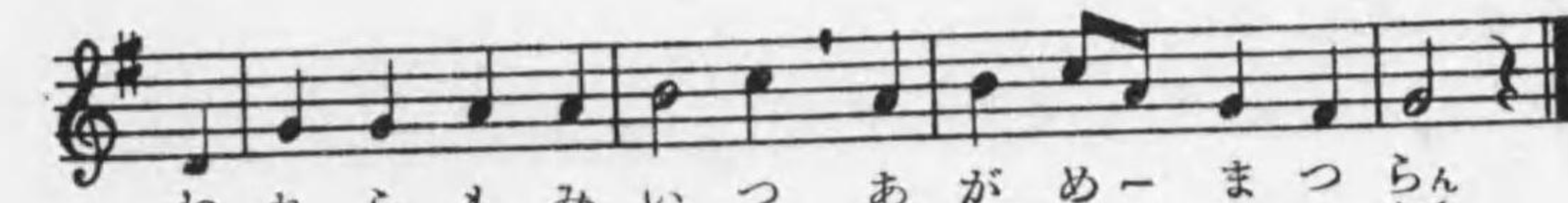
あめにみさかえみかみにあれ



ちはよきひとにやすけさあれ

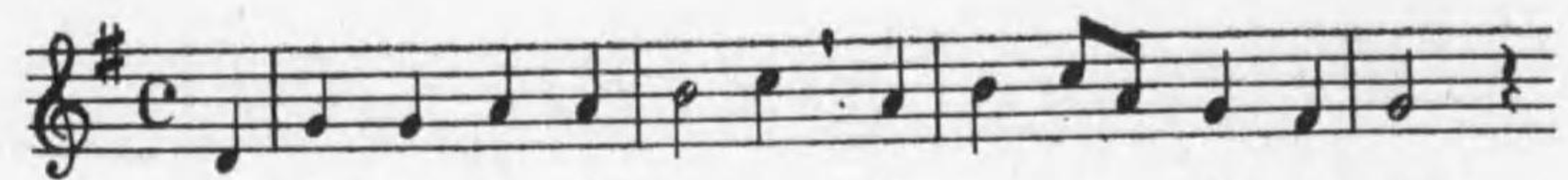


いざみつかひのうたにそへて

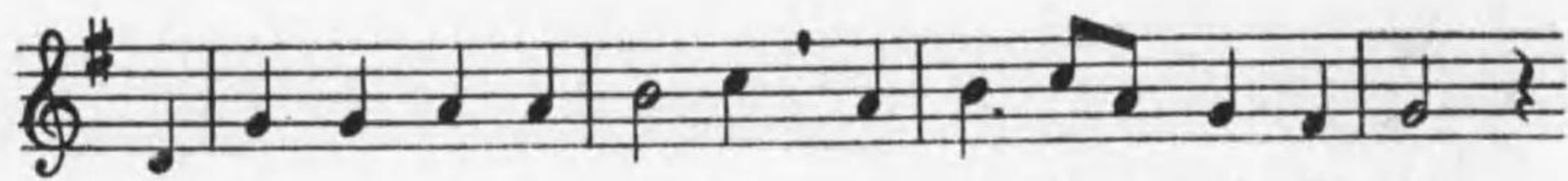


われらもみいつあがめまつらん

あめにみさかえ
 みかみにあれ
 地はよきひとに
 やすけさあれ
 いざみつかひの
 うたに添へて
 われらもみいつ
 あがめまつらん



いとしもきよきあまつみかみ



みさかえよよにあまねくあれ

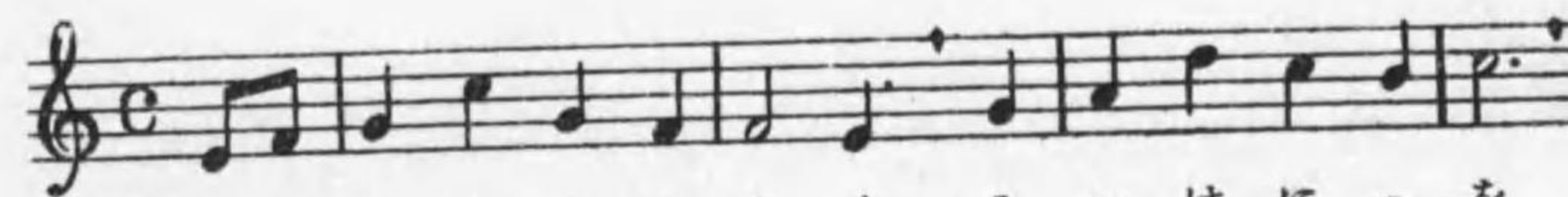


たへなるみい一つあめに一つちに

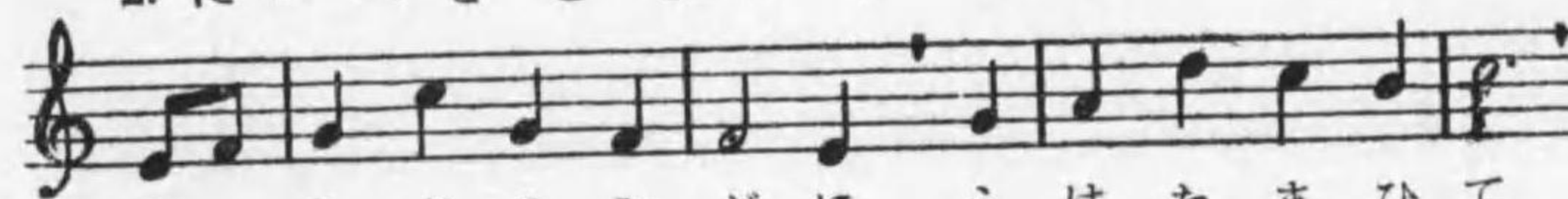


みちみちぬるをあふぎまつる

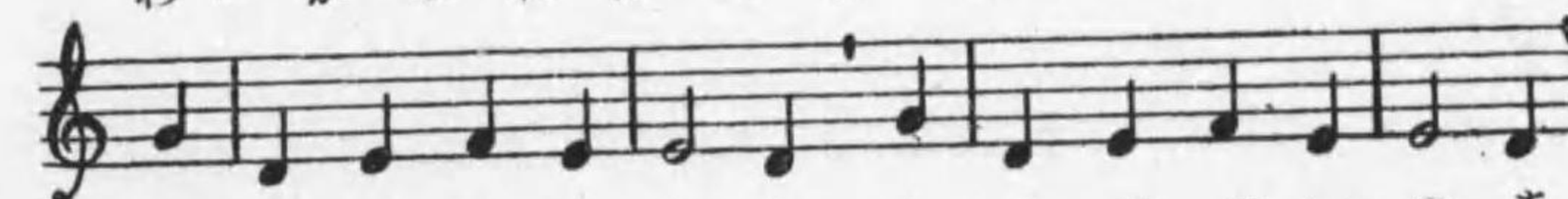
いとしもきよき	あまつみかみ	あまねくあれ	たへなる御稜威	あめにつちに	あふぎまつる
いとしもきよき	あまつみかみ	あまねくあれ	たへなる御稜威	あめにつちに	あふぎまつる



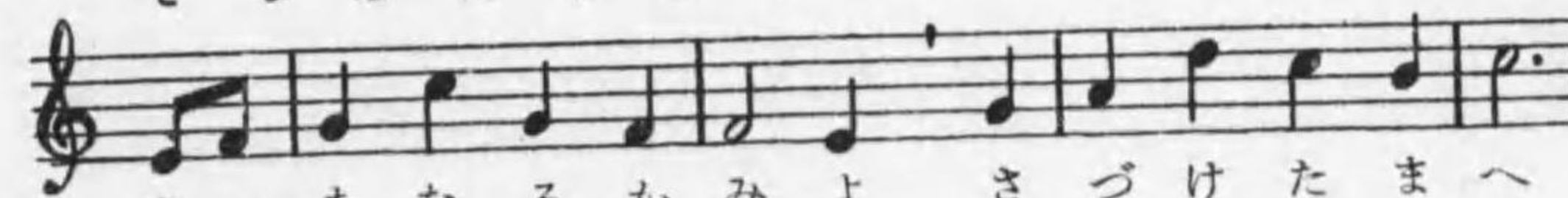
1. きーよくたふとき みいけにへを
 2. にーへとともにぞ いまささぐる



さーさぐるみざにうけたまひて
 わーがみわがたまわがわさみな



わがつみゆるしとこよのいのち
 きよめたまひてみくらにをさめ



ちーちなるかみよさづけたまへ
 あーめにゆくみちもらせたまへ

あめに往くみち	きよめたまひて	わが身わがたま	二 供物とともにぞ	ちちなるかみよ	我がつみゆるし	ささぐる御座に	一 きよくたふとき
守らせたまへ	御藏にをさめ	わがわさみな	いまささぐる	さづけたまへ	常世のいのち	受けたまひて	みいけにへを

いーざわがのぞみ わがいのちよ
 いーさをしもなく 主をむかへな
 みをふさばしく きよめたまひて
 こーよなきめぐみ さづけたまへ

いざ我がのぞみ
 わがいのちよ
 いさをしもなく
 主をむかへな
 身をふさはしく
 きよめたまひて
 こよなきめぐみ
 さづけたまへ

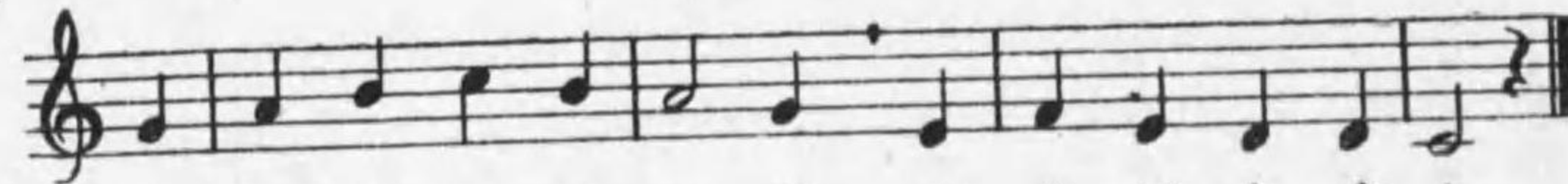
つみびとーなーるみを すくはんためーにと
 じふじかにーつーきてー ながしまししーちを
 をしへのまにーまにー ひごとささげーつつー
 すくひのみーめーぐみを こひねがひまーつる

つみびとなる身を
 すくはんためにと
 十字架につきて
 ながしましし血を
 をしへのまにまに
 日ごとささげつつ
 すくひのみ恵みを
 こひねがひまつる

奉獻より聖變化まで



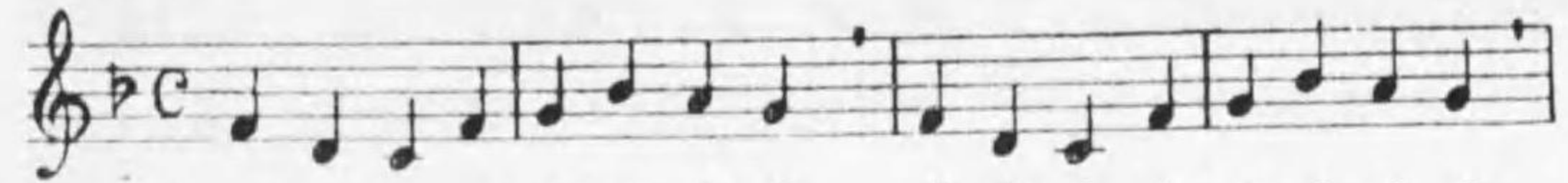
1. いーまはのゆふーげをはりまして
 2. こーはわがからーだこはちしほぞ
 3. かーみのひとりーごはしらつかせ



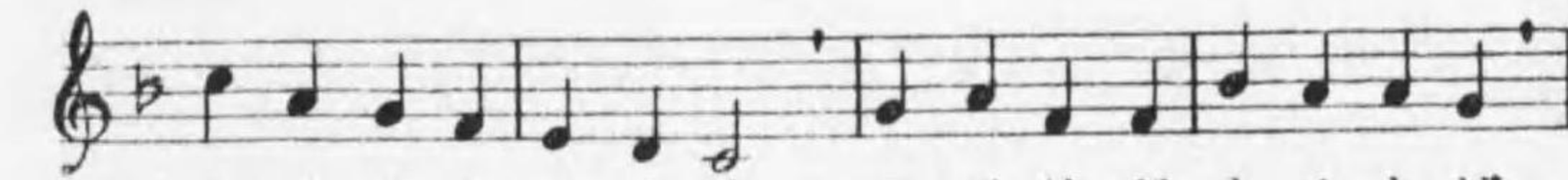
かみのこひつじのりてたまふ
 とこはのかたみまもりつげと
 いさをなきみをすくひたまふ

一 いまはのゆふげをはりまして
 かみのこひつじ 宣りて賜ふ
 二 「こは我がからだこはちしほぞ
 とこはのかたみ まもり繼げ」と
 三 かみのひとり子 はしら附かせ
 いさをなき身を すくひたまふ
 四 主よ主よゆめな わすれやする
 あいしまつらな そのみことば
 五 すくひのみかみ くしき犠牲よ
 わが身わがたま きよめたまへ

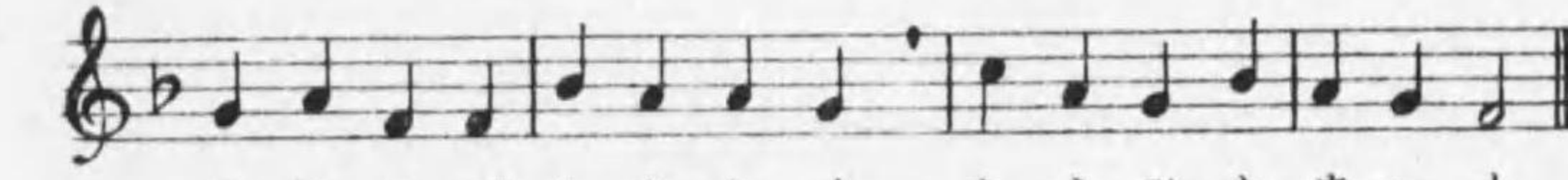
入祭文より福音まで



1. みいつかぎりなき あめなるみちちよ
 2. くすしきにへして あなたふとみこは



かしこみのらく みはけがしかれば
 いましめのらく これよわがからだ

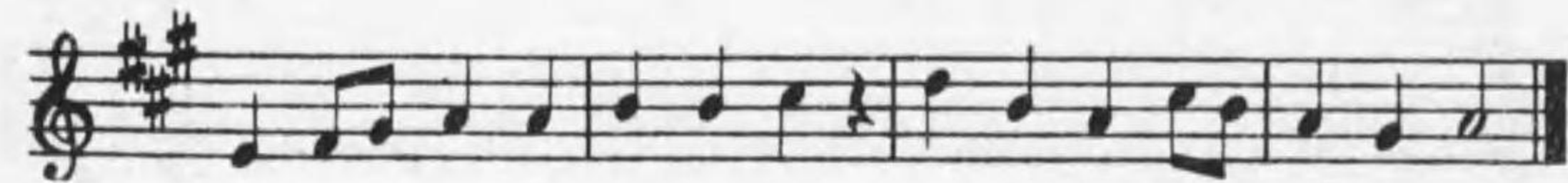


ゆきのごときよく あらひたまへと
 いでとりくらひて いのちをえよと

一 みいつ限りなき あめなるみ父よ
 かしこみ禱らく 身は穢しかれば
 雪のごときよく あらひたまへと
 二 奇しき犠牲して あな尊と御子は
 いましめ告らく これよわが聖體
 いで取り喰ひて いのちを得よと
 三 御燈光さゆらぎ 燻もののけぶり
 しめし告ぐらく まことの祈りは
 大御座のまへに とともにのぼると

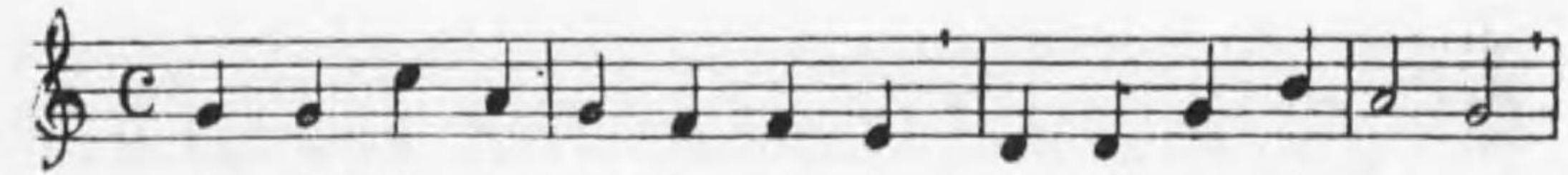


1. わがたまのかてとこしへの主を
2. 主にありいくるかよわきわれは

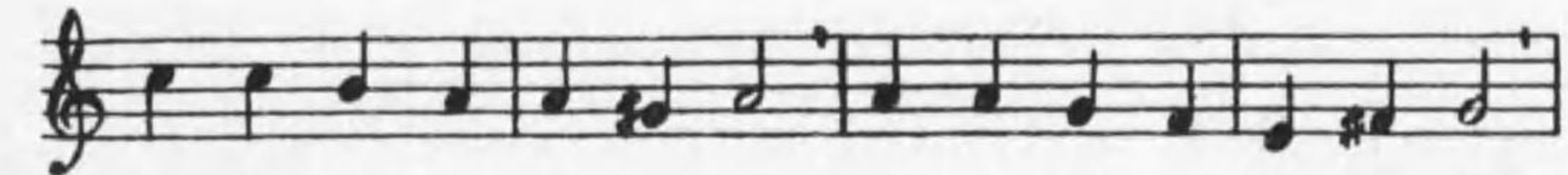


こころにうけていのちをえまし
そのちとにくにちからをえまし

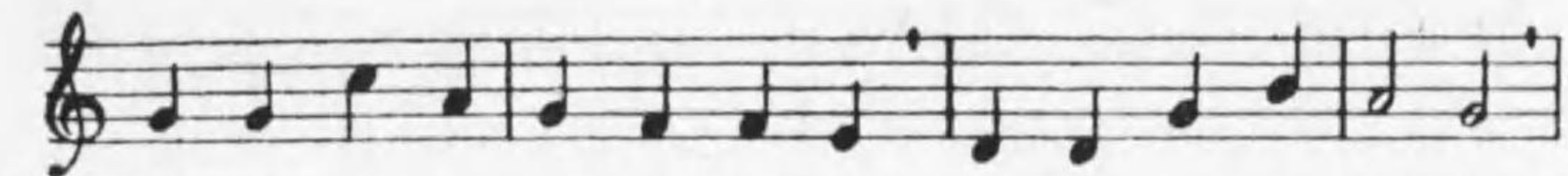
六	五	四	三	二	一
主よ あらねがはつくばり 全 生きこころを	いざ われも身 <small>み</small> を棄 <small>す</small> て そなへはなりぬ 新 <small>あら</small> たに生 <small>い</small> きな	かくもけがれし きよめたすけて いやしきわれを 賜 <small>たま</small> ひしいのち	きみ我 <small>わ</small> がために いけにへとなり 賜 <small>たま</small> ひし誓 <small>ちか</small> 詞 <small>ひ</small>	主 <small>ま</small> にあり生 <small>い</small> くる その血 <small>ち</small> と肉 <small>にく</small> に かよわきわれは ちからを得 <small>え</small> まし	わがたまのかて こころに受 <small>う</small> けて とこしへの主 <small>ま</small> を いのちを得 <small>え</small> まし



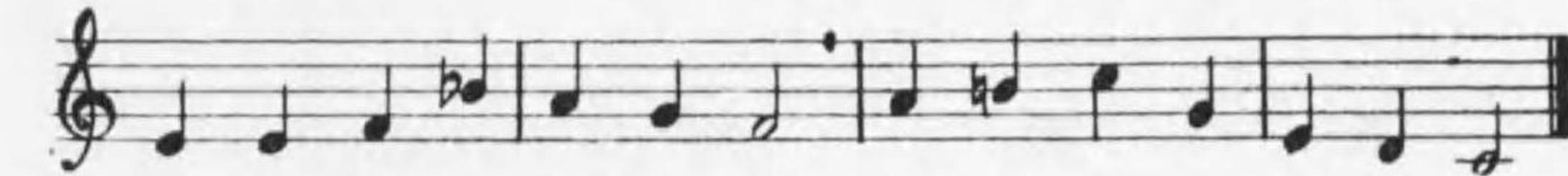
もろびとひれふしをがみまつれ



あもりきませるすくひぬしなり

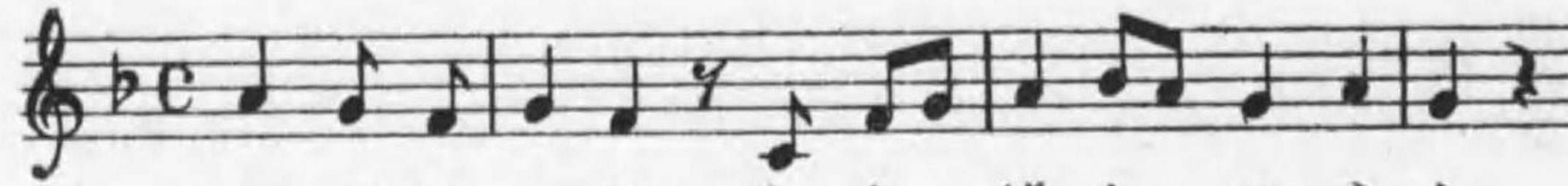


すくひといのちをたまへる主ぞ



いかでかわれらまつろはでやは

もろ人 <small>ひと</small> ひれふし	をがみまつれ	天 <small>あ</small> 降り來 <small>き</small> ませる	すくひぬしなり	救 <small>すく</small> ひといのちを	たまへる主 <small>ま</small> ぞ	いかでかわれら	まつろはでやは
----------------------------	--------	---	---------	----------------------------	--------------------------	---------	---------



1. いけにへを さきさげまつらふ
 2. わがために いのちうちすて
 3. あさごと に ささぐるにへに



みあるじの みなはかをらなる
 すくひます めぐみむくゆる
 わがつみを ゆるすみむねの



ちよにやちよに
 いけにへぞよき
 あやにたふとき

五	四	三	二	一
めぐみの 偲ばゆ かみの家ぬち	そら焼きの たゆたひて	絶えぬミサの うれしきまつり	にへの例しを 世に繼ぎて	十字架の あやにたふとき
あさごと に	献ぐる犠牲に わがつみを	ゆるす御旨の あやにたふとき	わがために すくひます	わが主わが かみよ
御名は薫ら な	千代に八千代に	みあるじの	いけにへを	きみをとこしへに



1. うけしみめぐみの 主のにくとちしほ
 2. わがたまめさめて みたまのみつるぎ



けがしきこのみを きよめいかしめぬ
 かざしたたかはな きよきみいくさよ

三	二	一
わが主わが かみよ	わが靈魂めさめて みたまのみつるぎ	受けしみめぐみの 主のにくとちしほ
きみをとこしへに	かざしたたかはな きよきみいくさよ	けがしきこの身を きよめ生かしめぬ
たたへさせたまへ		

1. あいの主よーいーまぞきーたりーて
 たたなーはるーつみのくもがきー
 うーちはーらひーまーせー
 りかへし
 ああイエズスきよきさがもて
 いくーそたびそーむきしわーれをー
 ちちーのてにかーへしたまーひしー

一 あいの主よ
 いまぞ来りて
 たたなはる
 罪のくもがき
 打ち拂ひませ
 (をりかへし)
 ああイエズス
 きよき性もて
 いくそたび
 そむきし我を
 ちちの手に
 かへし給ひし
 二 わがかみよ
 身の卑しければ
 まかなひに
 見こそ奉らね
 信じまつれる
 三 しろたへの
 ホスチアの色の
 くちびるに
 觸て来ますか
 尊とし我が神

1. けがしきめにこそ見えね われらのかてとなり
 こもりませるイエズスこそ われらにきましけれ
 りかへし
 かしこし主ぞきます いざむかへまつらん
 われをぞわがころをぞ きよけくそなへして

一 汚しき眼にこそ見えね
 我等の糧となり
 籠りませるイエズスこそ
 我らに來ましけれ
 (をりかへし)
 かしこし主ぞ来ます
 いざ迎へまつらん
 われをぞわが心をぞ
 きよけく備へして
 二 水なきあら野のはなよ
 萎るるわが心
 ひでりに待つ雨のごと
 我身に降りませ
 三 ちからのかぎりぞ備へ
 慎しみ盡さめど
 うたて我が靈いのらな
 み母よ助けませ

をりかへし



わたしのむねにきてちやうだいな



いつもなつかし イエズスさま



1. しろいホスチア イエズスさま
2. ここのおうち はかみさまの



なつかしうれし いただきます
いつもおいでのおうちです

(をりかへし)

四	三	二	一	
わたしのそばに	わたしのころ	ここのおうちは	しろいホスチア	わたしのむねに
はなれず	をりをりに	かみさまの	いただきます	いつもなつかし
ぬてちやう戴	直して頂戴	おうちです	イエズスさま	きて頂戴

をりかへし



あめつちの主よーいまぞ



われにきていのちのかてーとーなり



たまひけらしかしこしたふとし



1. よよのひじりたちもかくこそありけれ



くすしきーみかてにつよーくきよーく

(をりかへし)

四	三	二	一	
君のみこころに	犠牲となりにし	飢ゑにし我靈も	世々の聖者達も	あめつちの主よ
いつきかへる	きよなる生命	行く手の仇をば	くすしき御糧に	いのちのかてと
	生なんとはに	うちて勝なん	つよくきよく	かしこし尊とし
	あらたなる我ぞ	ちから彌まさり	斯こそありけれ	なり給ひけらし
		うちて勝なん	つよくきよく	今ぞわれに來て

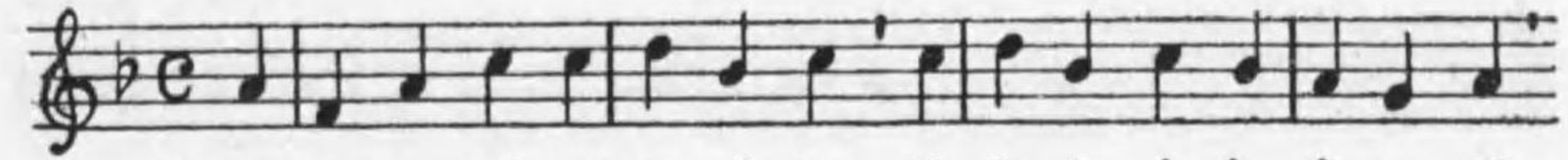


1. やみぢにさまよひ いためるわれらは
 2. なみだのたにをば あへぎゆくぞうき
 3. あめなるみちちよ かなしむわれらの

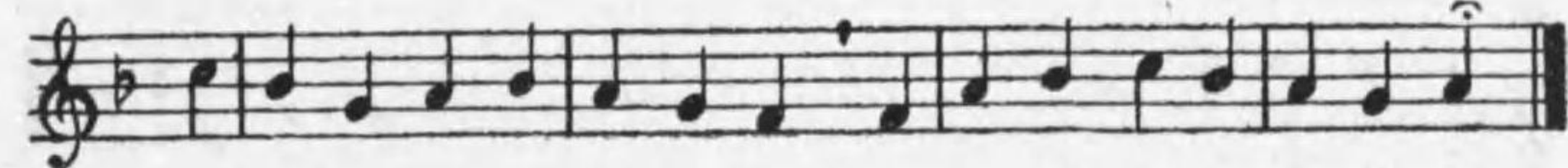


すくひのひかりをかわきまぢのぞむ
 すくひのきみはもいづこにかおはす
 せちなるいのりにみかほなそむけそ

一 闇路にさまよひ 傷めるわれらは
 二 なみだの谷をば 喘ぎゆくぞ憂き
 三 あめなる御父よ かなしむ我等の
 四 切なるいのりに み顔なそむけそ
 五 かみ我が御神よ とく降したまへ
 六 絶えざるみ光り ぬばたまの闇に
 七 平和のほぎうた たたかひの蒼
 八 われらの望みよ 永久の慰さめよ
 九 天なるすくひを とく降したまへ



1. よろこびのいづみ はやとくわきいで
 2. さきはひのあめよ いまかふりしきり
 3. まことのひじりよ あけほのもたらし

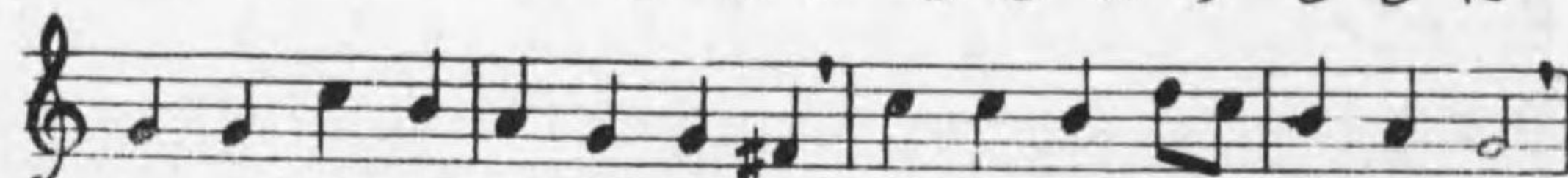


かわけるこころに おとづれたまひね
 のろはれしつちを あがひきよめこそ
 とよひかりしめせ めもあやにさやに

一 よろこびの泉 早とく湧きいで
 二 さきはひの雨よ 今か降りしきり
 三 まことの日知よ あけほの齋らし
 四 露はみめぐみの 玉しき充たさば
 五 天なるひかりよ いさやとく來ませ
 六 望みいやたかく 我等まつものを
 七 あを人草はも 息づきてあらなん
 八 とよ光り示せ 眼もあやに明に
 九 ぬばたまの闇に ぬばたまの闇に
 十 平和のほぎうた たたかひの蒼
 十一 われらの望みよ 永久の慰さめよ
 十二 天なるすくひを とく降したまへ



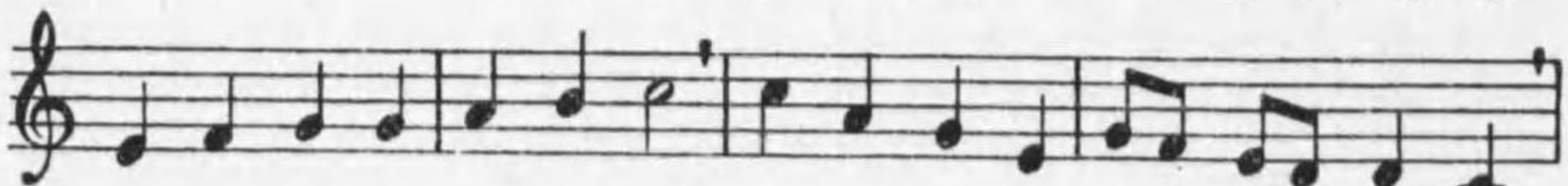
1. みめぐみふらせよ おほぞらのくも
 2. ひじりらのいのり あめにひびかひ
 3. あいといのちなる あめつゆしじに



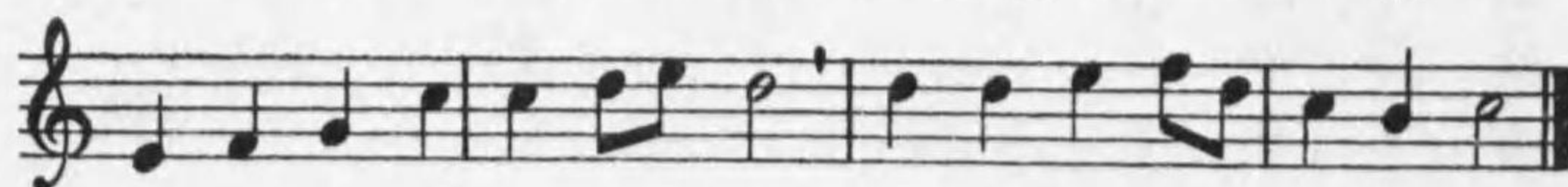
あまといでましてメシアよーきませ
 つかひはマリアに おくられーにけり
 しんりのまひかり あさひとーてりぬ



けがれにしづめる よをあがひたまふ
 みたまのちからやをとめにやどりて
 やよしのゆふかけ なげくこらはしも

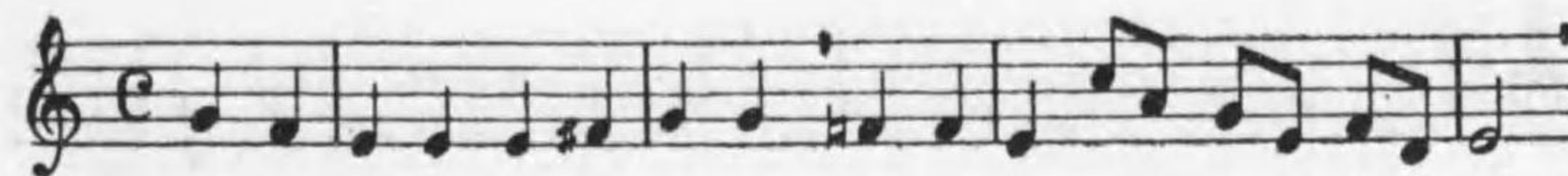


きみをばみまく たみのいのれーばー
 かみのみここそあもりましーしーかー
 きたりいきづけ このにはのーべーにー



きみをばみまーく たみのいーのれば
 かみのみここーそあもりまーししか
 きたりいきづーけ このにはのべに

歌詞は前頁と同じ(但し各節の四行目は復唱)



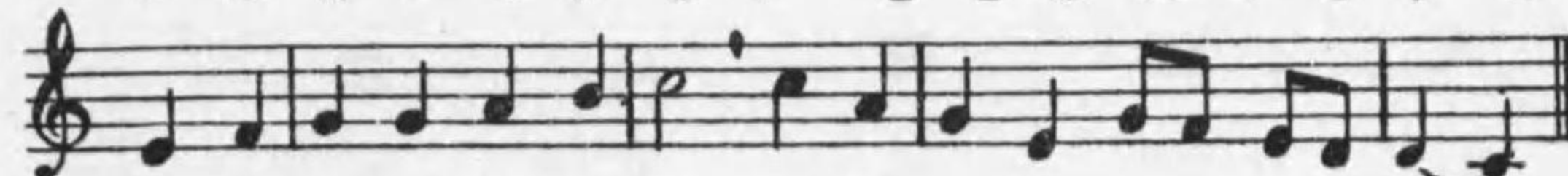
1. みめぐみふらせよ おほぞらーのーくーも
 2. ひじりらのいのり あめにひーびーかーひ



あまといでましてメシアよーきーまーせ
 つかひはマリアに おくられーにーけーり



けがれにしづめる よをあがひたまふ
 みたまのちからやをとめにやどりて



きみをばみまく たみのいのれーばー
 かみのみここそあもりましーしーかー

三

二

一

来 ^き たりいきづけ	や ^し 死 ^し の ^ゆ 夕 ^ふ かけ	眞 ^{しん} 理 ^り の ^ま ま ^ひ かり	愛 ^{あい} といの ^ち なる	か ^か みの ^み 御 ^ご 子 ^こ こそ	聖 ^み 霊 ^{たま} の ^ち からや	天 ^{つか} 使 ^ひ は ^マ リ ^ア に	聖 ^ひ 者 ^じ 等 ^ら の ^い のり	き ^き みを ^ば 見 ^み まく	汚 ^け れに ^し づ ^め る	天 ^{あま} 戸 ^と い ^で ま ^し て	み ^み 恵 ^{めぐ} み ^降 ら ^せ よ
この ^な 庭 ^は の ^べ に	歎 ^{なげ} く ^こ 子 ^ら 等 ^は しも	あ ^あ さ ^さ ひ ^と 照 ^て り ^ぬ	あ ^あ め ^め つ ^つ ゆ ^ゆ 繁 ^し に	天 ^あ 降 ^も り ^ま し ^し か	處 ^を 女 ^と に ^や ど ^り て	お ^お く ^く ら ^れ に ^け り	あ ^あ め ^め に ^響 か ^ひ	た ^た みの ^い の ^れ ば	世 ^よ を ^贖 ひ ^た ま ^ふ	救 ^{すけ} 主 ^{しゅ} よ ^來 ま ^せ	大 ^{おほ} ぞ ^ら の ^く も

世のひとを
あまつ御國へ
しるべして
率ゐたまはる
君にしあれば
五
ひさかたの
天の扉あくる
おときかば
禍津國の門
破しを見なん

22

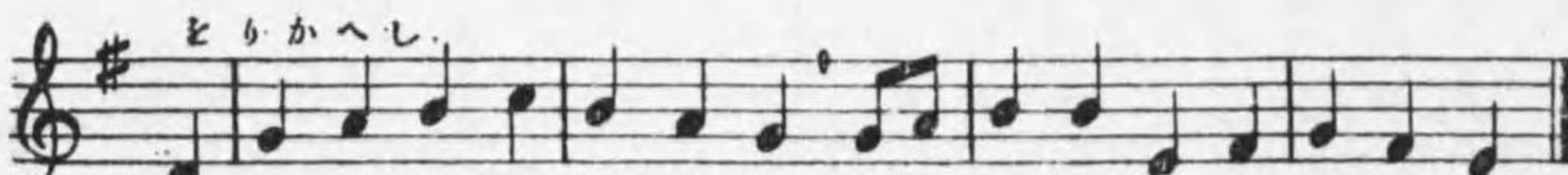
待降節



1. きませすくひぬし あめのかどいでて



みめぐみもたらしよびとすくひませ

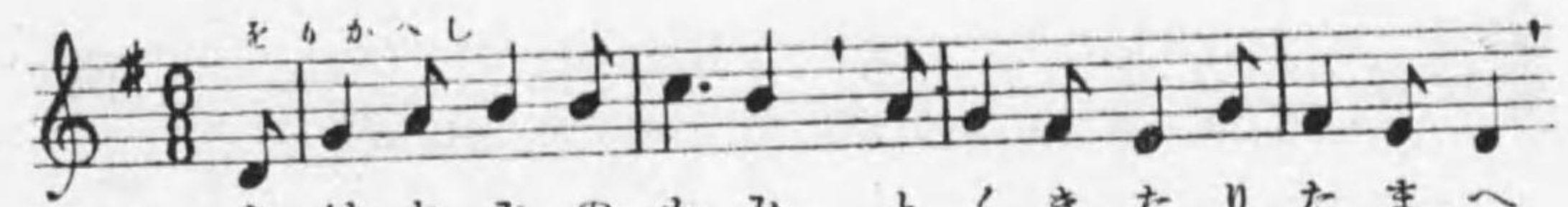


よるこびはわきてゑみのまゆひらかん

一 來ませ救ひ主 天の門いでて
み恵み齋らし 世人救ひませ
(をりかへし)
喜びは湧きて 笑の眉開かん
二 來ませ救ひ主 君が光りもて
道ゆき惑へる 民を照しませ
三 來ませ救ひ主 愛のみ翼に
我等を育くみ 涙ぬぐひませ

待降節

21



あはれみのかみとくきたりたまへ



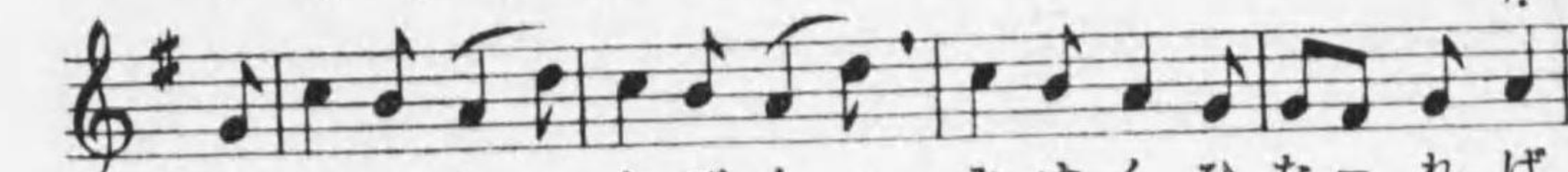
よはこぞりていつきま一つらなん



あめなるみこ 1. ぬばたまの
2. みいかりは



やみよにさけぶよのひとを
やはらぎましてみゆるしの



あめにみちびくみすくひなれば
みことたまはるたよりにませば

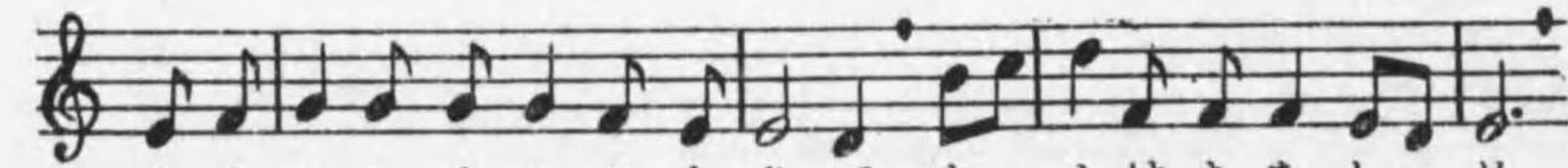
(をりかへし)
あはれみの神
とく來り給へ 世はこぞりて
齋き奉らなん あめなる御子
一 ぬばたまの
闇夜にさけぶ 世のひとを
あめに導びく み救ひなれば
二 みいかりは
和らぎまして みゆるしの
御言たまはる 便りにませば
三 世のなやみ
春日にとけて ひとみな
涙ぞ消ゆる 幸の日なれば



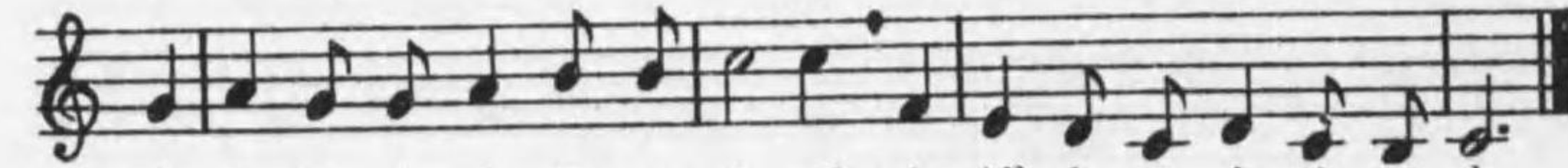
1. きけたへなるしらべ よろこびのこゑを
2. をとめこそはマリア まづしきうまやに



ひなにもみやこにもひびかふそのうた
たびのやどりさむみみこはあれましぬ



ちちのみちかひなりてきよけきをとめ
あめつちつくりしきみかよわきたみの



うるはしきみこをぞあげさせたまひし
こころにきたりてしみやゐぞかしこき

<p>三 曙光ほのぼのと 御民のかなしみは のぞみとあいと信 世は常しなへなる 夜は明はなれて よろこびに變り ゆたかくそだち 春をぞことほぐ</p>	<p>二 處女こそはマリア たびのやどり寒み あめつち造りし君 こころに來りてし みや居ぞかしこき 貧しきうまやに み子は生ましぬ かよわきたみの 宮居ぞかしこき</p>	<p>一 きけ妙なるしらべ 鄙にもみやこにも 父のみ誓ひなりて 麗はしき御子をぞ よるこびの聲を 響かふそのうた きよけきをとめ あげさせ給ひし</p>
---	---	--



1. ふけゆくしじまをまきのそらゆ
2. かみにはみさかえちにはやすき



はるかにきこえくたへなるほぎうた
としへなれとふうたごゑしるけみ



みつかひやうたふしらべぞよき
はするまきもり主をやしりし

<p>四 いく年かぞへて おもひ出うれしみ うたひや明かす 代々のその日 主を偲ぶ我等 直にあふまで</p>	<p>三 尊とき御子はも まぶねに在はして ゆめなやぶりそ いまは馬屋の 熟睡ぞ安けき よるのあらし</p>	<p>二 神にはみさかえ としへなれとふ 走するまきもり 地にはやすき 歌ごゑ著けみ 主をや知りし</p>	<p>一 更ゆく静寂を はるかにきこえく みつかひやうたふ まきのそらゆ 妙なる祝ぎ歌 しらべぞよき</p>
--	--	---	--



1. みそらゆく みつーかひの
 2. よるののにと きーならで
 3. やよこらよ すくーひぬし

つばさかはしよきおとづれ
 かがよひくるそのひかりに
 うまやぬちに あれますぞと

もたらしつつく だりくる
 ゆめやぶるまきばもり
 つぐるはたぞあまつかひ

四 わがこころくらきとき
 みつかひ来よ光り出でよ
 へりくだりて吾が待てば

三 「やよ子等よすくひぬし
 うまやぬちに生ますぞ」と
 告ぐるは誰ぞあまつかひ

二 輝よひくるその光りに
 ゆめや破るまきばもり

一 みそらゆくみつかひの
 つばさ交はしよき音づれ
 もたらしつつくだり来る



1. みこそいぶーせきまやーにあれ
 2. なはわがまーなご主はーのりぬ

あまつみくーにの かみーなれや
 けふぞうみーけりちちーのみの

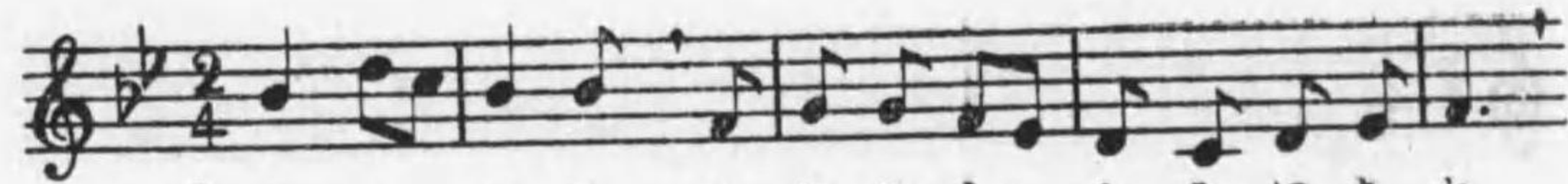
たへーなるひかりかがやきて
 ちちーこそはかみははそばの

よもはめーでたきしるしあり
 みはははーマリアとをとめ

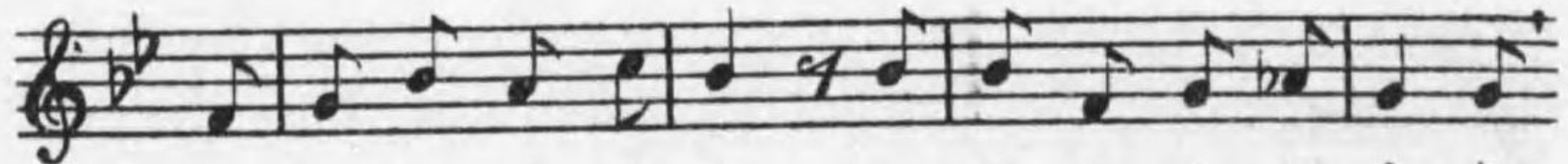
一 身こそいぶせきまやにあれ
 あまつみくにかみなれや
 たへなるひかりかがやきて
 四方はめでたきしるしあり

二 「なはわが愛子」主は宣りぬ
 「けふぞ生けり」ちちのみの

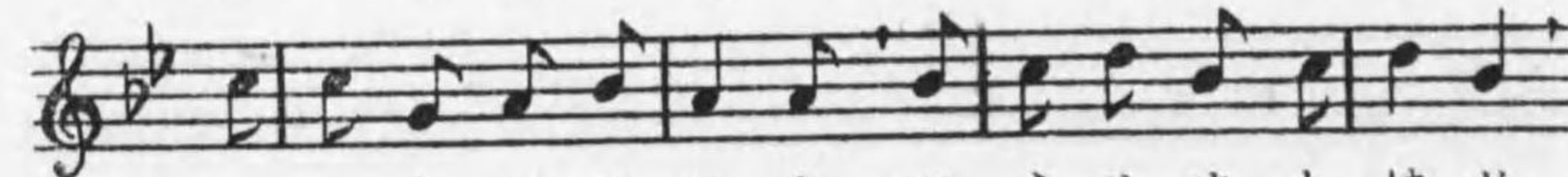
三 ちちこそはかみははそばの
 み母はマリアとをとめ
 なみだに充てるうつそみの
 世は咲くはなのさにづらふ
 わがおほぎみのしろしめす
 御代とはなりぬほぎまつれ



1. あめ-には みさかえ-かみにあれ
2. か-し-こし かみのひ-とりごなる



ちにみめぐみよきひとにあれて
主はうまれぬみくらをすてて

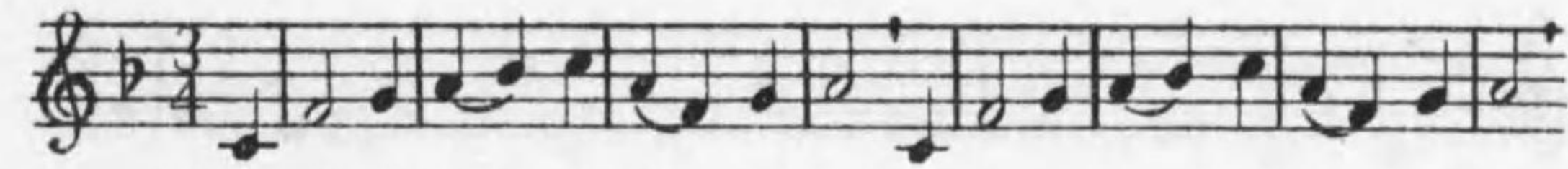


へいわこそいまのらせましけめ
ひととなりしぞともよことほげ



みつ-か-ひ-の-うたふ
いざ-や-も-ろ-とも

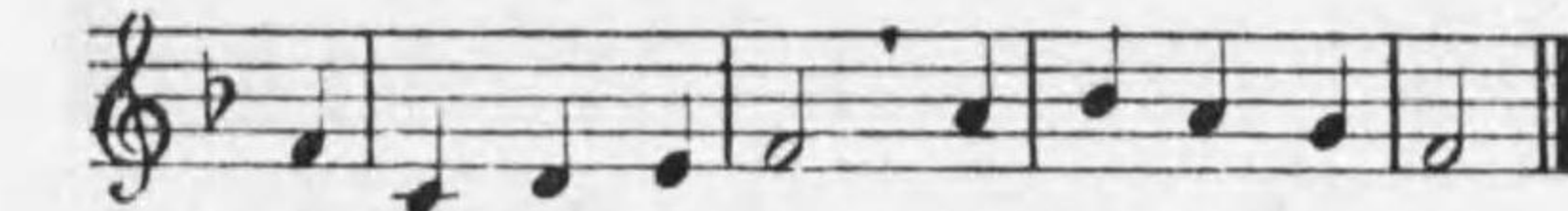
<p>三 世のひとと 歌ひ奉れ永久に 憂きは去りて よろこび來ぬと 眠ります御子 拜みまつれよ まぶねに在はせば</p>	<p>二 かしこし 神の獨り子なる 主はうまれぬ 御座をすてて 人となりしぞ 友よことほげ いざやもろともに</p>	<p>一 あめには み榮え神にあれ 地にみめぐみ よき人にあれ 平和こそいま 宣らせましけめ みつかひのうたふ</p>
--	--	---



1. あれきこ-ゆる-うたあめより-ぞも-るる
2. よをすく-ひの-かみけふあれ-まし-ぬと
3. みあれの-よは-にはひつじは-のに-あり



か-みにはさか-え ち-にはよるこ-び
ひ-つじかひた-ち し-めされしめ-し
ほ-しはみそら-に あ-はれときよ-の



とこしへに あれかしと
うちゑみて かけめぐる
みすくひの さちをつぐ

<p>五 あやに畏かしと ぬかつくわらべ きよくこそ</p>	<p>四 いざ入りて 見よ見よ御母 み生のありしは この御厩なりや 御子ともに在す ふしをがまん 御子の稜威ほめ なみだや落つる さきくこそ</p>	<p>三 降誕の夜半には ほしはみそらに みすくひの さちを告ぐ</p>	<p>二 世をすくひの神 ひつじかひたち うち笑みて かけめぐる 示されしめし けふ生ましぬと</p>	<p>一 あれ聞こゆる歌 かみにはさかえ とこしへに あれかしと 天よりぞもるる 地にはよろこび あれかしと</p>
--	--	--	---	--



1. すくひのみこはけふあれましぬ
 2. まぶねはちさくうまやはせまし
 3. あまつみくにのさかえすてぞ

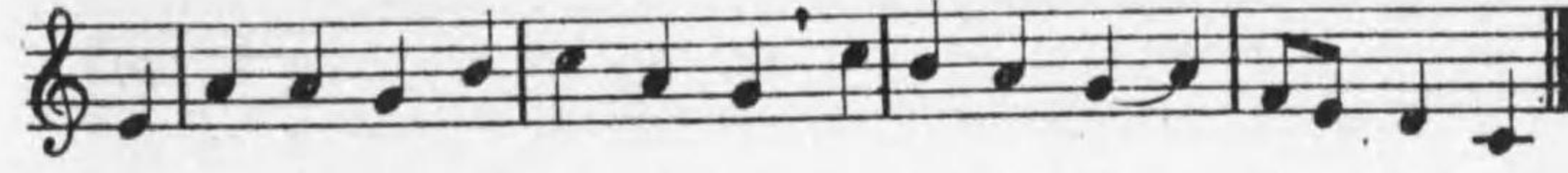


わがよのつみのあがなひのため
 わらをまくらのしとねやさむき
 しづがふせやにあまくだりたる

一 すぐひの御子は 今日あれましぬ
 わが世のつみの あがなひのため
 二 まぶねは小さく うまやはせまし
 わらをまくらの しとねやさむき
 三 あまつみくにの さかえ棄ててぞ
 しづが伏屋に あまくだりたる
 四 すさめるころ このとに來て
 まぶしきとみに まなこ見はるか
 五 小百合にまがふ みどり子のはだ
 しづのあらぎぬ おほひかねつも



1. やみにすむひーとよろこびのーくにの
 2. しかげゆくひーといのちのしーみづの
 3. ただしきとあーいもたらしたーまへる



あけゆくみそらにはなてよーまーなこ
 わきいづるみずやむすびてーのーめよ
 すくひのみここそとはのきーみーな

一 やみに棲むひと よろこびの國の
 明けゆくみ空に 放てよまなこ
 二 死蔭ゆくひと いのちの清水の
 湧出づる見すや 掬びてのめよ
 三 ただしきとあい もたらし給へる
 救ひの御子こそ とはの王なれ
 四 かみにはさかえ 人にはめぐみと
 聲もたからかに うたふを聞けや
 五 愛しけやし御子 たのしき國をば
 石づゑしかたく まもりたまひね

あはれ目覚めば
おどろいばら
つみなき君に
せまり來らし
いとほしの御子
わがつみゆるし
事へまつるべき
道しめしませや
その尊ときみち

四

34 御降誕



1. ものみなねむるしづーけきよは
2. そのほぎうたにまきーばもりら
3. かみのみくにをとはーにしらす



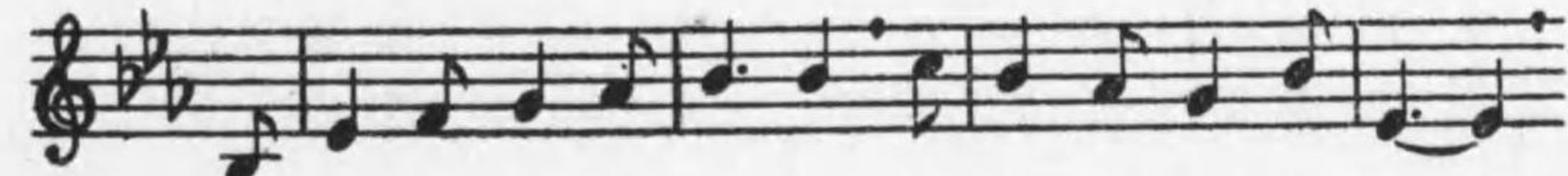
かみのまーなごーぞよにーあれます
こころをーどりーつゆきーてをがむ
みこなりーわれーもいつーきまつらん

三	二	一
御 ^み 子 ^こ なり我 ^{われ} も	かみの御 ^み 國 ^{くに} を	かみの御 ^み 國 ^{くに} を
齋 ^い きまつらん	とはに統 ^し 治 ^ら す	かみの御 ^み 國 ^{くに} を
	行 ^ゆ きてをがむ	このほぎ歌 ^{うた} に
	こころ躍 ^を りつ	まきばもり等 ^ら
		そのほぎ歌 ^{うた} に
		ものみな眼 ^め る
		しづけき夜 ^よ 半 ^は
		神 ^{かみ} のまな子 ^こ ぞ
		世 ^よ に生 ^あ れます

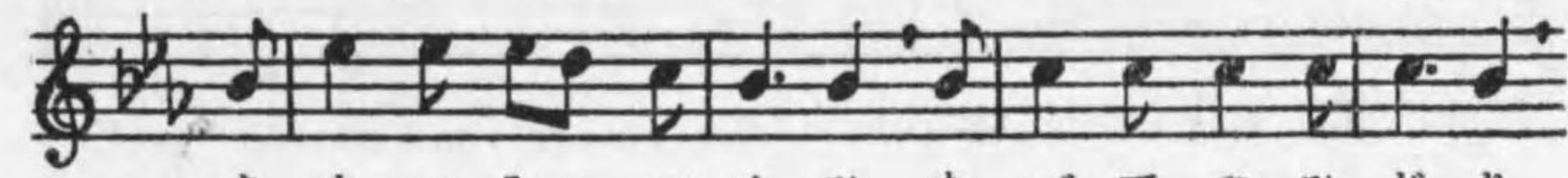
御降誕



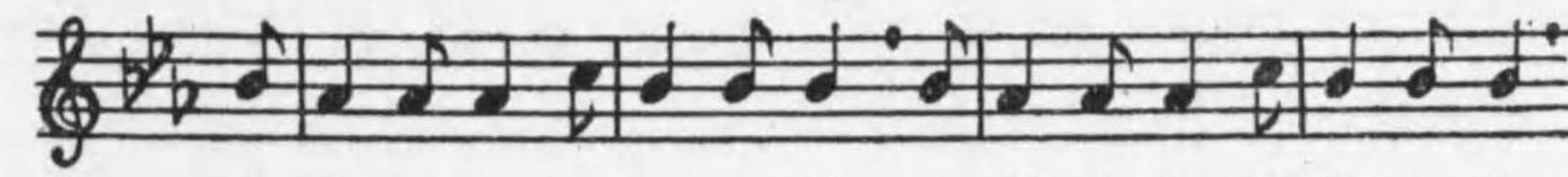
けふみあるじはあまくだりてー



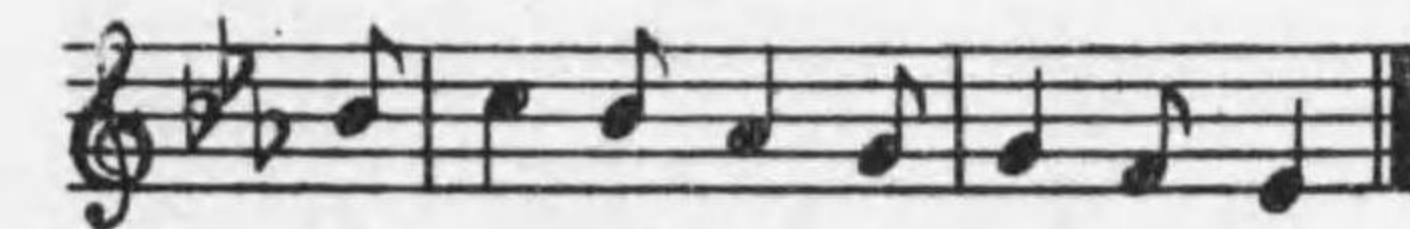
われらとともによにすみたまふー



あまつみーつかひなべてのひじり



われひとともにぞいざうたひまつらん



このうれしきひを

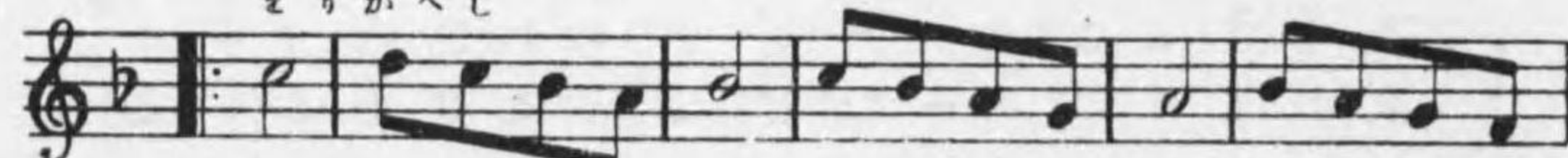
三	二	一
とこしへの國 ^{くに} に	求 ^{もと} め乞 ^こ ひにたり	ああみどりごよ
	もろびとかわき	禍 ^{わざ} 福 ^{ふち} みだれ
	なが愛 ^{あい} のいづみ	あへぎあへぎて
		くらき世 ^よ には
		なやみおほし
		うまいと安 ^{やす} ら
		傷 ^{きず} なき小 ^こ ひつじ
		あまつみかみの
		眉 ^{まゆ} 目 ^め うるはしく
		世 ^よ の憂 ^{うれ} き知 ^し らに
		みめいと匂 ^{にお} ひて
		夜 ^よ べ生 ^あ れませる
		御 ^み 子 ^こ をみれば
		きよきまな子 ^こ
		この嬉 ^{うれ} しき日 ^ひ を
		我 ^{われ} 人 ^{ひと} ともにぞ
		あまつみつかひ
		なべてのひじり
		いざ歌 ^{うた} ひ奉 ^ま らん
		われらとともに
		世 ^よ にすみたまふ
		あまくだりて
		けふみあるじは



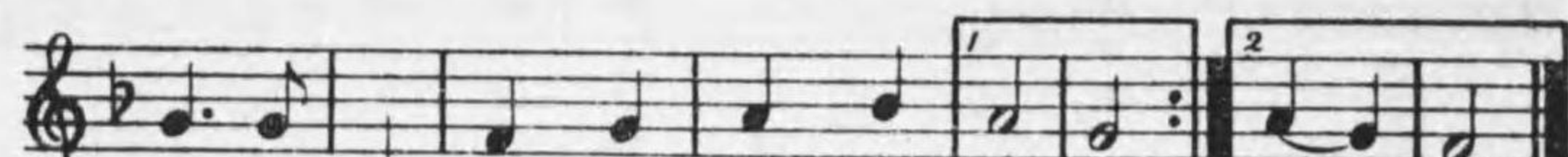
1. あふーげやあふーげや やみーにすむひーと
2. あめーつちのきーみは いまーぞあれまーす



あさーひとのぼーりて メシーアきませーり
よきーうたささーげて ことーほぎまつーれ
をりかへし



グロ



ーリ ア イン エク チエル シス デ オ デー オ

一 あふげや仰げや やみに住むひと
朝日とのぼりて メシア來ませり
(をりかへし)
グロリア イン エク チエル シス デ オ
(復唱)

二 あめつちの王は いまぞ生れます
よき歌ささげて ことほぎまつれ

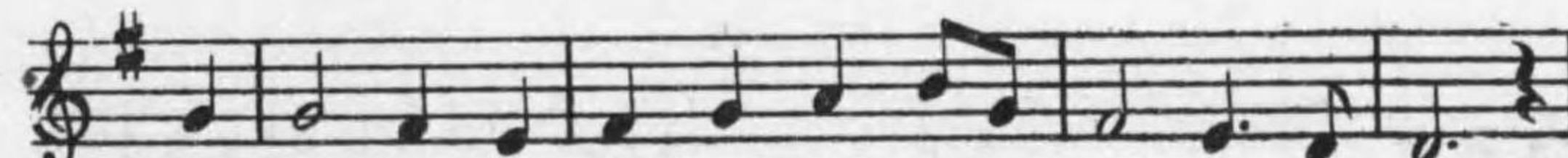
三 とこしへの生命 ほろびの子等に
與へてその身は 死ぬるみかみぞ

四 處女にやどりて いやしきすがた
いとひまさぬ君 あいぞたふとき

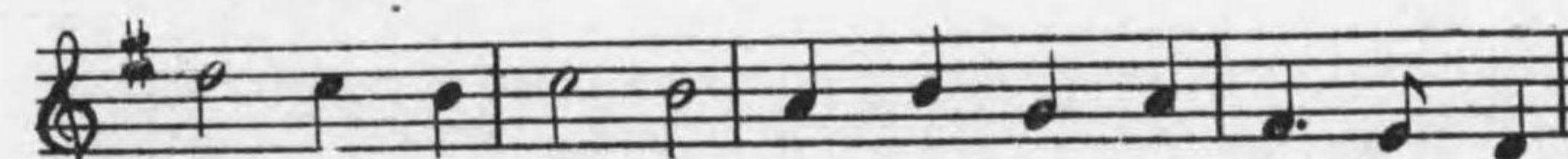
五 みちかひ違はず すくひはなりぬ
天地よこぞり よろこびあげよ



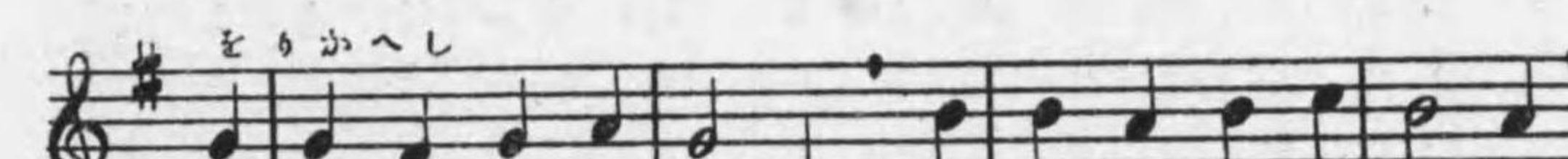
1. いざよのとーも うからやから



うちむれつどへベートレヘム

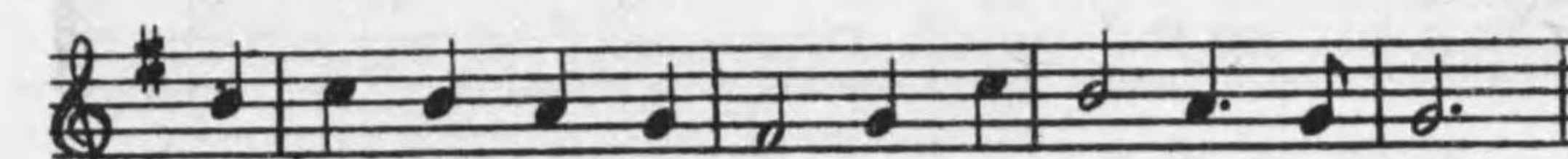


すくひぬしけふあれましぬ



をりかへし

きたりてをがめ きたりてをがめ



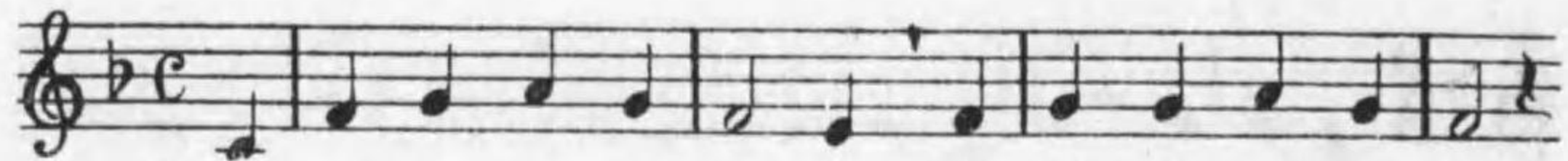
きたりてをがめキリストぞ

一 いざ世のとも 親族 家族
打ちむれ集へ ベートレヘム
すくひぬし けふ生まれぬ
(をりかへし)
來りてをがめ 來りてをがめ
きたりて拜め キリストぞ

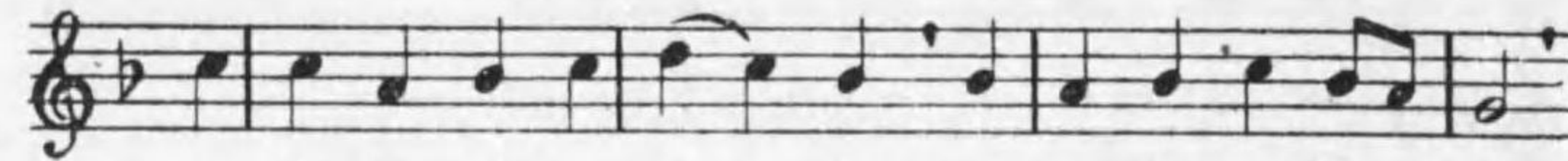
二 待ちにし主ぞ いそぎ來たれ
御馬屋の馬槽 初のとこ
ひととなり 神ぞ來ませる

三 日の御子いで 夜は明けゆき
死かげの闇は あともなし
ひかりより いでし光りを

四 世の悪しきは しりへに退き
愛のみかみぞ すべしらす
かがやきの 國こそ建てれ



1. すくひのみこは くだりませり
 2. あまつみかみの みめぐみをば
 3. まぶねにいます かみのみこを

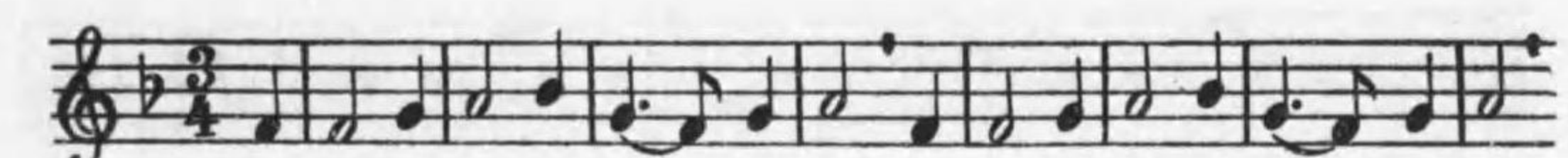


いざもろともーに うたひまつらん
 こぞりてわれーら たたへまつらん
 ときはかきはーに あいしまつらん

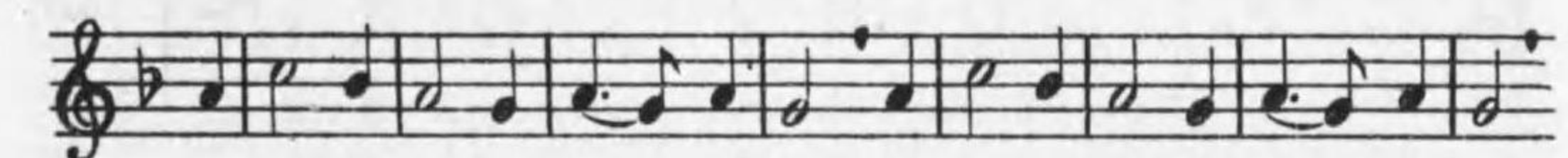


よろこーび うーたひーまつらん
 よろこーび たーたへーまつらん
 よろこーび あーいしーまつらん

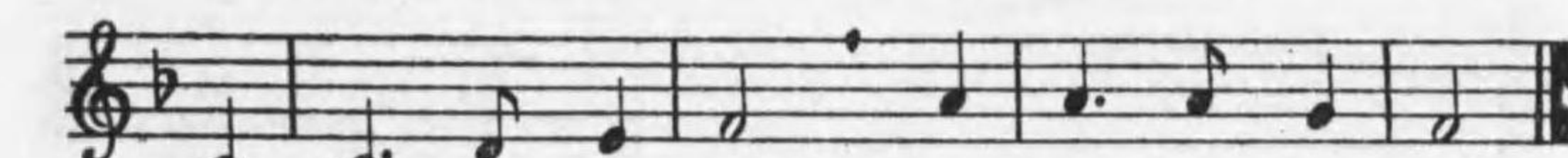
四	三	二	一
尊 <small>たふ</small> とき御子 <small>みこ</small> の わが身 <small>み</small> わが靈 <small>たま</small>	馬槽 <small>まぶね</small> にいます ときは堅磐 <small>かきは</small> に	あまつみ神 <small>かみ</small> の 舉 <small>こぞ</small> りてわれら	救 <small>すく</small> ひの御子 <small>みこ</small> は いざもろ共 <small>とも</small> に
よろこび	よろこび	よろこび	よろこび
みまへに伏し 献 <small>ささ</small> げまつらん ささげ奉 <small>ま</small> つらん	かみの御子 <small>みこ</small> を 愛 <small>あい</small> しまつらん あいし奉 <small>ま</small> つらん	みめぐみをば 讚 <small>たた</small> へまつらん たたへ奉 <small>ま</small> つらん	くだりませり 歌 <small>うた</small> ひまつらん うたひ奉 <small>ま</small> つらん



1. みまやのともーしびかそけくゆらーぎて
 2. あとにはちちーははめぐしみこまーもり
 3. あらしなさわーぎそなみなうちよーせそ



ひつじかひたーちはみかみをほめーつつ
 さしくるなみーだもとどめあへまーさで
 まづしくはあーれどよろこびあふーるる



かへりゆく よはしづか
 たふとしと のらせたまふ
 きよきさち さきくあれ

三	二	一
嵐 <small>あらし</small> なさわぎそ 貧 <small>まうし</small> くはあれど	あとには父母 <small>ちちはは</small> さしくる涙 <small>なみだ</small> も	みまやの燈火 <small>ともしび</small> 羊飼 <small>ひつじか</small> ひたちは
よろこび溢 <small>あふ</small> るる	愛 <small>め</small> ぐし御子 <small>みこ</small> 守 <small>まも</small> り 止めあへまさで	み神 <small>かみ</small> をほめつつ 夜 <small>よ</small> はしづか
ささきくあれ	宣 <small>の</small> らせたまふ	幽 <small>かそ</small> けくゆらぎて

1. らうたきみこのみまへにふし
2. すくひのためにあれましける

かしこみあふぎをがみまつる
しるひともなきわびしきまや

あめよりくだりていぶせきこのよに
みちちみははのみかしづきおはせり

いまあれまししみこをたへなん
ひとみなはなほふかくやねむる

三	二	一
いざもろびとよ みよ羊牧ひら あめのみつかひ 愛しきみどり兒 生れましぬと よろこび告ぐ 御子をや拜める ゆきて禮まへ	人みなはなほ み父み母のみ 侍づきおはせり ふかくやねむる	すくひのために 知るひともなき わびしきまや 生れましける
		いらうたき御子の みまへに伏し かしこみあふぎ をがみまつる 天よりくだりて いぶせき此世に いま生れましし 御子を稱へなん

ひーさかーたーの あめーにもーとよむ

こーとほーぎーの うたごゑーなれや

かみのこーあれぬ 1. みーちかーひーは

つゆたがーはじとーとーこしーへーの

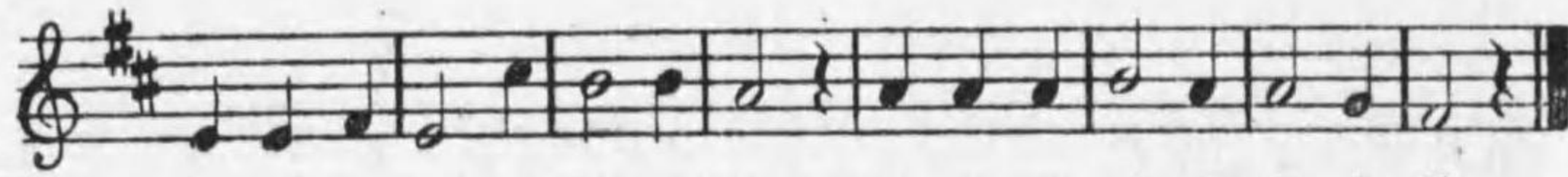
へいわのーきみぞーくにたたーしたる

(をりかへし)

三	二	一
あいの御國の 愛をしめしつ	つみの子は 悔のなみだの 生くる術なみ み救し乞へる	みちかひは 露たがはじと 平和の王ぞ 國立たしたる
		ことほぎの 神の子生れぬ
		あめにも響む うた聲なれや
		ひさかたの
		とこしへの
		たきつせに
		なほなほに
		なほなほに

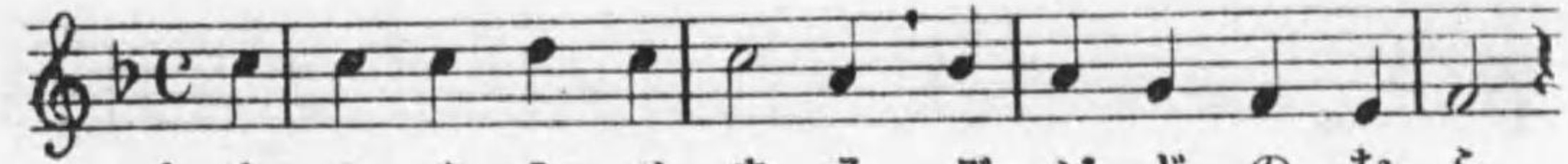


1. あふぐもたふとし みこイエズスのみな
 2. うたへどつきせぬ こほしきそのみな
 3. わするるときなく よもひもおもひて

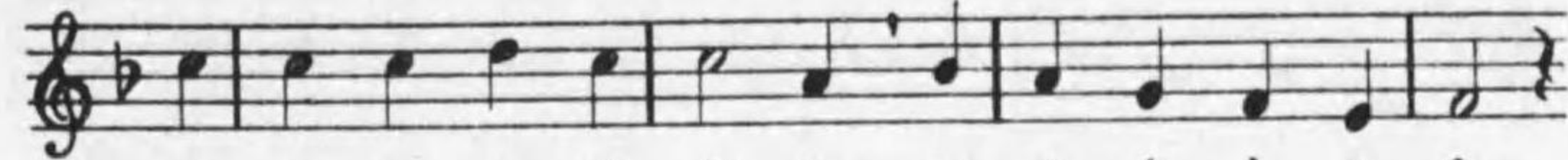


いづこにあるべき きみにまさるなは
 うたへど うたへど あかぬことばかも
 わがむねをどるよ かみのみななれば

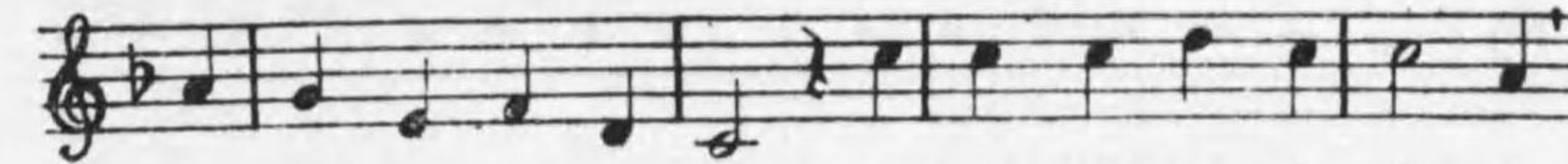
- 一 あふぐもたふとし み子(こ)イエズスの御名(みな)
 - 二 うたへどつきせぬ 戀(こ)ほしきその御名(みな)
 - 三 わするるときなく 夜(よ)も日(ひ)もおもひて
 - 四 その名(な)はいく千代(ちよ)
 - 五 かばかりたふとき イエズスの御名(みな)をば
 - 六 ちちみこみたまの 三(み)つのくらわなる
- かみの御名(みな)にこそ 世々(よよ)みさかえあれ



1. ゆふやみせまる ダビドのむら
 2. ともしびきえて さとびといね



なれぬたびぢにつかれしみを
 たまのひかりはさしいできぬ

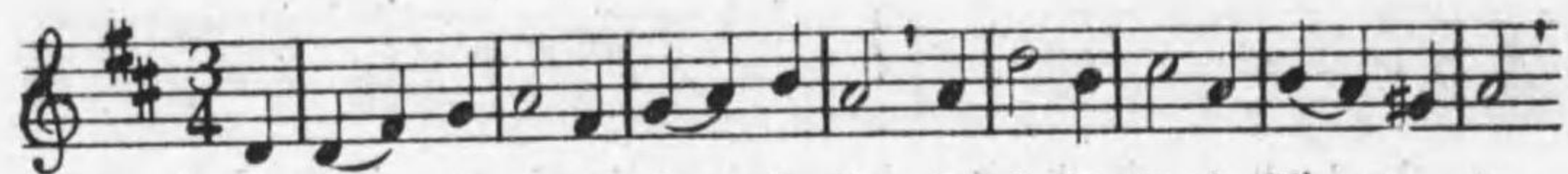


をとめマリア いこはせたまふ
 かみのみこぞ マリアはえある

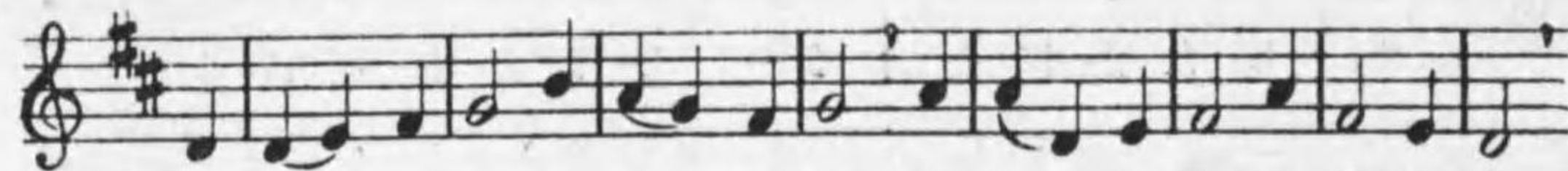


うまやのうち
 ははたりたまふ

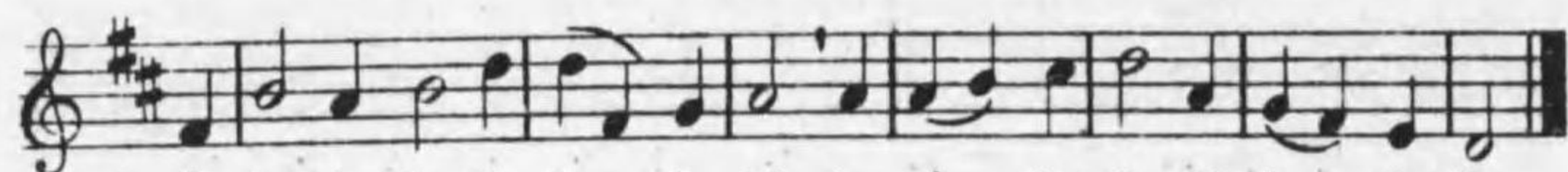
- 一 ゆふやみせまる ダビドのむら
 - 二 ともしび消えて さとびと寝ね
 - 三 ほしかげゆえて ふけゆく夜半
 - 四 いざやもろびと うたひまつれ
- なれぬたびぢにつかれし身を
 をとめマリア うまやのうち
 いこはせたまふ
 マリアの御子(みこ)ぞ 母(はは)たりたまふ
 さし出(いで)て来(き)ぬ
 そのよろこび
 をがみまつる
 美(うま)し母(はは)よ
 語(かた)りつたへなん とこしなへに



1. ひか-りもくす-しきほしにみちび-かれ
 2. はる-けきたび-ぢをベトレ-ムに-こし
 3. みく-さのゐや-しろみたりかしこ-みて



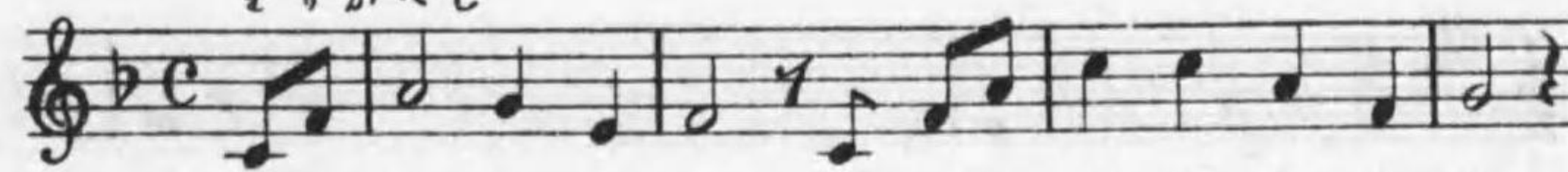
みた-りのはか-せらきた-りまみえたり
 もゆ-るそのの-ぞみその-あいたふとし
 おも-ひもゆか-しくたて-まつりしごと



われらもきみ-をぞたづ-ねをがま-まし
 われらもきみ-にぞここ-ろさきげ-まし
 われらもも-の-みなさき-げまつら-まし

	四	三	二	一
かみの正道に	暗き世のたびぢ のぞみの光りを	三種のゐやしる 思ひもゆかしく われらも物みな	燃ゆるその望み われらも君にぞ	光りもくすしき みたりの博士ら われらも君をぞ
かがやくそのほし	断えせずぞ見まし い行くわれらこそ	三人かしこみて たてまつりしごと ささげまつらまし	その愛たふとし こころささげまし	ほしにみちびかれ 來たりまみえたり たづねをがままし
			ベトレ-ムに來し	

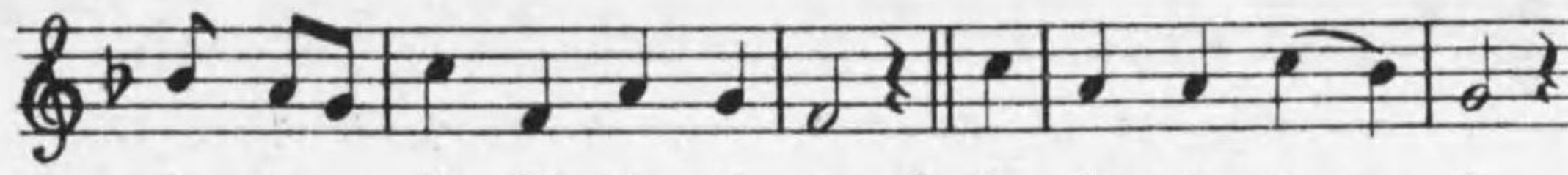
をりかへし



あ-はれこのきみ-がなをしる



う-れしさをかた-らひつがね



よ-の-をはるまで1.みなをこ-そ



かしこむひとにとどまら-な



のりのよろこびたとしへもなき

	三	二	一	(をりかへし)
燃ゆる心に	身は賤しけれ ちりひぢの	愛づる心に みことばを	御名をこそ かしこむ人に	あはれこの 君が名を知る
歌のながる	きみを思ひ 包みあへねば	なみだしぬ とどまらな	例しへもなき	うれしさを 語らひつがね
				世の終るまで

1. はしきみこーはも あもりいまーし
 2. ひがしのはーかせ ゐやしろもーち
 ベトレヘムーなる かりのみやーゐ
 みちはるけーくぞ たづねきたーる
 ゆきくのひーとの かげぞさびーし
 にうかうもつーやく こがねのはーこ
 くらゐあらなーく なもひーなざと
 なにをか しめーす とつくーにびと

三	二	一
こがねのかむり	ひがしのはかせ	愛しき御子はも
とこよの王	みちはるけくぞ	ベトレヘムなる
やすみししきみ	たづねきたる	行き來のひとの
さかえ棄てて	こがねのはこ	くらゐ有ら無く
世のなやみを	とづくにびと	名もひなざと
あいの乳香		
嘗むるもつやく		
憂きちりひぢの		

とりかへし

あもりーきます きみがみめぐみ われらーの
 へに ゆたかにぞふるー ゆたかにぞふるー
 1. おんしーめしー くすしきほしのー
 かげみーえてー なづさふきみはー
 ひなーざとに あれましにけりー

四	三	二	一	(をりかへし)
いみどり	みどり	博士	おんしめし	あもり來ます
ちはやに	いと知れず	はるぼると	かげ見えて	君がみめぐみ
知らぬ	教師等を呼びて	みやこにぞ來し	ひなざとに	豊かにぞ降る
人	三つの禮物	はしをしるべに	なづさふきみは	ゆたかにぞふる
		に狂ほしく	生れましにけり	われらの上に
			くすしきほしの	

とりかへし

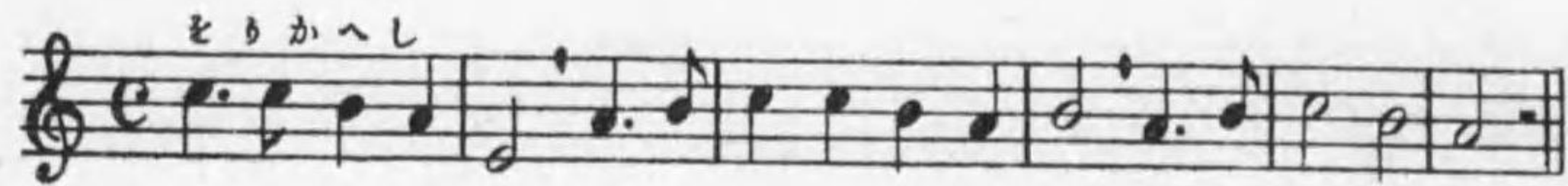
き - み なら - で た れ に か - ゆ か む
 と - こ し へ - の い の ち の - こ と ば
 よ に あ ら - な く に 1. い ざ さ ら - - ば -
 主 - に か へ ら - ま し - く い し み - - の -
 い - の ち こ ふ - べ き - か - た も あ ら - ね ば -

(をりかへし)

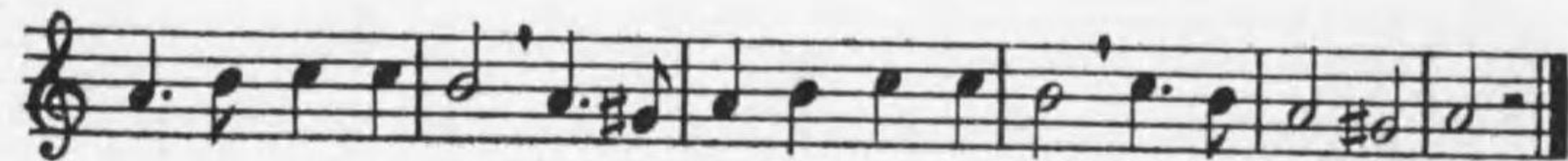
三	二	一
か さ ね て は	憂 し と 見 し	い ざ さ ら ば
又 悔 い な む と	日 も 有 け る を	主 に 歸 ら ま し
罪 を を か し ぬ	悟 り な り し か	命 乞 ふ べ き
泣 き に つ つ	た ま ゆ ら の	悔 い し 身 の
ま た さ ら に し て	ま た ま ど ひ ぬ し	方 も あ ら ね ば
		世 に あ ら な く に
		と こ し へ の
		誰 に か ゆ か む
		き み な ら で

1. ま ぼ - ろ し の - か げ を お - ひ し - わ が - た
 2. み ち - ち は と - ぼ そ に ゆ - び を - り ま - ち
 ま - あ は き ゆ め さ め て い ま ぞ か な - し き
 て - わ が な よ び た ま ふ う れ し き み - こ ゑ
 主 よ こ ひ ね が ば く つ - み の - み ゆ - る し -
 み む ね の ま に ま に こ - こ ろ - を さ - さ げ -
 い ざ - か へ り - ゆ か な あ - い の - ふ る - さ と -
 い ざ - や し た - が は な ん き - よ き - み こ - と ば -

三	二	一
悔 ゆる わが 胸に	み ち ち は 扉 に	ま ぼ ろ し の 影 を
憊 ぶ み か む り の	わ が 名 呼 び 給 ふ	淡 き ゆ め さ め て
血 潮 の い づ み に	み 旨 の ま に ま に	主 よ こ ひ 願 は く
み め ぐ み の 光 り	い ざ や 従 は な ん	い ざ 歸 り 行 か な
受 く る う れ し さ	き よ き み こ と ば	あ い の ふ る さ と
十 字 架 を し る し	こ こ ろ を さ さ げ	つ み の み ゆ る し
い ば ら 染 め た る	ゆ び 折 り ま ち て	い ま ぞ か な し き
い の ち 汲 ま ま し	う れ し き み こ ゑ	あ い の ふ る さ と
		追 ひ し わ が た ま



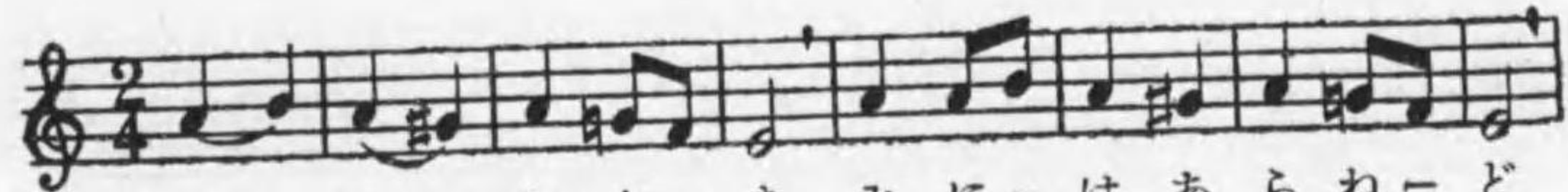
まなかひにみまつるときのちかければ



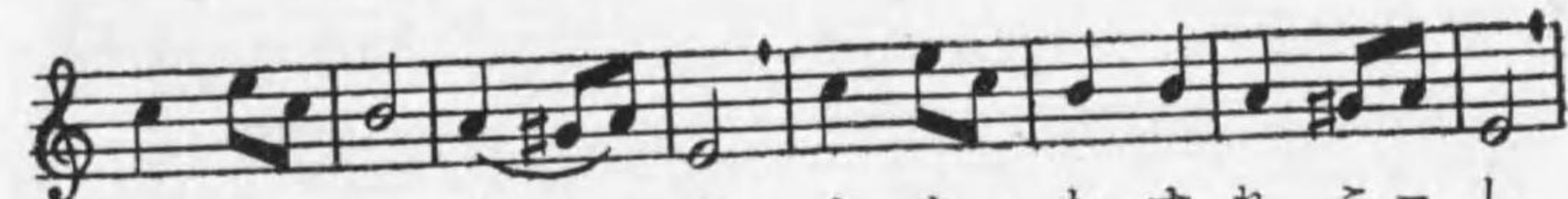
- 1. 主よきたりけがれしわれをきよめませ
- 2. よこしまのむくいにめぐるよみのくに
- 3. ところをばそなへせさせよひかりのこ
- 4. みさばきにををしくたたむこころせむ

(をりかへし)

	四	三	二	一	
雄々しく立たむ	みさばきに	そなへせさせよ	むくいにめぐる	けがれしわれを	見まつるときのちかければ
こころせむ		ひかりの子	陰府のくに	きよめませ	



- 1. おそれなきみにあらねど
- 2. いくたびか主にかけらまく
- 3. うたがひののべのくまわを



たかぶりーに主をわすれこし
 にごりえーのよどむこころし
 たもとほーりけふははれゆーく



われにありしよ
 いますすみゆく
 くもるへのたび

	五	四	三	二	一
しづまぬ岩に	つみの海	かくてぞいまは	今日の曇る	野邊の隈曲を	うたがひの
救ひ得ささね	浮きしづみ	生命な惜しみ	身は生きぬ	雲井へのたび	徘徊り
				濁り江の	いま進みゆく
				主に歸らまく	いくたびか
				身をわすれ来し	おそれなき
				我にありしよ	たかぶりに

ゆふやみかけくらくゲッセマニのその
 にしちのみあせしるけくのりま
 せるみこゑしぬるばかりもだえた
 まふ ああこれ たーがためぞ

四 三 二 一

あ あ これ たがためぞ
 ちからよわみ たふれたまふ
 喘ぎのぼり給ふ 行きの進むにつれ
 十字架負まして カルワリオの山路
 ああ これ たがためぞ
 あなかしまし ののしるこゑ
 嘲りつ笑ひつ み顔につばきして
 答数をはれば いばらの冠させ
 あ あ これ たがためぞ
 みはだやぶれ ちしほながる
 あ あ これ たがためぞ
 看よ御衣は剥れ いやしき人の手に
 繩目も厳しくぞ 鞭打れたたまへる
 あ あ これ たがためぞ
 死ぬるばかりもだえたまふ
 あ あ これ たがためぞ
 夕闇かげくらく ゲッセマニの園にし
 血のみ汗著けく 祈りませる御こゑ
 あ あ これ たがためぞ
 御名かぐはしみ み跡行かなん

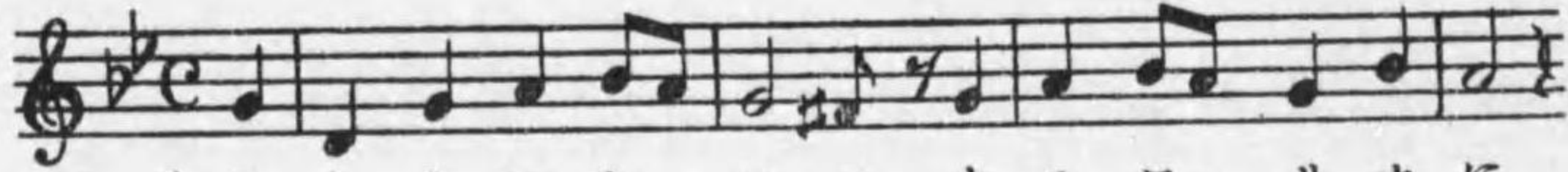
(次頁に續く)

1. いばらのかむり おしかぶされ
 2. きのふにかはる みかけかこみ
 しもとにうたれ つばきせられ
 ののしりさわぎ あたむらがり
 ちしほはながる 主のみかほよ
 にくみやまぬを いづくしみの
 い た ま し き さ ま に か な し き か も
 ま な ざ し さ や に み な

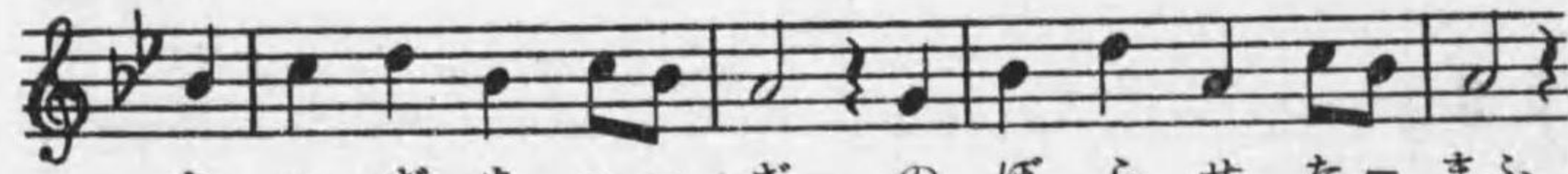
四 三 二 一

御名かぐはしみ み跡行かなん
 身に十字架を ひたに負ひて
 わが身わがたま ささげまつり
 いかでめぐみに むくいやは
 示させたまふ みむねにこそ
 世のひとびとの すくひのため
 よみに墮つべき 罪し負へる
 主のみくるしみ 誰がためぞも
 昨日にかはる 御影かこみ
 ののしりさわぎ 仇むらがり
 にくみ止まぬを いつくしみの
 まなざしさに 見そなはせる
 いたましきさま かなしきかも
 ちしほはながる 主のみかほよ
 しもとに打たれ つばきせられ
 いばらのかむり おしかぶされ

御 苦 難



1. はしらになーひつ カルワーリオに
 2. まだほるあーさく ニサンーのつき
 3. みかほはあーけに ちりやーまみる



あへぎあへーぎ のぼらせ たーまふ
 やまぢなやーみ たふれま しーし
 あせつはぶーき いばらのきーず



ああたがたーめか なやみーませーる
 いたましきーさま かしこーきかーも
 らうがはしーくも みたてーまつーる

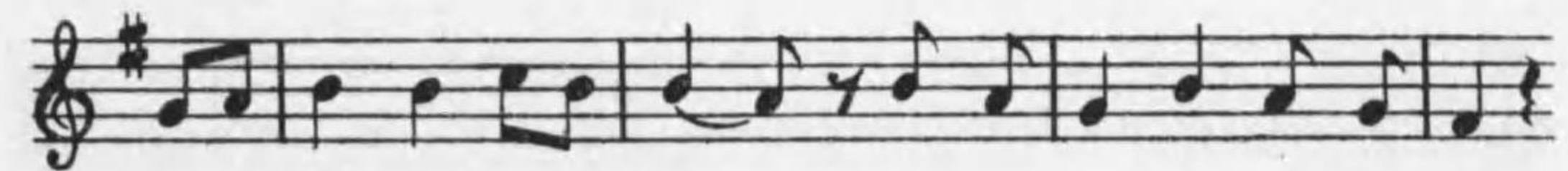
五	四	三	二	一
主とともによそ 主よわが身はも かずはあれど しのごゆかめ	いづつのみきす み手みあしよ 岡上のはしら なにを語る	みかほは赤けに あせつはぶき らうがはしくも 見たてまつる	まだ春あさく やま路なやみ いたましきさま かしこきかも	はしらになひつ あへぎあへぎ ああ誰がためか ああ誰がためか なやみませる
				カルワリオに 登らせたまふ ニサンのつき たふれましし ちりやまみる いばらのきす たのみ來て との幸得よ

我がためぞ
みなこれ
みわきぞ刺す
みよ槍の穂
父に祈りませり
仇の罪ゆるして
釘うたれ給へど
十字架の上にて

御 苦 難



1. うーけまーしーしし もとのーいたみ



おーもひつーつーなみだのあめの



まなくふーりくる

四	三	二	一
たのしき國の 君がいさをに たのみ來て	つみの子は カルワリオ 岡にのぼりて みはしらに	世のひとの 咎にかはりて み苦しみに われ忘れめや	うけましし しもとの痛み なみだの雨の 間なく降來る

六
み誓ひことごと
その如くなりて
「事をはりぬ」と
主は宣ひけり
いまはのときに
七
「父よわが靈を
御手にぞ委ぬ」と
言おごそかに
事切れたまひし
すくひぬしはも

56 御 苦 難

1. なやみつかれましみころもあかく
2. せおひますじじかくをみならはなくて
3. ゴルゴタかなくじじかはたちて
4. つみはしのつるぎかみわがために

ちたおひ
にすひと
そけまた
みましび
たのしし
まらきし
ひすみて
みすかい
ちべかの
ゆをりち
くなまた
きみしま
みとぬふ

一 なやみ疲れまし
みころもあかく
血に染みたまひ
みち行くきみ
二 脊負ます十字架
婦人等は泣く
たすけまゐらす
すべを無みと
三 ゴルゴタ哀しく
十字架は立ちて
負ひまししきみ
かかりましぬ
四 罪は死のつるぎ
神わがために
ひとたび死して
いのちたまふ

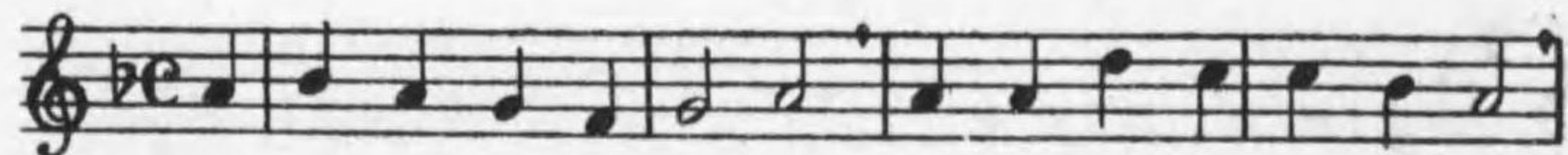
御 苦 難

1. みはくぎうたれつあをあはれみて
2. けふよいましこそあまつくにはあれと
3. こはきみのこなりこはながははぞ

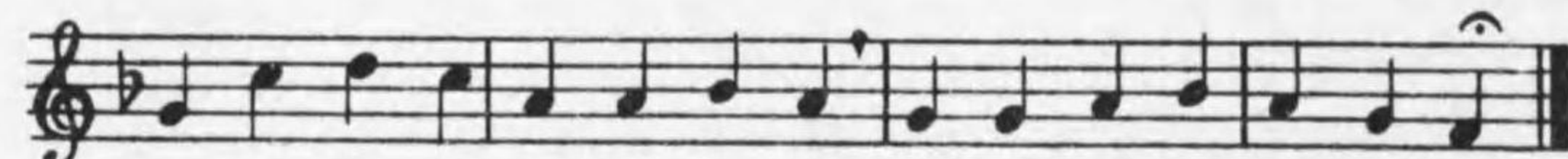
しらでことそなにせちちゆるとしまいせと
わはとはみでしに主はあづけましぬ

みいのりやたふとり
すくはれにけり
たふときるか

一 身は釘うたれつ
「知らでこそなせ
み祈りやたふと
二 今日よ汝こそ
われとともに」と
すくはれにけり
三 「こは君の子なり」
み母み弟子に
たふときるかも
四 人となりましし
「わが神などか
いたまし御こゑ
五 きみはみめぐみの
身はくるしみて
「われよ濁く」と
仇をあはれみて
父ゆるしませ」と
あまつくにあれ
つみびとの臨終
「こは汝が母ぞ」と
主はあづけましぬ
人の性もちて
我をすてます」と
いづみにしあれど
たふとくも宣りぬ



1. ほ め よ た た へ よ ち よ よ ろ づ よ に
 2. あ ま つ み く に を あ こ が れ ゆ け ば
 3. よ の な み か ぜ は ふ き あ る る と も
 4. せ め よ る あ た も あ ら ぶ る し し も



こ よ な き た か ら の き よ き じふじかを
 じふじかの は し だ て き よ く か が や く
 じふじかの み ち び く み ち ぞ や す け き
 じふじかに を の の き と く こ そ に ぐ れ

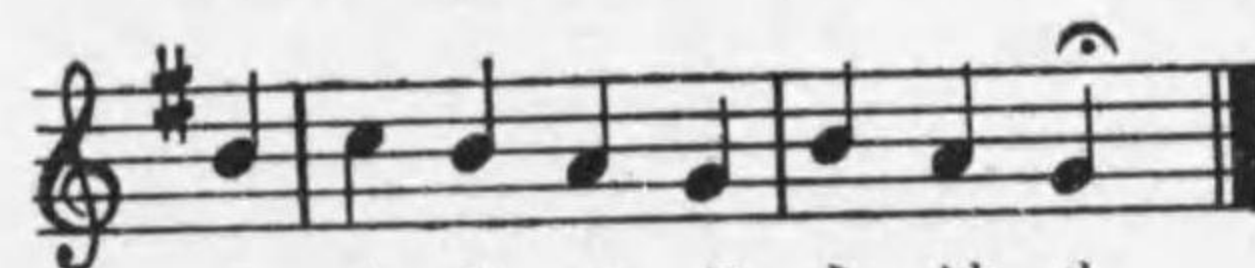
- 一 頌めよたたへよ 千代よろづ代に
 こよなき寶の きよき十字架を
- 二 あまつみくにを あこがれ行けば
 十字架の橋立て きよくかがやく
- 三 世のなみかぜは 吹き荒るるとも
 十字架の導びく みちぞ安けき
- 四 攻めよる仇も あらぶる獅子も
 十字架に戦慄き 疾くこそ逃ぐれ
- 五 あめにゆくまで 間なく暇なく
 十字架を掲げん みちの技折に
- 六 あまつみくにの すくひの門を
 開くは十字架の 血に染む鍵ぞ
- 七 あなたふとしや すくひの道の
 するべも著けき 聖教の十字架



1. こよなきめぐみの きみがじふじかを
 2. わきいでながるる いのちのましみづ



よろこびおへかしまたみのこらはも
 じふじかのかけに たえずぞくままし

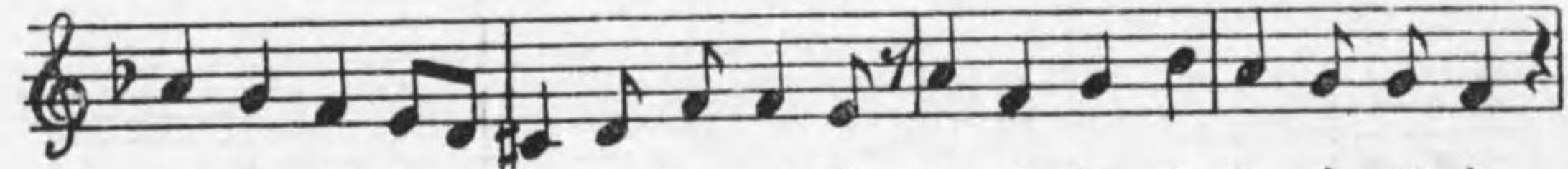


みたみのこらはも
 たえずぞくままし

- 一 こよなきめぐみの きみが十字架を
 よろこび負へかし (復唱) み民の子等はも
- 二 湧き出でながるる いのちの眞清水
 十字架のかけに (復唱) 絶すぞ汲ままし
- 三 よろこびたのしみ 幸はふことごと
 十字架よりこそ (復唱) 醜の身に受けめ
- 四 とこ世とこ春の あめなるみ園に
 しめしゆくひかり (復唱) ただ主の十字架
- 五 こよなくうれしき きみが十字架を
 よろこび擔はなん (復唱) いまはの時まで



1. いたまし-くもたてる 主のじふじのきに
2. あがひの-みこころは ははのみしります



たたずみ-むかひます みははのみすがた
みでしら-はうちちり ヨハネのみありき



よの-つみをおふみこ かなしみめすはは
主は-ははをみでしに みでしをみははに



われらのためにこそ かくありまししか
あたへつゆだねつつ こときれたまひぬ

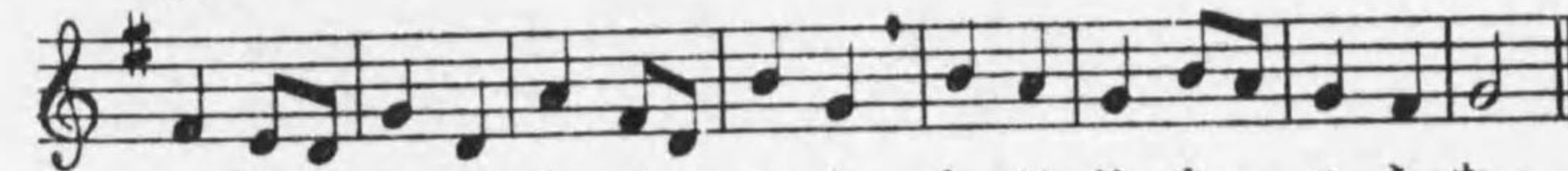
<p>三 海のごとくひろき 神のみめぐみをし み子の賜ふいのち いまもかも勤しき</p>	<p>二 贖ひのみこころは み弟子らは打散り 主は母をみ弟子に あたへつ委ねつつ</p>	<p>一 傷ましくも立てる たたずみ向ひます 世の罪を負ふ御子 われらの爲にこそ</p>	<p>主の十字の木に 聖母のみすがた かなしみ召す母 かく在まししか</p>
--	--	--	--



1. わびし-きひの-と-も すぐひの-じふじ-か
2. さかえ-のみく-ら-の たかきか-し-こ-き
3. ほこり-はわが-み-に またあら-な-く-に



うきよ-のなぐ-さ-め うへなき-ち-か-ら
すぐひ-のぬし-を-ば わがしろ-と-な-し
じふじか-ぞまた-な-き わがみち-の-と-も



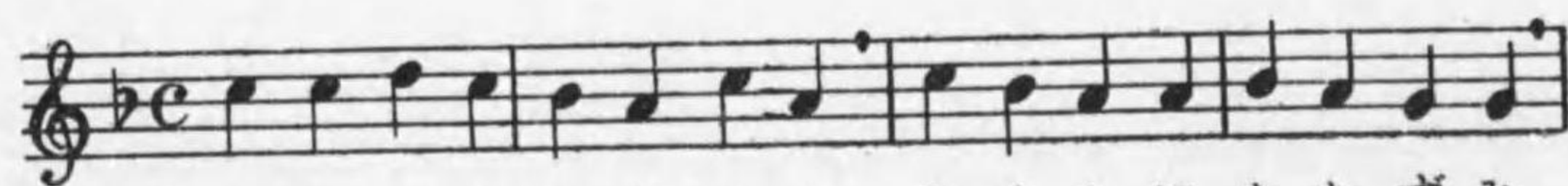
いや-とほなが-にし あがめま-つらなん
なれ-をばあふ-ぎて なやみを-さりなん
ひた-にやすが-りて しをのが-れまし

<p>五 直にや継りて 十字架ぞまたなき 誇りは我が身に 十字架がまたなき</p>	<p>四 あめつち崩るる 主の手によるもの みくにの御殿に めでたし十字架よ</p>	<p>三 わが道のとも 死をのがれまし またあらなくに わが道のともし</p>	<p>二 さかえのみくらの すぐひのぬしをば なれをばあふぎて たかきかしこき</p>	<p>一 侘びしき日のとも うき世のながさめ いや永久にし うへなきちから</p>
---	--	---	---	---

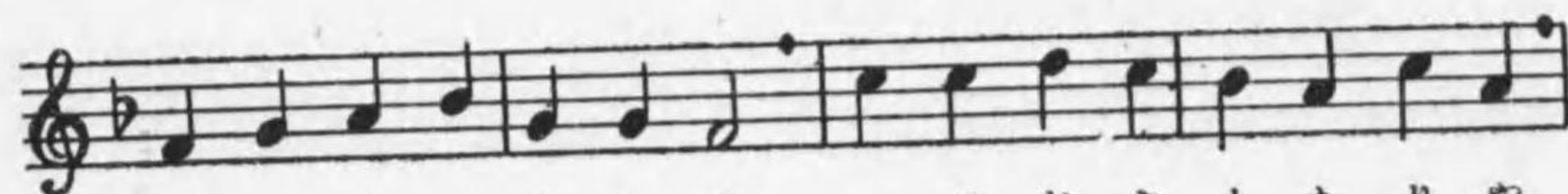
七
 世にある限りは
 み母とともにぞ
 御子を偲ばなん
 十字架のもとに
 ひれふして我や
 歎かひあらなん

八
 み母よわれはも
 みそばに侍りて
 いのりや爲まし
 いでや勇み立ち
 世と戦ひつつ
 みあとしたはな

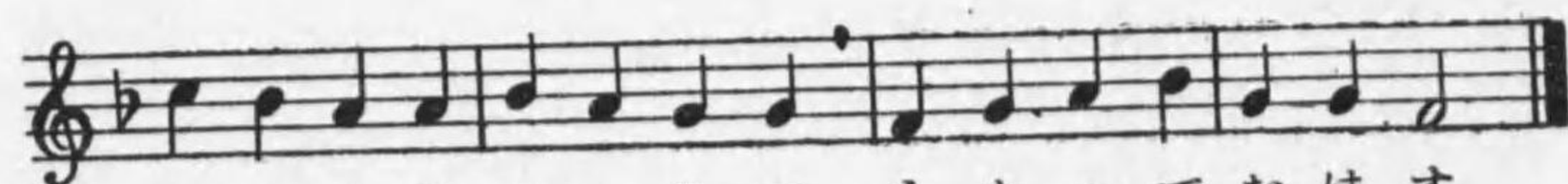
61A 悲しみの聖母



1. みこのじふじかの みもとに たたずみ
 2. うれひやいかなる みかみのまなごの
 3. みるめもいたはし しのびてたねかは
 4. たとしへもあらぬ じふじかのなやみ
 5. みいのちをはりて みはははかなしみ



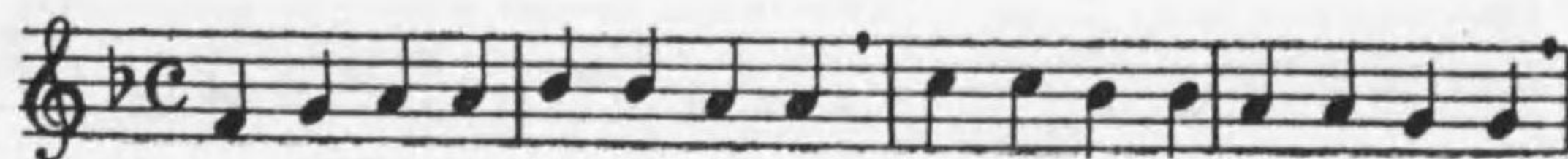
みははなげかす つるぎさしたりや
 ははのみこころ しのぶもかしこし
 たはもははみま せりし
 あめつつちくらし みはははかなしみ



みこころのいたで えたへで おはす
 こおきまのふおやはの たなせ
 ないまはみははがたみせ たりへ
 主をふこころを

(歌詞は前頁の61番と同じ)

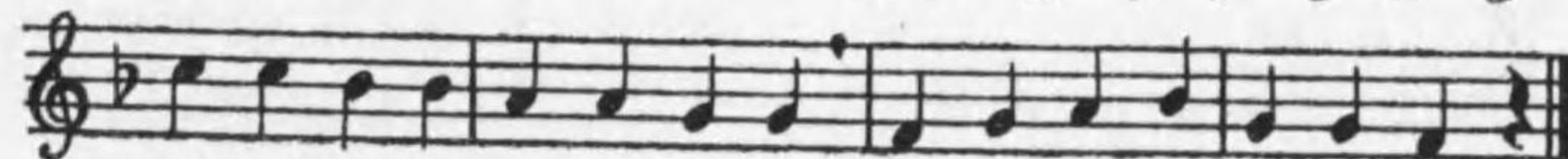
悲しみの聖母



1. みこのじふじかの みもとに たたずみ
 2. うれひやいかなる みかみのまなごの

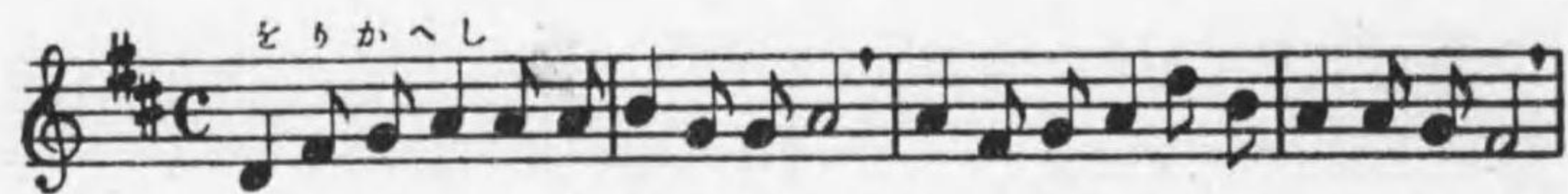


みははなげかす つるぎさしたりや
 ははのみこころ しのぶもかしこし

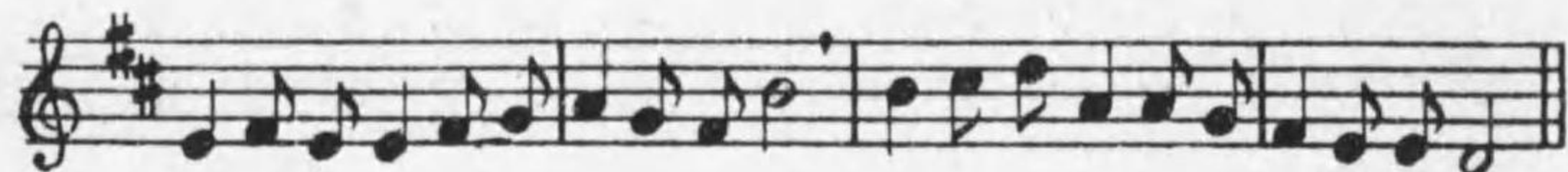


みこころのいたで えたへで おはす
 こをおもふおやのみむねのいたみ

六	五	四	三	二	一
愛のいた手なる 五つのみ傷よ われに印させ	かくもわが爲に 主こそ苦みを うけ給ひしか	みいのち終りて み母は悲しみ あめつち暗し 聖母よわれにも 主を思ふ心を 足らはせ給へ	例しへもあらぬ 十字架の惱み 母は見ませり いと傷ましき いまはのみ姿 母は見ませり	見る眼も惨はし 偲びて誰かは たもと濡さぬ み子のみ苦し 歎きます母の みすがた悲し	憂ひやいかなる み神の愛子の 母のみこころ 愛ぶもかしこし 子を思ふ親の みむねの痛み 憂ひやいかなる み心のいたで え堪へで在す み子の十字架の み下に佇すみ み母なげかす 剣さしたりや み心のいたで え堪へで在す



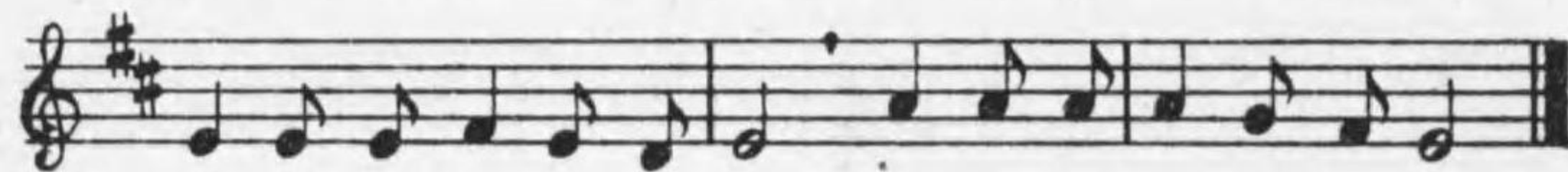
みさかえきみにあれや わにますすくひのきみ



われらをさなごのごと まこともてほめまつる



1. きみイスラエルのきみ きみぞあめつちのきみ



ダビドのすゑの そのおほぎみぞ

六 五 四 三 二 一

あめつちの主と
量り知らぬ愛の主
いと高き神の子は
いまぞ來ませる

石さへいまは
もだしあへぬを
人稱へであるべき

主とむかへしか
たまゆらにしも
斯くこそ國民はも

悩みの待てる君を
か
王たる君の祝ぎ歌
ともにもうたはなん

地にもひびかへ
と
王たる君の祝ぎ歌
ともにもうたはなん

尊とき天の集ひの
王たる君の祝ぎ歌
ともにもうたはなん

きみをむかへて
祝ぎまつりにし
ホザンナくくと

ユデア人棕欄執て
その大君ぞ
君ぞあめつちの君

ダビドのすゑの
君ぞあめつちの君

君イスラエルの君
君ぞあめつちの君

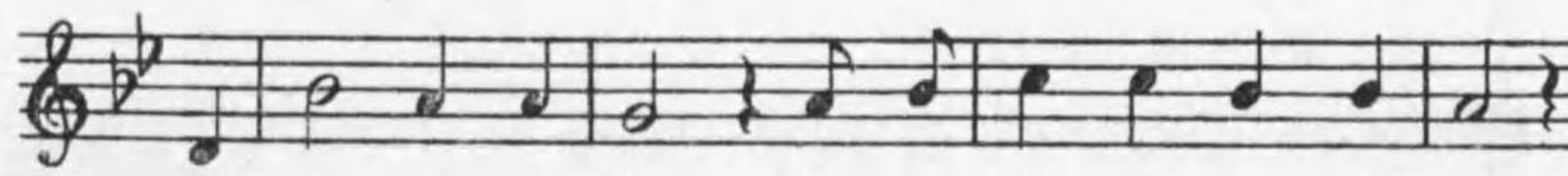
み榮え君にあれや
誠もて讃めまつる
王にます救ひの君

われら幼兒のごと
誠もて讃めまつる
王にます救ひの君

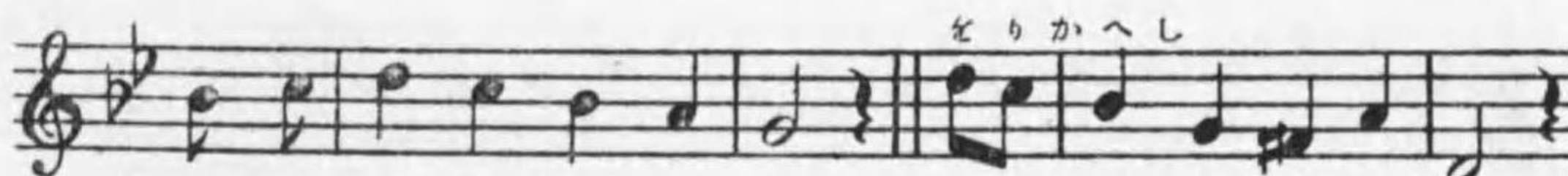
(をりかへし)



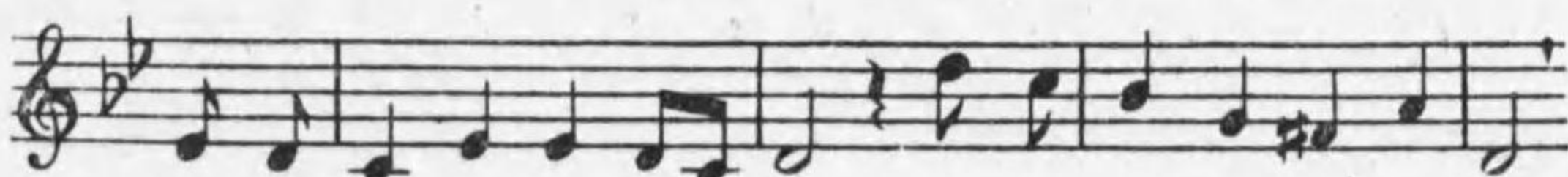
あさにけにははごころもて



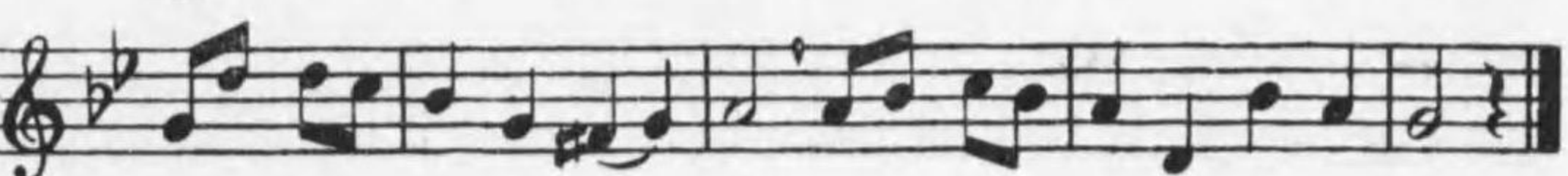
かしづきし そのまなどはも



かなしきわかれ かなしみはは



じふじかのもとに なみだにしづみ



みーこーのいたーみしーのーばせたまふ

三 二 一

あさにけに
母ごころもて
その愛子はも
かなしき別れ

かなし御母
十字架の下に
御子のいたみ
偲ばせたまふ

世のひとの
救ひのために
かむりは痛し
母の泣きます

世のつみを
負ひし小羊
いたましく
さす劍はも

あさにけに
かしづきし
かなしき別れ
なみだに沈み
いばらなる

(をりかへし)



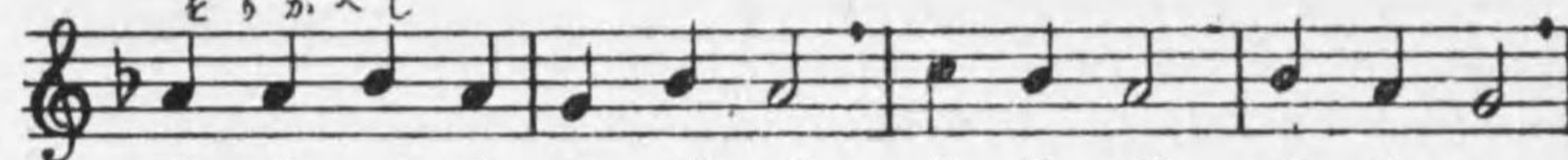
1. しろたへのきぬに ころさーやけく



しゆるのはかざして よろこびーをどれ



主はしにうちかーち よみがへりましーぬ

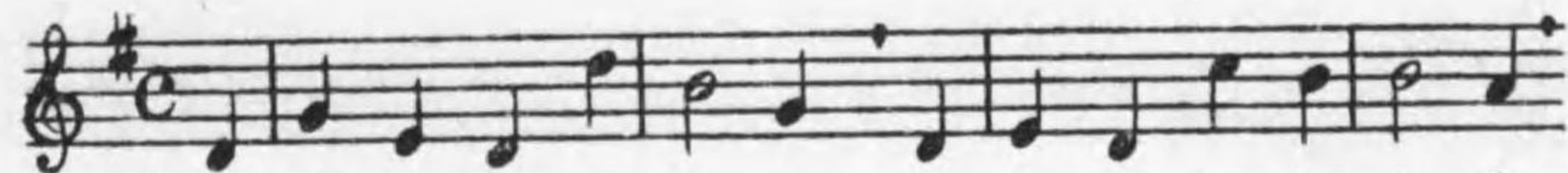


あめつちこぞり さけび うたへ



主のみーさーかえを

四	三	二	一
わが おほきみ 大君をぞ	か かみの 都をば	仰げ あふ やもろびと	今 いま はのぼりまし
か か くるる 方なく	か か く 甦へりて	死 し のま 悲し みを	朽 く ち ぎ る 生 命を
黄 よ み 泉 路の 門をし	死 し の ま 悲 し み を	主 の み さ か え を	あ め つ ち こ ぞ り
主 の み さ か え を	主 の み さ か え を	主 の み さ か え を	主 の み さ か え を
わ が 大 君 を ぞ	か か みの 都 を ば	仰 げ あ ふ や も ろ び と	今 い ま は の ぼ り ま し
か か く る る 方 な く	か か く 甦 へ り て	死 し の ま 悲 し み を	朽 く ち ぎ る 生 命 を
黄 よ み 泉 路 の 門 を し	死 し の ま 悲 し み を	主 の み さ か え を	あ め つ ち こ ぞ り
主 の み さ か え を	主 の み さ か え を	主 の み さ か え を	主 の み さ か え を
わ が 大 君 を ぞ	か か みの 都 を ば	仰 げ あ ふ や も ろ び と	今 い ま は の ぼ り ま し
か か く る る 方 な く	か か く 甦 へ り て	死 し の ま 悲 し み を	朽 く ち ぎ る 生 命 を
黄 よ み 泉 路 の 門 を し	死 し の ま 悲 し み を	主 の み さ か え を	あ め つ ち こ ぞ り
主 の み さ か え を	主 の み さ か え を	主 の み さ か え を	主 の み さ か え を
わ が 大 君 を ぞ	か か みの 都 を ば	仰 げ あ ふ や も ろ び と	今 い ま は の ぼ り ま し
か か く る る 方 な く	か か く 甦 へ り て	死 し の ま 悲 し み を	朽 く ち ぎ る 生 命 を
黄 よ み 泉 路 の 門 を し	死 し の ま 悲 し み を	主 の み さ か え を	あ め つ ち こ ぞ り
主 の み さ か え を	主 の み さ か え を	主 の み さ か え を	主 の み さ か え を
わ が 大 君 を ぞ	か か みの 都 を ば	仰 げ あ ふ や も ろ び と	今 い ま は の ぼ り ま し
か か く る る 方 な く	か か く 甦 へ り て	死 し の ま 悲 し み を	朽 く ち ぎ る 生 命 を
黄 よ み 泉 路 の 門 を し	死 し の ま 悲 し み を	主 の み さ か え を	あ め つ ち こ ぞ り
主 の み さ か え を	主 の み さ か え を	主 の み さ か え を	主 の み さ か え を



1. いはへやうたへしとよみにかち

2. みつかひたちとともになん

3. やよマダレナなぞやなきます



よみがへりし主のたふときみさかえ

よみがへりし主のめでたきかちうた

よろこびうたへよ主よみがへりしぞ



アレールヤ
アレールヤ
アレールヤ

五	四	三	二	一
ア ま た 甦 が へ り て	よ ろ こ び う た へ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ
主 の ご と わ れ ら 天 に こ そ 往 か め	主 を 讃 め 稱 へ よ	成 し 遂 げ ま し て	な ぞ や 泣 き ま す	死 と 陰 府 に 勝 ち
主 の ご と わ れ ら 天 に こ そ 往 か め	主 を 讃 め 稱 へ よ	成 し 遂 げ ま し て	な ぞ や 泣 き ま す	死 と 陰 府 に 勝 ち
主 の ご と わ れ ら 天 に こ そ 往 か め	主 を 讃 め 稱 へ よ	成 し 遂 げ ま し て	な ぞ や 泣 き ま す	死 と 陰 府 に 勝 ち

よろこべけふぞ わがきみはしにか
ちたまへり よろこべけふぞ よみ
のかどこほちぬ よのひとのつみ
とがをつぐなはんためにかぎりなきくる
しみしのぎまししメシアこそこのきみ

<p>三 あめつちのきみ あめつちのきみ 我等は等しく死を 勝ち人のその冠</p>	<p>二 やよもろびとよ やよもろびとよ 高き賤しき總て 上もなきその榮</p>	<p>一 よろこべ今日ぞ よろこべ今日ぞ 世の人の罪咎を 苦み凌ぎましし</p>
<p>我等のため命を與へ よみがへりたまへり み軍に捧げまつりて 御手より得まほしき</p>	<p>聲を合せ歌ひ奉れや 身も魂もささげて 御旗の下に集へかし いま汝をかこめば</p>	<p>我君は死に勝給へり 陰府の門こぼちぬ 償はん爲に限りなき 救世主こそこの君</p>

とりかへし

いざいざよろこべ わがすくひ
ぬしはよみにかちしにかちはか
うちひらきてよみがへりたり
1. このよにくだりて つみびとのため
いけにへとなりて くるしみたまひき

(をりかへし)

<p>六 「我主わが神よ」 永世のいのちに</p>	<p>五 トマこそひと度 みきずのみ痕を</p>	<p>四 主は現はれまし み弟子に示して</p>	<p>三 三日目の朝開に 正義のひかりは</p>	<p>二 責め辱かしめて 鞭うちあざけり</p>	<p>一 この世に降りて 犠牲となりて</p>
<p>信ずるものは 勇み進み行かん</p>	<p>うたがひてしか 見てぞ慄きし</p>	<p>手足のきずを 「われぞ」と宣ふ</p>	<p>躍りてぞ出でし 日もなほ未明</p>	<p>つみびとのごと 死にさへ仕置ど</p>	<p>つみびとのため 苦しみたまひき</p>

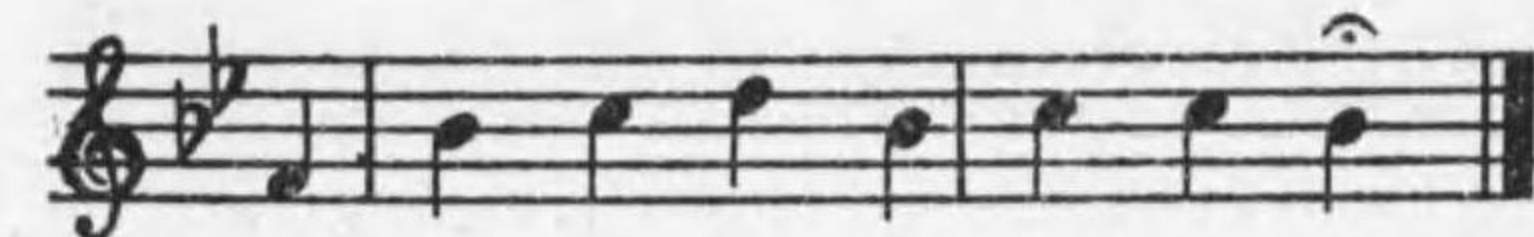
わが救主は
陰府に勝ち死に勝ち
よみがへりたり
墓打開きて



1. よろづのくにたみ いはへーうたへ
 2. しのかせくだきて みはかーひらき
 3. あいなるみきずは ひにもーまさり

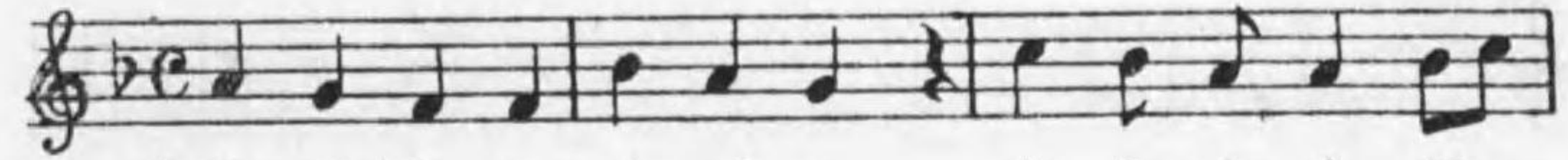


主はよみがへれり アレルヤ
 主はよみがへりぬ アレルヤ
 てりいでかがやく アレルヤ



アレルヤ アレルヤ
 アレルヤ アレルヤ
 アレルヤ アレルヤ

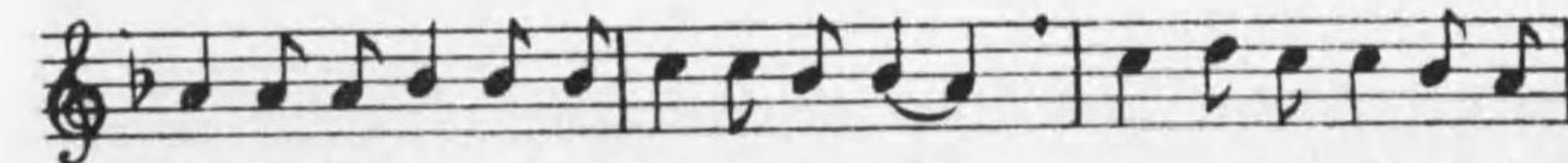
四	三	二	一
アレルヤ 世々みさかえあれ 陰府にうち捷ちし われらの主 <small>(し)</small> に	アレルヤ 照りいでかがやく あいなるみきずは 陽 <small>(ひ)</small> にもまさり	アレルヤ 主 <small>(し)</small> はよみがへりぬ 死 <small>(し)</small> の桎 <small>(か)</small> 梏 <small>(せ)</small> くだきて みはかひらき	アレルヤ 主 <small>(し)</small> はよみがへれり よろづのくにたみ いはへうたへ



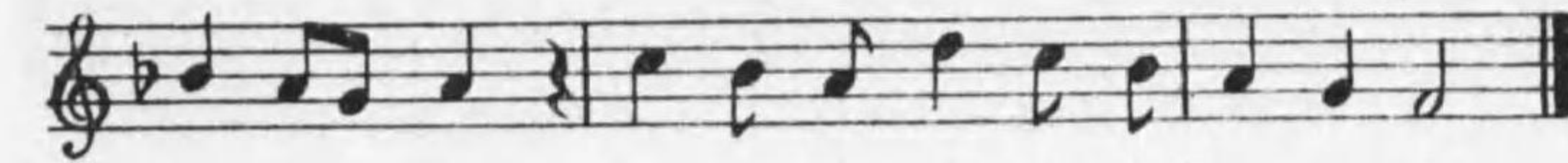
1. わがきみ イエズス よみとしにー
 2. わがきみ イエズス たふときちー



かちて よみよりしよりいでてー
 をもて よのつみのあがなひをー



はかうちひらきましぬー ことほぎよろ
 いまやなしとげましぬー われらも主に



こびー て いのちの主をほめよ
 よりー て いでやしにかたまし

二	一
わがきみイエズス 世の罪 <small>(つみ)</small> のあがなひを たふとき血 <small>(ち)</small> をもて 今 <small>(いま)</small> や成 <small>(な)</small> し遂 <small>(と)</small> げましぬ われらも主 <small>(し)</small> によりて いでや死 <small>(し)</small> に勝 <small>(か)</small> たまし	わがきみイエズス 陰府 <small>(よみ)</small> と死 <small>(し)</small> に勝 <small>(か)</small> ちて 陰府 <small>(よみ)</small> より死 <small>(し)</small> より出 <small>(い)</small> でて 墓 <small>(はか)</small> うちひらきましぬ ことほぎよろこびて いのちの主 <small>(し)</small> をほめよ

あ あ み は は マ リ ア ア レ ル ヤ
 な み だ ぬ ぐ ひ ま せ ア レ ル ヤ
 よ ろ こ び ま し ま せ ア レ ル ヤ
 み こ よ み が へ り ぬ ア レ ル ヤ
 | ア レ ル ヤ ア レ ル ヤ ア レ ル ヤ

一 ああみははマリア アレルヤ
 なみだぬぐひませ アレルヤ
 よろこびまませ アレルヤ
 みこよみがへりぬ アレルヤ
 | アレルヤ アレルヤ アレルヤ

二 憂きよかなしみよ アレルヤ
 いまはいづこぞや アレルヤ
 見よ勝ちうたこそ アレルヤ
 果つるを知らえぬ アレルヤ
 アレルヤアレルヤ アレルヤ

三 ああ御子イエズス アレルヤ
 死のちからくだき アレルヤ
 陰府の門やぶりに アレルヤ
 み墓よ出でます アレルヤ
 アレルヤアレルヤ アレルヤ

(次頁に続く)

1. よろこびたたへよ わが-すく-ひ-ぬしは
 2. あめよりくだりて ひと-みな-の-ために
 よみのちから-にぞ うちかちたまへる
 しのとをひら-きて よみがへりましぬ
 うた-へよ たた-へよ アレ-ルヤ
 主を-ほぎまつ-れよ アレ-ルヤ

一 よろこびたたへよ わがすくひぬしは
 陰府のちからにぞ うち勝ちたまへる
 うたへよたたへよ アレルヤ

二 あめよりくだりて 人類みなのために
 死の戸をひらきて よみがへりましぬ
 主を祝ぎまつれよ アレルヤ

三 みちかひたがはず しのめとともに
 つはものまもる はかを出でましぬ
 あなたふときかな アレルヤ



1. オリーブのやまーよーりのぼり
2. ガリラアびとーらーよなどや



まししくににちちなるみかみの
かなしみつつそらあふぎたてる



みぎにぞーましーますアレールヤ
主はのぼーりまーしぬアレールヤ

四	三	二	一
ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ
われらもあめに て みむねにかなひて この憂世を經なば 主にぞ會ひ奉らん	ふたたび來ますと あめに昇りし主は みつかひぞ告らす	ガリラアびと等よ 空あふぎ立てる 主はのぼりましぬ などや悲しみつつ	オリーブのやまより ちちなるみかみの みぎにぞ在します のぼりましし國に

ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	四 み は は と 御 子 に ぞ
ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	
ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ	

喜びの聖母

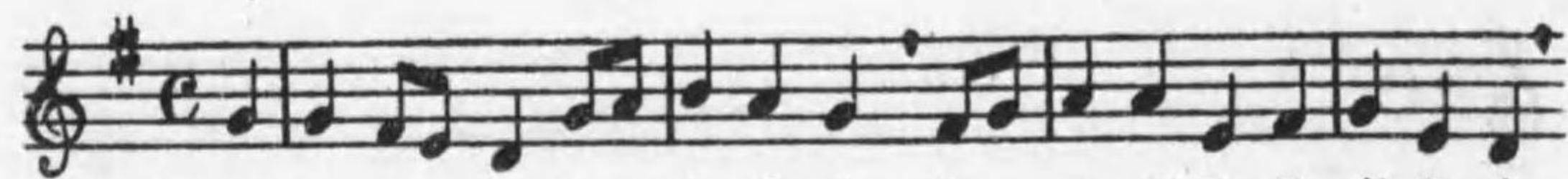


1. あめなるきさいよろこびたまへアレールヤ
2. みことのごとくよみがへりたりアレールヤ

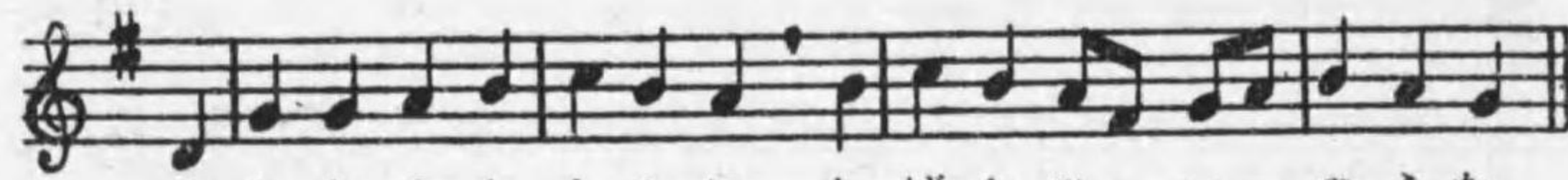


いましにやどりあもりしきみはアレールヤ
よろこびいさみいはひまつらなんアレールヤ

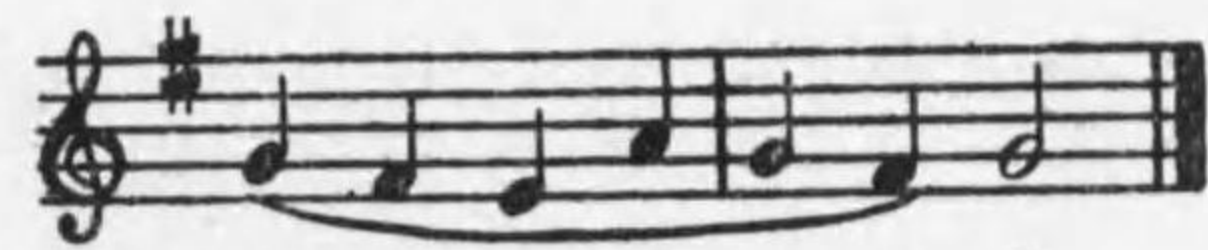
二	一
ア レ ル ヤ	ア レ ル ヤ
よろこびいさみ 祝ひまつらなん アレールヤ	あめなるきさい よろこびたまへ アレールヤ
よみがへりたり アレールヤ	いましにやどり あもりしきみは アレールヤ
み言のごとく	



1. みたまよゆたけき きーみがみめぐみを
 2. あめよりりたまはる なぐさめのみたま
 3. こころやまづしき ねぎごとやしげき

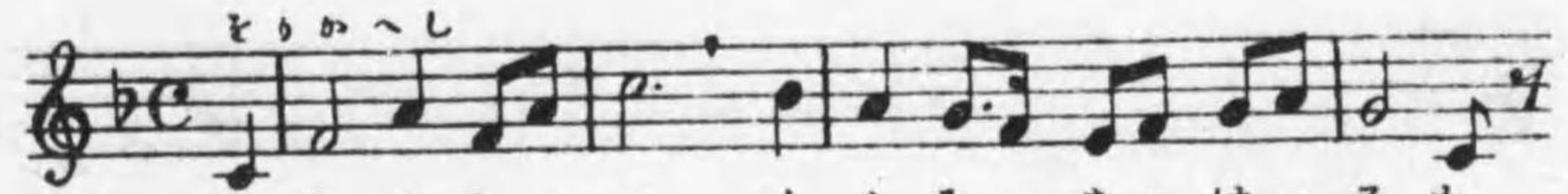


あさなさなしぬに なげかひーいーのらな
 けがしきこころを はぐくみーたーまへる
 いやしきこのみに 主はきたーりーたまふ

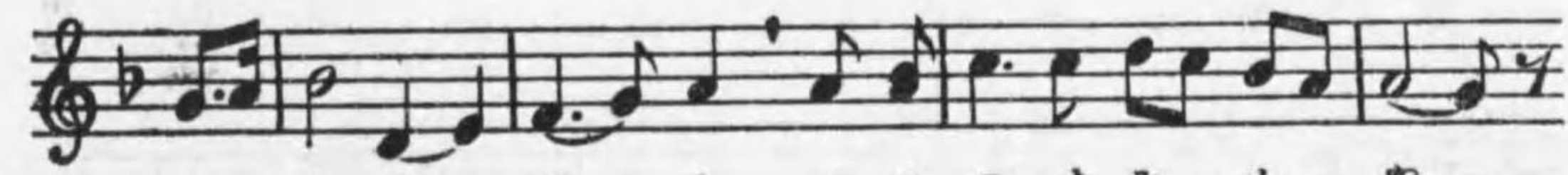


(終りに)ア - - - - - メン

一 みたまよゆたけき きみがみめぐみを
 朝な朝な繁に なげかひいのらな
 二 あめよりりたまはる なぐさめのみたま
 けがしきこころを はぐくみたまへる
 三 こころやまづしき ねぎごとや繁き
 いやしきこの身に 主はきたりたまふ
 四 あめよりりくる みめぐみのつゆぞ
 日にけにしげく 身ぞうるほひける
 五 ななつのたまものはるさめにまさり
 いろも香もきよく 地に花咲かせよ
 六 悪しきは暫しぞ い往けるをみれど
 つよき七鬼をば ひき具しこそ來め
 七 主よわがこころを たかぶりなさせそ
 守らひたまへや みかどに入るまで
 アメン



ひさかたーの くもゐーをーはーるか



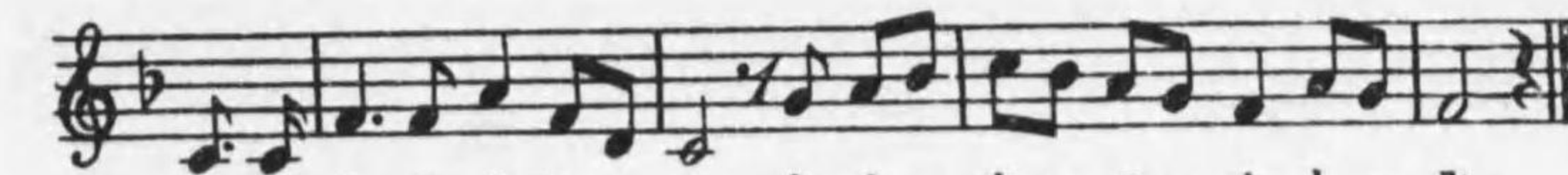
みーあるーじーと つひのすみーかーやー



ともにせまーまーし 1. あさーにけーに



おもひたえせーぬ あまーつくーに



のぼれるきみーの あとーなーつーかしーみ

(をりかへし)
 ひさかたの みあるじと
 雲井をはるか 共にせままし
 終の住み家や
 一 あさにけに あまつくに
 思ひ絶えせぬ あと懐かしみ
 昇れるきみの
 二 主のいます うき世をば
 御國戀ほしく 我ならなくに
 過難てにする
 三 おやたちも とことはに
 妹背友どち みくに偲ばゆ
 變らで仕まむ

五
 きませみたまよ
 きず癒やしませ
 かわきはてたる
 こころの焔も
 めぐみのあめに
 霊こそそだて
 みのりゆたけく
 アメン

77

聖 霊 (ヴェニクレアトル)



1. みたまよあもりて みめぐーみのあめに
 2. みたまよあもりて かよわーきわれらを

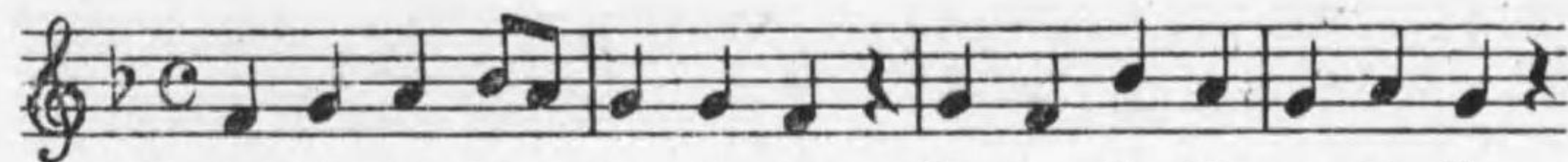


かわけるこころを うるほはせたまへ
 たすけつつよめつ みちびかせたまへ

一 聖霊よ天降りて み恵みのあめに
 乾けるところを うるほはせ給へ
 二 聖霊よあもりて か弱きわれらを
 たすけつ強めつ みちびかせ給へ
 三 聖霊よあもりて み光りを照らし
 たへなる御教を さとらしめ給へ
 四 聖霊よあもりて 厳くしきほのほ
 眠れるところに 燃えたたせ給へ
 五 聖霊よあもりて いにしへの如く
 くすしき御業を 世に満たし給へ
 六 父み子みたまの 位ぞ三つなる
 ひとりの御神に 世々み榮えあれ

聖 霊

76



1. きませみーたまよ われらはいのる
 2. なぐさめーぬしよ つみにけがれて



あめにいむかふ いのちのみちに
 われあらがねの つちーとひくけど



たどーきもしらーぬ われにしあれば
 くちーせぬたまーを はらむちからを



てらせみーひかり(終りに)ア――メン
 あめよりーたまへ

一 きませみたまよ われらはいのる
 あめにいむかふ いのちのみちに
 方便も知らぬ われにしあれば
 てらせみひかり
 二 なぐさめぬしよ つみにけがれて
 われあらがねの 土と卑けど
 朽ちせぬ珠を はらむちからを
 あめよりたまへ
 三 ま夏のたびの いこひの木かけ
 かぜを涼しみ むすぶしみづの
 なぐさめのきみ ちからたまひて
 われこそはゆけ
 四 きみしあらずば などわが旅の
 たのしくあらめ よきことなべて
 めぐみとかはり うつせみの世は
 またなくうれし

をりかへし

ひさかたのそのみやこさし
わがこころいさみたてり たびぢのかてと
ななつのたまものたまへ せいなるみたま
1. しかのかはべにあへぐがごとく
すべもなみこふる あまつましみづ

(をりかへし)

一 鹿の河邊にあへぐがごとく
術も無み戀ふる あまつましみづ

二 止む時しなく 我がたましひは
鳩のごと來にし きみをしぞ思ふ

三 あらしや猛る われやは撓む
力や失せぬる 神たすけませ

をりかへし

ひさかたのあまつみそらより
かがやきいでてらさせたまへ
そのみたませいなるみたま
1. わびしらにしたひまつるも
やるせなきわがたまのあへぐやまぢの
こえがたみなげくにこそ

(をりかへし)

一 わびしらに慕ひまつるも
遺瀨なき我靈のあへぐ山路の
越え難みなげくにこそ

二 みあるじの御法を技折に
進行く我なれど禍事しげく
行きなやみみかほあふぐ

三 にかかくにみ誓ひ思へば
天地は滅ぶともわれ恐れじと
たのむかけ主にしあれば

ひさかたの天つみ空より
かがやきいでて照らせ給へ
そのみたま聖なるみたま

けふけふと
あすは何處の
たびならむ
みちびけ光り
靈のゆくがね

四

うらやすに
親しみあつき
かみをのみ
たのみ昵ふ
我ならなくに

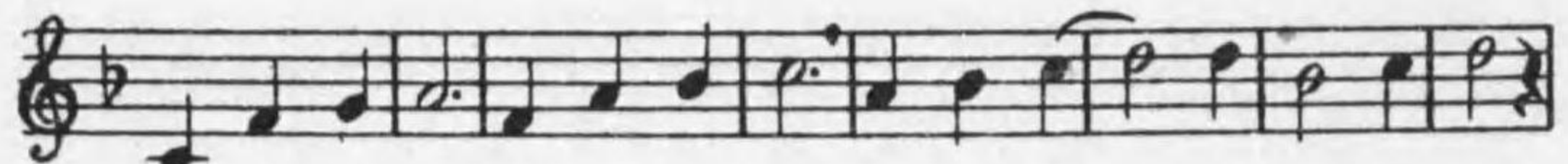
五

81

聖 靈



1. みたまよくだりてつみにけがれし
2. みひかりあらずばなどわがたまの



このみをきよめてあらたなるよの
たふときみあとをならひゆかめや



とこしへなるいのちをたまへ
みたまきませまちぞわづらふ

一 みたまよくだりて
つみにけがれし
この身をきよめて
あらたなる世の
とこしへなる
いのちをたまへ

二 みひかりあらずば
などわがたまの
たふときみあとを
ならひ行かめや
みたま來ませ
待ちぞわづらふ

83

聖 靈

80



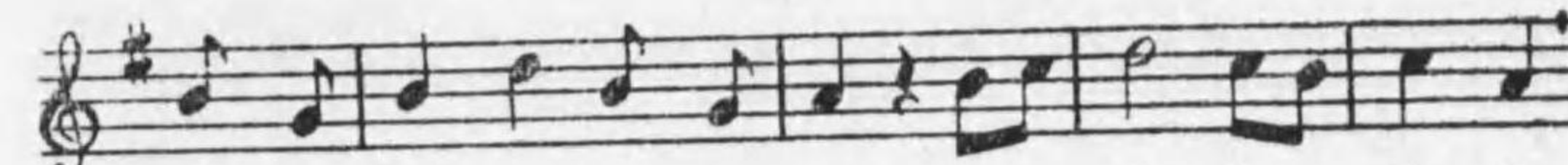
ちよろづにちからぞたまふ



わがおほみかみけふもたまへや



こころのかてをくもゐなす



こころいざよひさすらひの



くるふたまはもかみてらしませ

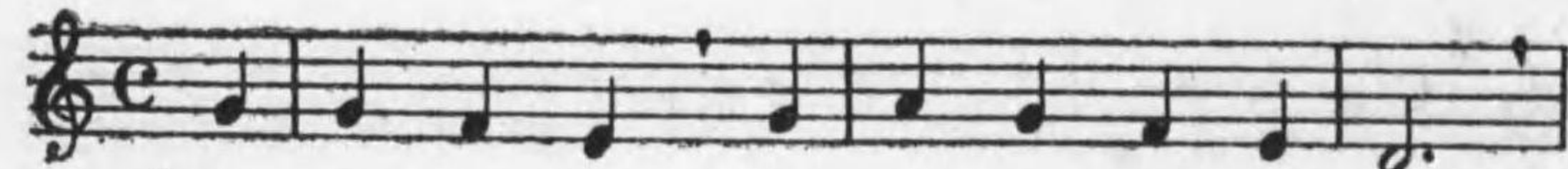
をりかへし
ちよろづに
わが大御神
力ぞたまふ
わが御神
今日も賜へや
こころの糧を

一 くもゐなす
さすらひの
神照らしませ

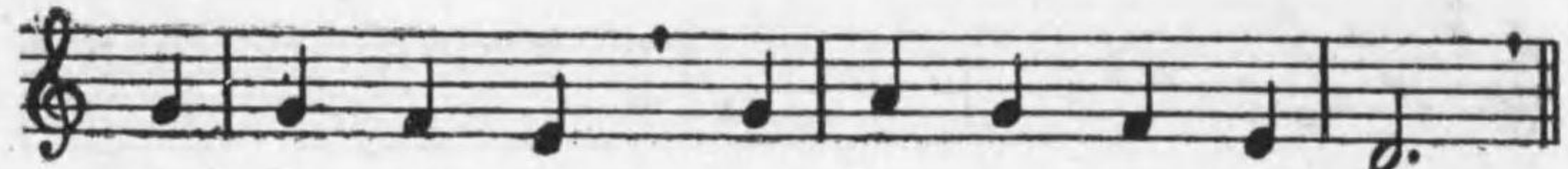
二 かしのみ
神なれや
しるべ示させ

三 あきらけく
大御神
強く言はませ
否といはめや
たかき教訓を

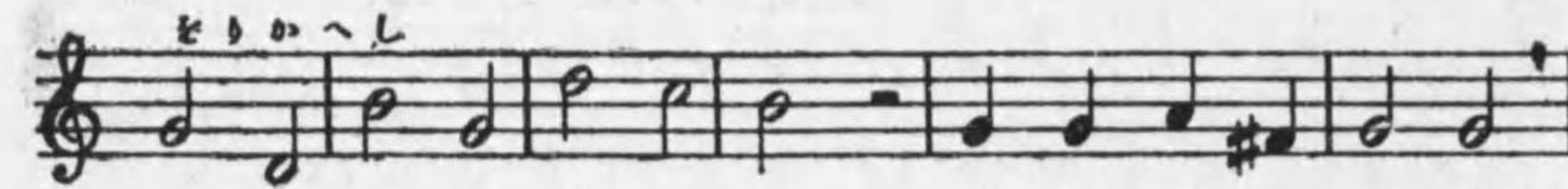
82



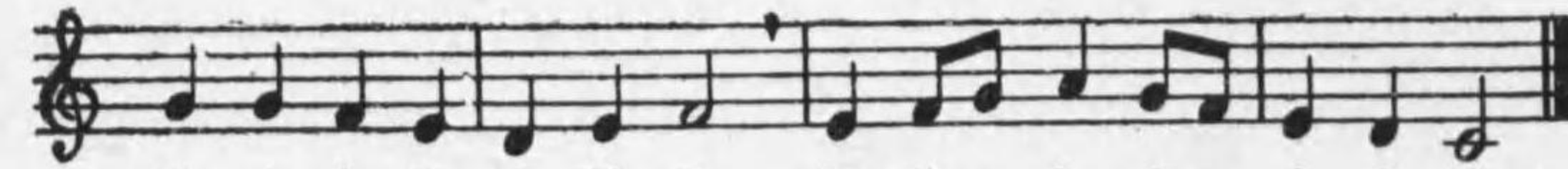
1. か み こ そ こ こ に い ま せ
 2. み か た ち み ま つ ら ね ど
 3. こ こ ろ を さ さ げ ま つ り



ぬ か づ き を が み ま つ る
 も だ し て ま ち お は す を
 お と な ふ よ る こ び は も



ひとりかへし
 ひ と と な り し 主 せ い ひ つ ぬ ち

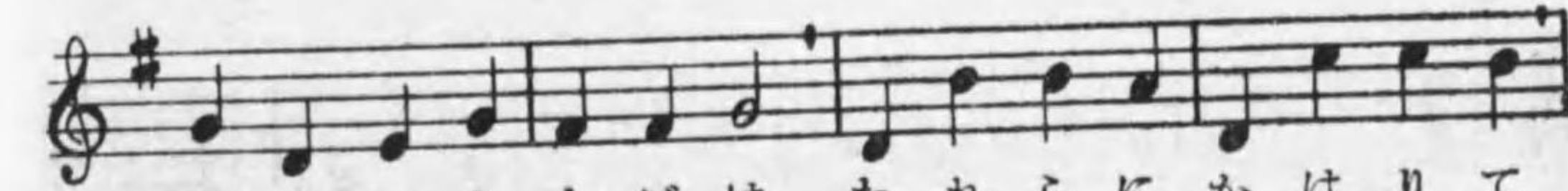


ひ せ き に や ど り お は し ま し ま す

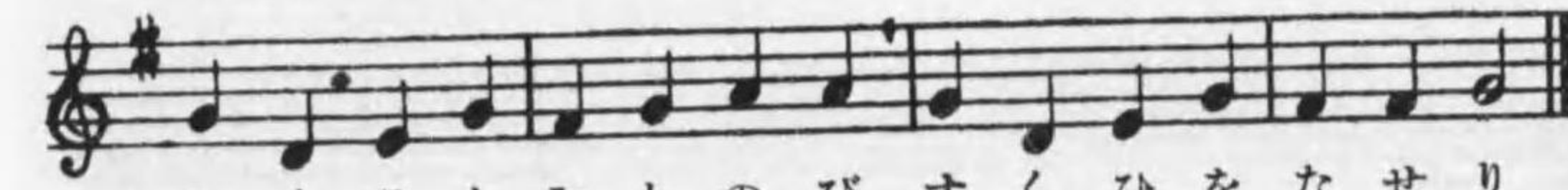
一 神こそ 此處にいませ
 ぬかづき をがみまつる
 (をりかへし)
 人ととなりし主 聖櫃ぬち
 秘蹟にやどり 座しなす
 二 みかたち 見まつらねど
 もだして 待ちおはすを
 三 ところを ささげまつり
 おとなふ よろこびはも



1. ち ち な る み か み よ あ は れ み を た ま へ
 2. あ ま なく だ り み か ま し よ あ み こ わ れ み を た ま へ
 3. せ い な る み た ま よ め ぐ み の い づ み は よ



な が い と し ど は わ れ ら に も か は り て
 わ れ が ら を ま ね き り ち し ほ に い き る よ ま で
 お が ら わ ぎ を は は き り み く に に い き る よ ま で



み く ち る し み し の び す く ひ を た な せ り
 み ち ひ か り の さ し そ へ め み ぐ ち び た き た ま へ

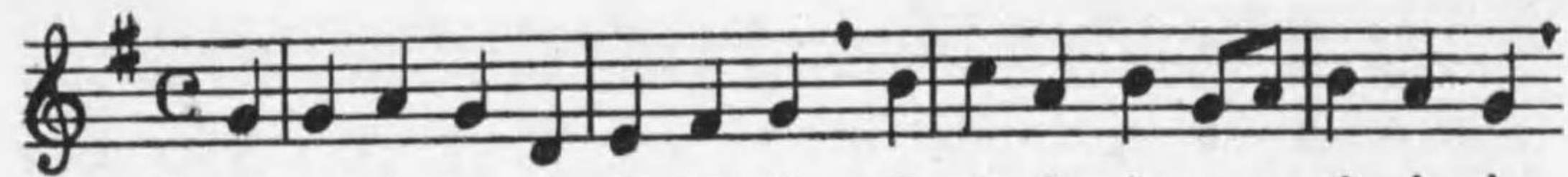
一 父なるみかみよ あはれみを賜へ
 汝がいとし子は われらに代りて
 みくるしみ忍び すくひをなせり
 二 あま降りましし 御子我等の主は
 われらをまねき 血汐もてきよめ
 朽ちぬ世の幸を めぐみたまへり
 三 聖なるみたまよ 恵みのいづみよ
 わが業をはり み國に入るまで
 み光りさしそへ みちびきたまへ

ときはの
み生命こそは
わが身に
衣せられけれ
嶮しき
道ならなくに
おもきを
主にまかせて
やすらけき
世をすごさん

四

87

聖 體



1. いのちのかてにと 主のあたへましし
2. きぞのひうけつる みめぐみにそへて
3. わがためしにまし きよきちをながし
4. ちちみこみたまの ひとつのみかみよ



たふときちとにくなどうけざらめや
またもあらたなり主のたまふちか
いのちをうけよとみここにいませ
ひせきにありてわれをいにかしま

四

ちちみこみたまの
秘蹟にありて
われを生かしませ

三

わがため死にまし
「生命をうけよ」と
み子此處にいます

二

昨日受けつる
みめぐみに添へて
またもあらたなり
主のたまふちから

一

いのちのかてにと
主のあたへましし
たふとき血と肉
など受けさらめや

聖 體

86



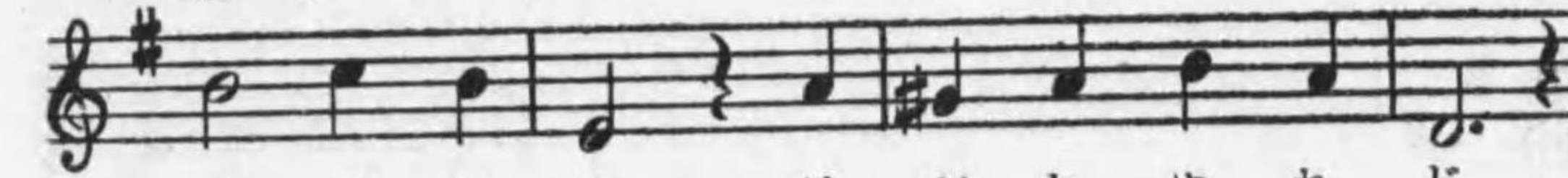
1. めにこそかくれおはせれ
2. わがたまもとめもとめて



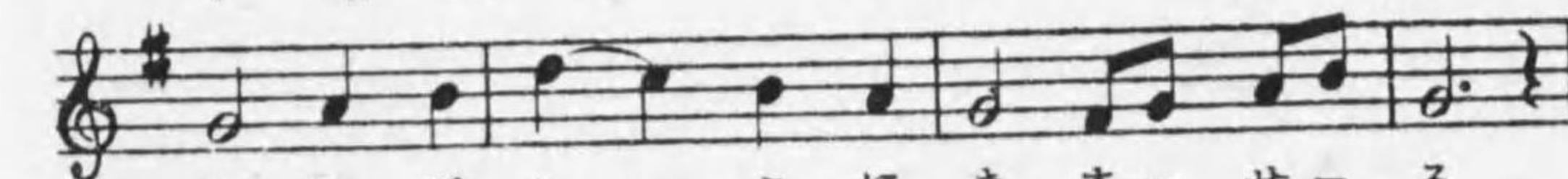
かみこそこもりませれ
あけくれいのりこへる



をがまなんかみををがまなん
主われにやどりせすひを



わがみはけがれぬれど
いまこそながみかたち



かみぞここにきませる
いやしきみにきませれ

三

わが思ふ たふとき君よ
なれをば 食しまつらで
われには 生命なしとふ
みことば われかしこみ
禮まひむかへまつる

二

わが靈魂 もとめ求めて
明けくれ いのり乞へる
主われに 宿りせす日を
いまこそ 汝がみかたち
賤しき身に來ませれ

一

眼にこそ 隠れおはせれ
神こそ こもりませれ
拜まなん 神を拜まなん
わが身は けがれぬれど
神ぞここに來ませる



1. とどめ-たま-ひけ-る たふときかたみ
2. あはれ-わが-主-こそ とはにいまして



じよじか-の に-く と-ち いくよつきせず
ひせき-にあ-もり-つ われらのうちに



主の-みこと-ば-を みで-しらつ-ぎ-て
ちか-くぞお-は-す など-わすれ-め-や



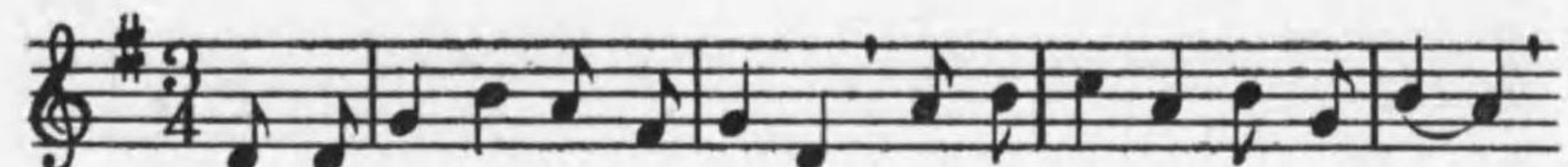
ひせき-につ-かへ-つよをやしな-ひ-ゆ-く
めにみ-まつ-らね-どなどうたが-ひ-せ-め

三

二

一

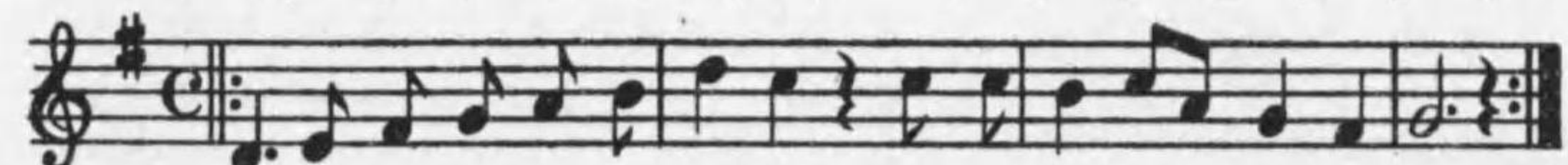
見え給はねども	いま秘蹟には	神のみすがたは	うつせみの人と	秘蹟にあもりつ	あはれ我主こそ	秘蹟につかへつ	主の御ことばを	留めたまひける
奇にぞ戀ほしき	ひとの性さへ	かくれおはしき	なりましし日は	ちかくぞおはす	永久にいまして	世を養なひゆく	御弟子ら繼ぎて	たふとき形見
				眼に見奉らねど	われ等のうちに			いく代つきせず
				など疑がひせめ				



1. ひせきにこもれる すくひぬしこそ
2. もろびとひれふしちのはたてまで
3. むかしはユデアの さかひにおはせ



きよきをとめにし きたりまししか
あさひのめぐりに ミサうちつづけ
いまはくまもなく ひとすむかぎり



いまはそのみをば ちにやど-りせす
みやるいやさかえ ほめうた-たかし
ちかくおはしまし めぐみを-ぞたまふ

(復唱)

近くおはしまし

恵をぞたまふ

三

昔しはユデアの

境域におはせ

(復唱)

宮居いやさかえ

ほめ歌たかし

二

もろ人ひれ伏し

地の果まで

(復唱)

今はその身をば

地に宿りせす

一

秘蹟にこもれる

救ひぬしこそ

きよき處女にし

來りまししか

1. シオンよながうたを うたへたからかに
 2. ちからのかぎりもて ながかみをほめよ

ながすくひのぬしを あめのおほぎみを
 なべてのつくりぬし いかたふとも

きみはながかひぬし ながなぞしります
 すぎてたたへまつる おそれなどかある

うたへそのほめうた あめにひびくまで
 こらよながもださば いしぞたちさげばん

一 シオンよ汝が歌を
 汝がすくひの主を
 君はなが牧ひぬし
 うたへそのほめ歌
 うたへ高らかに
 あめの大神を
 汝が名ぞ知ます
 天にひびくまで

二 ちからの限りもて
 なべてのつくり主
 超えて稱へまつる
 子らよ汝が黙さば
 なが神をほめよ
 いかに稱ふとも
 畏れなどかある
 石ぞ立ち叫ばん

三 恩ぶそのいにしへ
 照る高樓に主は
 きよき肉と血もて
 いのち活くる糧と
 ニサンの夕月
 十二の御弟子に
 おのが身を頒ち
 法典定めましぬ

四 すぎこしの祭りは
 いのち契りましし
 流れながれゆきて
 すくひ生かし給ふ
 いまぞ新らしき
 新約の血
 あまねく人の世
 み恵みぞかしこ

五 世のあがなひ爲まく
 のぼりてみからだを
 ゆだねまかせて血を
 いざや主のいけにへ

六 「斯くなして我をば
 御宣の血と肉の
 パンの肉血の御酒
 日のめぐり行くなべ

七 日毎ささぐるミサ
 御酒は血にかはりて
 眼に見ゆるならねど
 食しまつらねばなど

八 見ゆるはホスチアの
 さとる智慧もあらぬ
 燃えたつころもて
 秘蹟にあまりたまふ

九 いみじきたからこそ
 お坐しかくれたりと
 かてよ飲みものよと
 みくにのそのいづみ

十 ホスチアのくだけよ
 主はうちにこもりて
 われらにぞたまはる
 食しまつるホスチア

十一 みつかひのパンなり
 イサアクのいけにへ
 善きひつじかひなる
 いく千代かはりなき

十二 手負ひし小牡鹿の
 つかれいきづきつ
 傷手いやしたまふ
 みかて身にうけつ

「かくなして我をば
 御宣の血と肉の
 パンの肉血の御酒
 日のめぐり行くなべ

主は詛ひの木に
 悪しきもの手に
 ながさせたまひき
 あふぎ偲びゆかん

主のことばにより
 パンは肉となる
 そは主のみからだ
 主の御弟子ならめ

みかたちのみなり
 われらにしあれど
 信じまつり來ぬ
 主をなつかしみつ

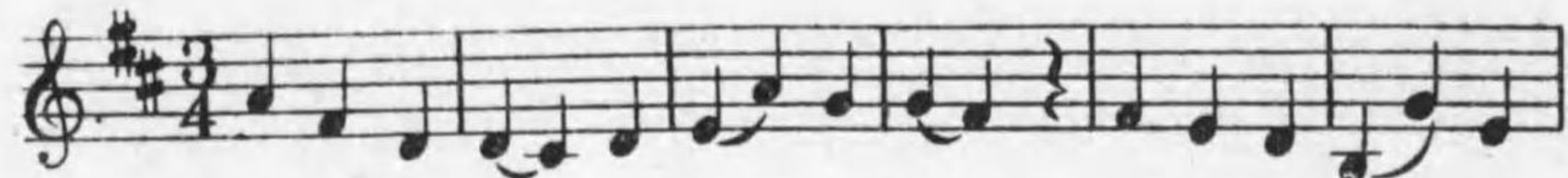
かたちの陰にし
 きみを思ふころ
 靈魂はうゑかわき
 汲む我がさちはひ

御酒のしたたりよ
 全きみからだを
 みこころよたふと
 御血汐ぞこもる

祖先のマンナなり
 すぎこしのちしほ
 おほぎみの御手に
 みやしなひ受けめ

谷にあへぐごと
 主を戀ひにこひて
 愛によるこの身
 いさみ立ちてゆく

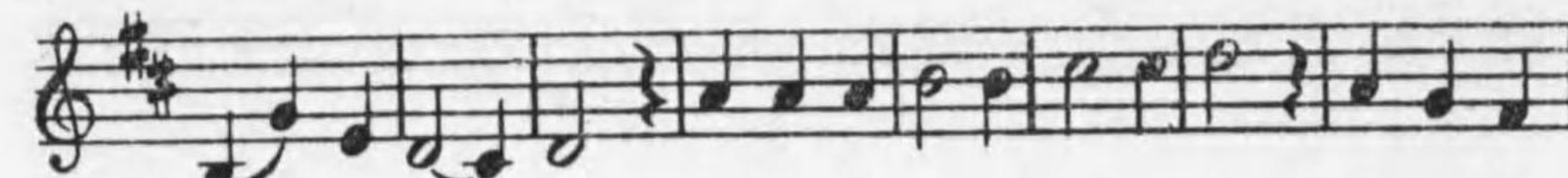
(次頁に續く)



1. ひせきにこもりて われらのう
2. あやになつかしき なぐさめぬ



ちにとどまりたまへるをがみ
しよさみしきひのともころ



まつれば ああエマヌエルよ ころ
のかてよ きみしましまさば よにお



にただよふくしきやすけさ
それあらずくしきへいわよ

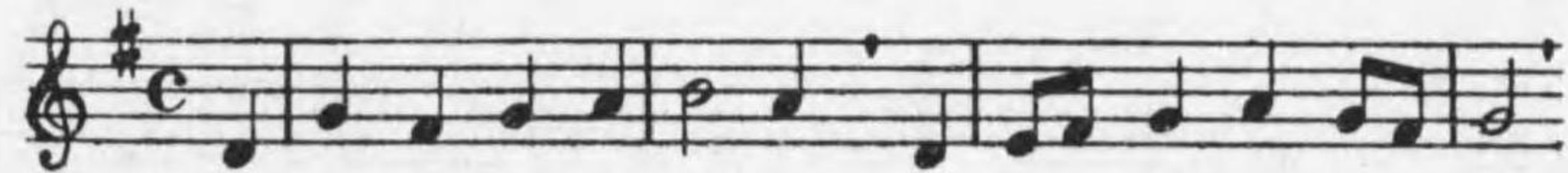
二

あやになつかしき
なぐさめぬしよ
さみしき日の友
ころのかてよ
君しなまさば
世に怖れあらず
奇しき平和よ

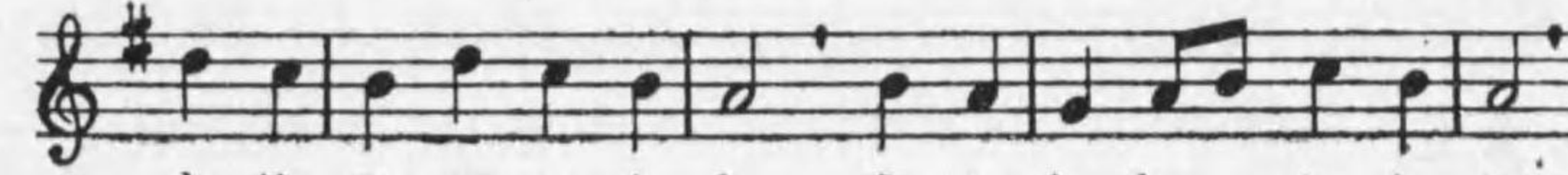
一

秘蹟にこもりて
われらのうちに
とどまりたまへる
をがみまつれば
ああエマヌエルよ
心にただよふ
奇しきやすけさ

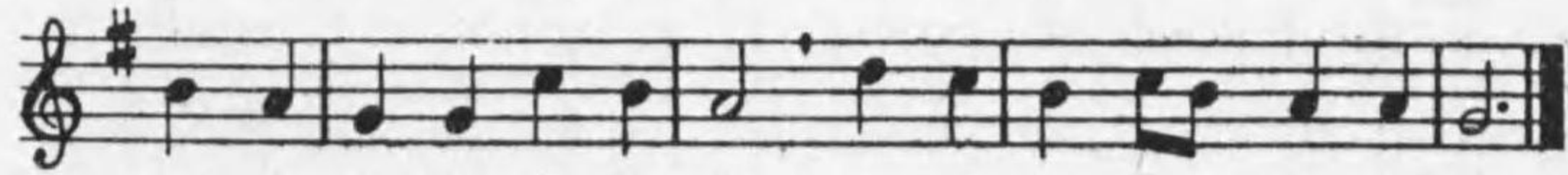
喜ぶぞをがまん
かがやきの聖姿
みまへに進みて
心禮装とのへ
迎へたまへかし
聖けき餐筵にぞ
わが靈魂をば
主よ御國入る時
聲のかぎりして
いざや舉り歌へ
友よほめうたへ
世を知召す主を
わがたき城よ
わがつかよき若よ
上なきよろこび
あなや主は我歌



1. みつかひのパン たびぢのかて
2. キリストいまは このみかてに



あめのマンナよ うゑしわれらの
かくれやおはせ みくにいりせば



ころにきたり みちさせたまへ
まみえぞまつる ただにさやか

二

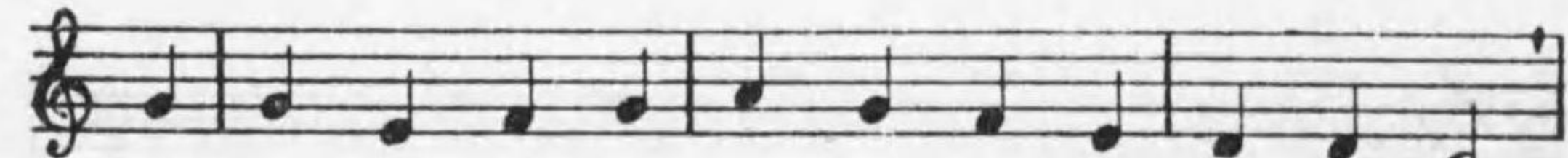
キリスト今は
このみかてに
隠れやおはせ
み國入りせば
見えぞまつる
直に分明に

一

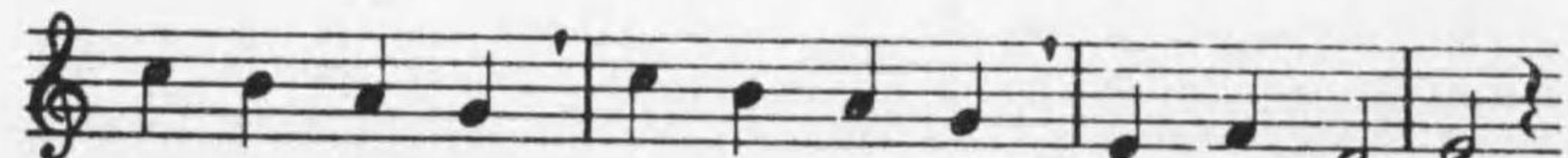
天使のパン
たび路のかて
あめの靈饌よ
饑ゑし我等の
ころに來り
満ちさせ給へ



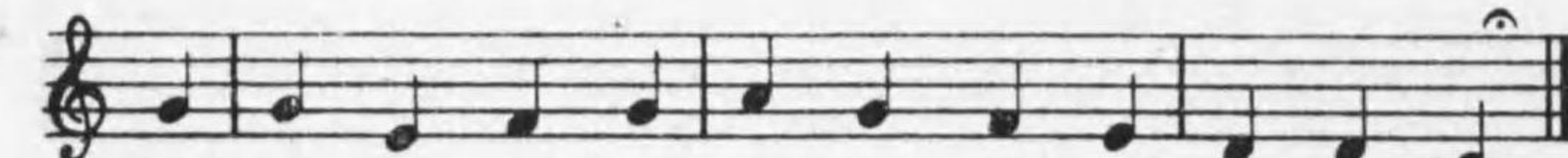
1. ああ主よめにこそみえねど
2. じょじかにかみのさがかくれ



いまよせいいたいぬちおはす
パンぬちひとのさがさへも



こもりみかくりみかしこし
みかくりかくろひ主おはす



をがみまつるそのみからだ
みことかしこみわれしんず

一 ああ主よ 眼にこそ見ねど
籠りみ 隠りみ かしこし
をがみまつるその御體

二 十字架に 神の性かくれ
麵麩ぬち人の性さへも
身隠り 隠ろひ 主おはす
御言かしこみわれ信す

三 トマスの 疑雲うち晴れ
見ずて信する神の子の
聖なる 生命よ こもりて
いざ弱き我を生かせよ
(聖トマの祈り)



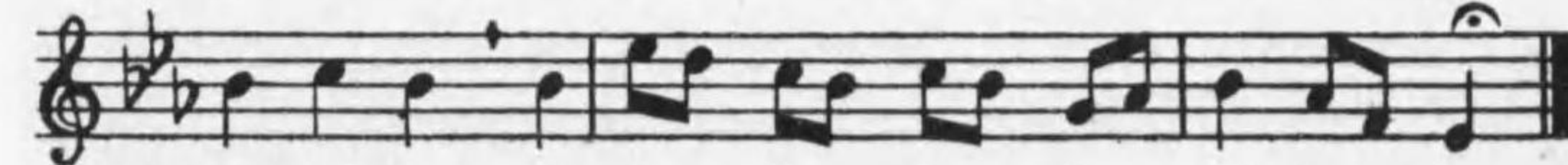
1. よろこびのくーにーのおほぎーみに
2. わがしたひまーつーるきみがーみか



まーすー主みもーろーにおはして
らーだーよかりーほーはいぶせし



われーらーにちかづきかぞへーもつー
かしーこーみもあらずはづかーしめー

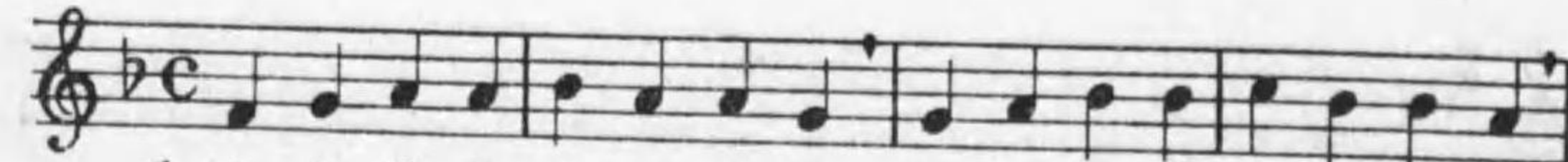


きせぬみめーぐーみーをーぞたーまふ
さはに しぬーびーやーおーはすーらん

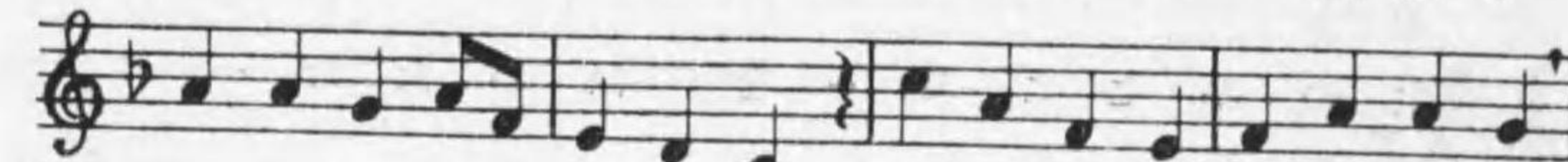
一 よろこびの國の 大君にます主
聖櫃におはして われらに近づき
數へもつきせぬ み恵をぞたまふ

二 わが慕ひまつる 君がみからだよ
假宮はいぶせし 畏こみもあらず
はづかしめ多に 忍びや在すらん

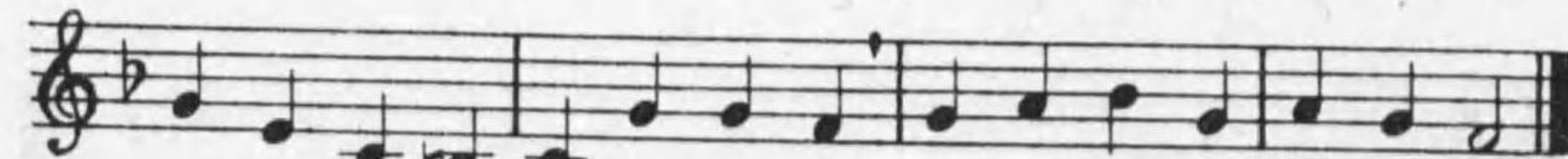
三 率へりくだりて 禮まひ奉らん
數多主を無みし 畏れなきひとに
つぐのひ祈りて 主に仕へ奉らん



1. きよけき主のあいわれらのこころに
 2. 主とともにいきてそあいのほのほ
 3. あいのひはげしくもえずてやはある



もえしめ—たまへ—このみと—たまとを
 あがれそ—らへ—にあまつみに
 みこころ—の—く—ひえや—すきこころ



みてろこに—きさの—ぐれたば—主よ—うけ—たまへ—
 こころに—い—か—たれ—と—は—に—か—が—や—く

三

愛の火はげしく 燃えずてやはある
 みこころのくに 冷えやすきところ
 茲にいかされて 永久にかがやく

二

主と共に生きて その愛のほのほ
 あがれ空へに あまつみくににて
 よろこびの歌の ひびかふまでに

一

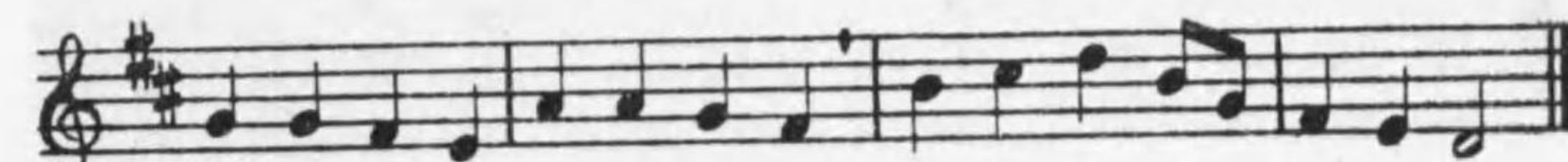
きよけき主の愛 われらのこころに
 燃えしめたまへ この身と靈魂とを
 み手に捧ぐれば 主よ受けたまへ



1. あいのいけにへ—の—主のみこころこ—そ
 2. つみとがけがれ—を—たふときちしほ—に
 3. きみがみこころ—を—かがみとあふぎ—て



われらののぞみ—うきよのなぐさめ
 あらひきよめて—わがすくひぬし—の
 おもひをきよめ—あゆみをただして



つきぬよろこびの—くを—んの—いづみ
 おほみこころをば—か—しこみ—ゆか—なん
 さかえの—かむりを—え—ま—くほ—り—する

四

我等は祈らなん 國々島々
 聖教のひかりを かしこみ仰ぎて
 君がみこころに 添ひまつる日を

三

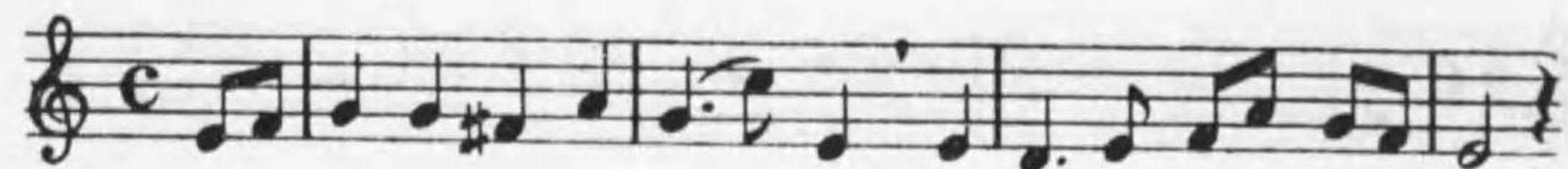
君がみこころを かがみと仰ぎて
 おもひを淨め あゆみを匡して
 榮光のかむりを 得まく欲りする

二

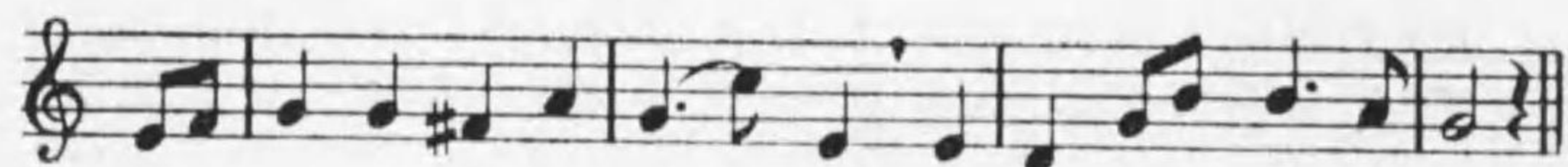
つみとが穢れを たふとき血汐に
 あらひきよめて 我がすくひ主の
 大御心をば 畏こみゆかなん

一

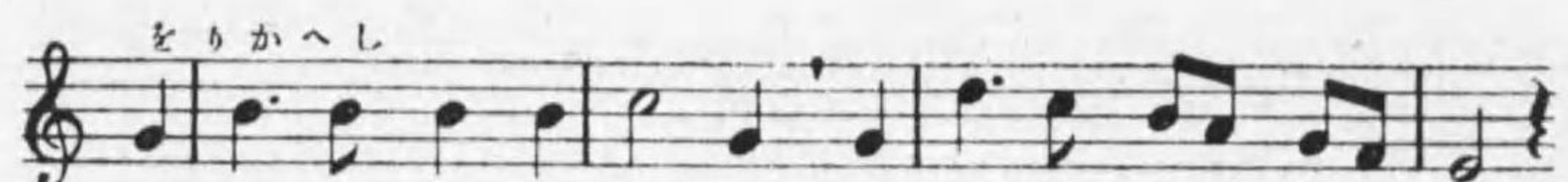
愛のいけにへの 主の聖心こそ
 われらののぞみ 憂世のなぐさめ
 盡きぬ喜びの 久遠のいづみ



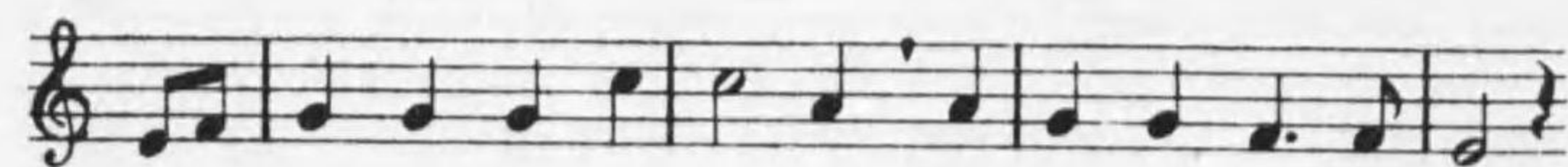
1. しーらべもたへーに こゑたかーらーに
 2. なーやみくるしーみ ながためーにーし
 3. あーいのひもゆーる 主のみこーこーろ



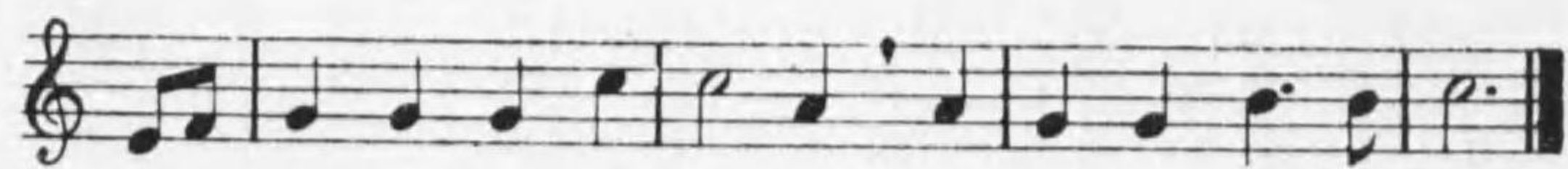
主ーのみこころーを ほめたーたへよ
 みーこころこそーは うけまーしけれ
 めーぐみあふれーて なれをーみたす



いざやもろびと とこしなへーに



ほーめよたたへよ 主のみこころ



ほーめよたたへよ 主のみこころ

歌詞は前頁と同じ

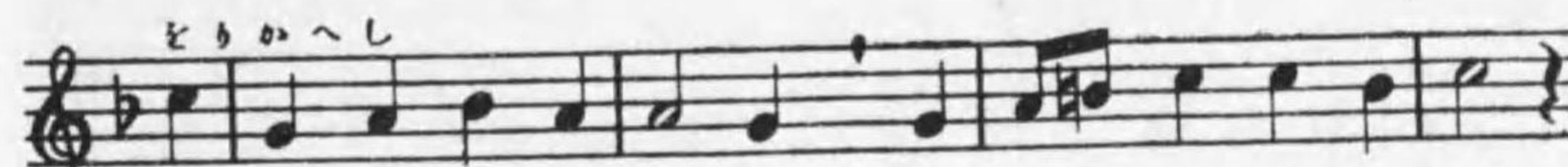
(但しをりかへしの最後の一行のみ相違)



1. しらべもたへーに こゑたからに



主のみこころーを ほめたたへよ



いざやもろびと とこしなへに

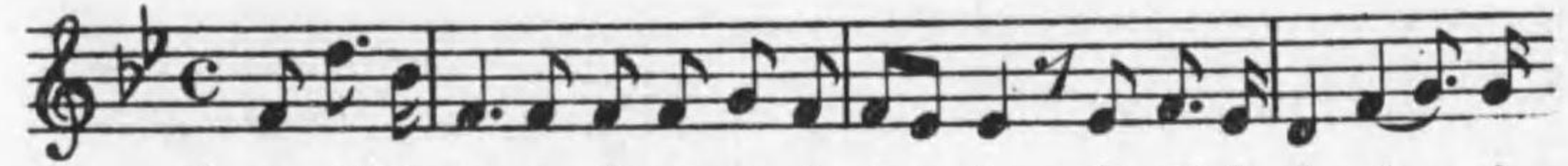


ほめよたたへーよ 主のみこころ



主のみこころ

三	二	(をりかへし)	一
めぐみあふれて	なやみくるしみ	いざやもろびと	しらべもたへに
なれを充たす	みこころこそは	ほめよたたへよ	こゑたからに
	受けましけれ	主のみこころ	主のみこころを
	汝がためにし	主のみこころ	ほめたたへよ
		とこしなへに	とこしなへに



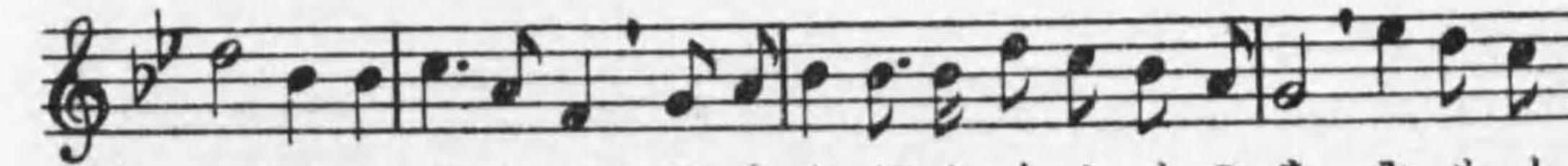
1. いざやこよ主のみもとーに ながらくべーき
2. おもきをおひなやむもーの などきたりーお



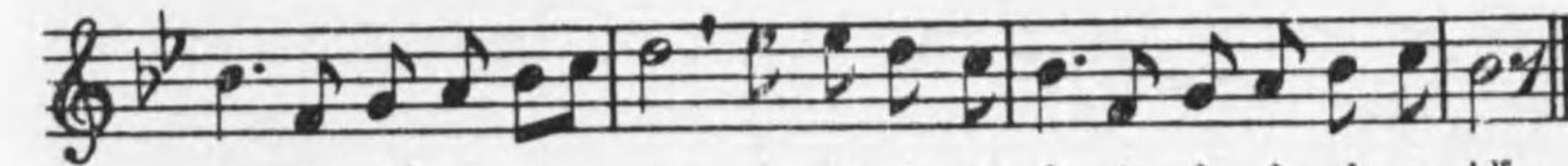
めぐみーみてにあふれあふれたーり あめの
ろさぬー主のかるきくびきをとーり ころろ



とりかへし
うまーしきかて わが主のみこころ わが
やすーけくあれ



よにおはして みむねにかなふものを みもと



にめしつどーへ よきもてあかしたまへば

一 率や来よ主の御許に
汝がうくべき恵み

み手に溢れ溢れたり
あめの美しき糧

(をりかへし)

わが主のみこころ

わが世におはして
みむねにかなふ者を

み許に召しつどへ
善きもて飽し給へば

二 重きを負ひなやむ者
など来たり下さぬ

主のかるき輓をとり
ころろ安けくあれ

三

渡津海の荒き波も

宣ります一こゑに

風の共きき従がひ

静けくぞなりける

四

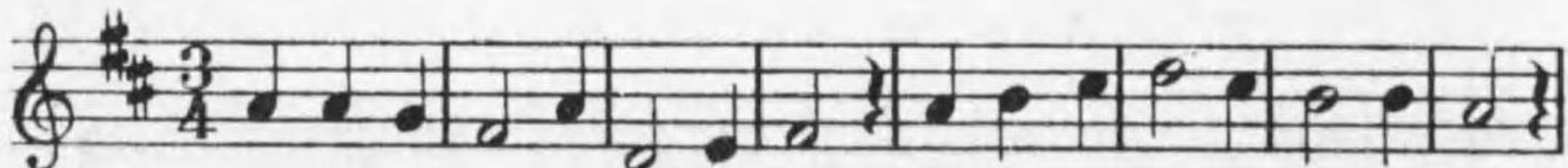
主にある歡こそは

永久につきせぬ幸

誰か掠め奪ふべき

汝が贏ち得し寶

聖 心



1. もろびとこぞりて たたへにたたへよ
2. みめぐみあふれて かみのみこころよ



あいなたかなーれる 主のみこころなり
いくちよわたーりて ながさめぞたまふ

一

もろ人舉りて たたへに稱へよ

愛に高鳴れる 主の聖心なり

二

み恵み溢れて 神のみこころよ

幾千代亘りて ながさめぞ賜ふ

三

うららの朝に わびしき夕べに

偲びまつる君 イエズスの聖心

四

尊ときわが友 救ひのみこころ

臨終の時にも みちびきを賜へ



1. なやみしげきたびなれや ところまどはすきりの



ゆくてにたちこめつや わがたまのなげかふ
とりかへし

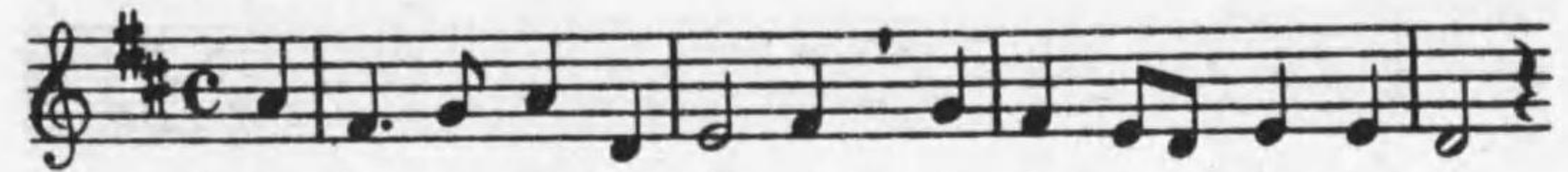


うつしみのいくべき みちのしるべと



てらしたまへ きよけきひかり あいのみかほ

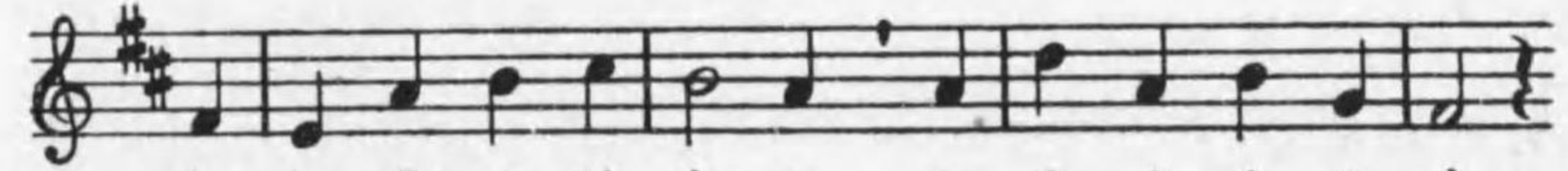
- 一 悩^{なや}みしげき旅^{たび}なれや ところ惑^{まど}はす霧^{きり}の
行^{ゆくて}手に立^たち置^こめつや わが靈^{たま}のなげかふ
- (をりかへし)
- 二 君^{きみ}は世^よの悪^あしき中^{なか}に 傷^{きず}つき倒^{たふ}れましき
されど聖^{みこころ}心こそは にこやかに在^ましけれ
- 三 など恐^{おそ}るる小^ちさき群^{むれ} み國^{くに}汝^{なれ}にあればと
なぐさめの御^み聲^{こゑ}して 望^{のぞ}みぞあらたなる
- 四 正^{ただ}しく清^{きよ}く雄^を々^をしく 歩^{あゆ}みを主^{しゆ}に倣^{なら}ひて
君^{きみ}のみむねのままに 喜^{よろこ}びつつすすまん



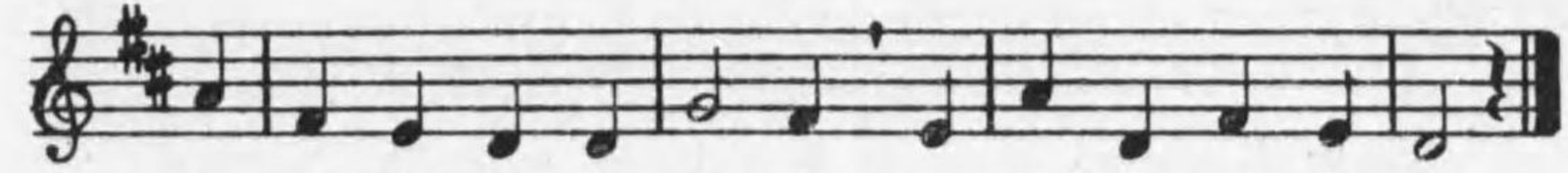
1. はるはうばらよ はなさきいで
2. あたはうばらの とげを-あみて



みこころか-ざる よきか-むりと
さすやみか-ほの ちには-そめど

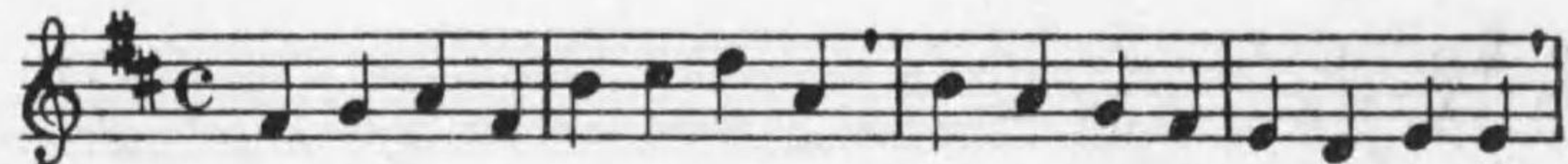


こころのはなの かをりたかく
あかきみこころ われをいかし

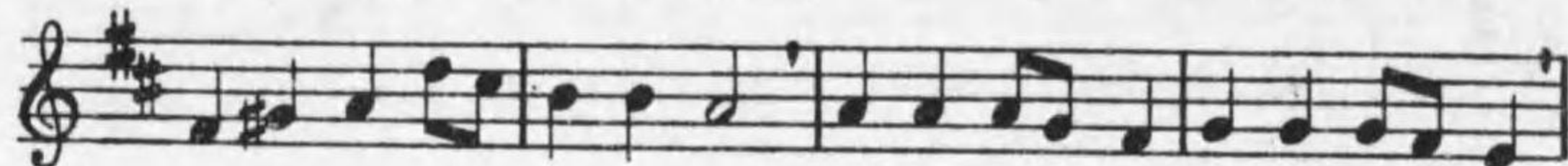


みくにの さかえ いやか が や く
からき うきよは そのと な り ぬ

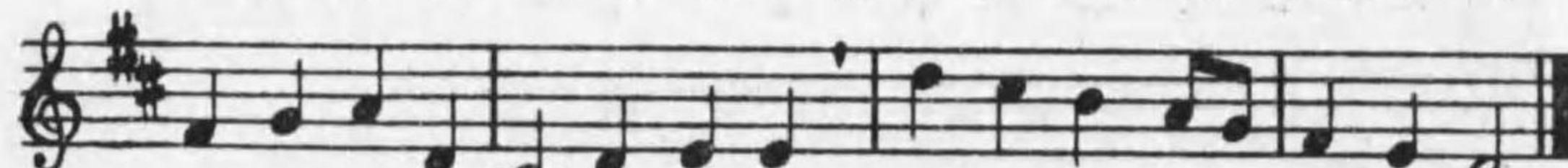
- 一 春^{はる}はうばらよ はな咲^さきいで
みこころ飾^{かざ}る よきかむりと
- 二 仇^{あだ}は茨^{うばら}の 蕨^{わづ}を編^あみて
刺^さすや御^み顔^{かほ}の 血^ちには染^そめど
- 三 我^{われ}よこの世^よに はづかしめを
いかに忍^{しの}ぶも わがみこころ
- 祝^{しゆく}したまへば 蕨^{わづ}は花^{はな}の
藁^{わら}となりて われを幸^{さい}はふ
- 辛^{から}きうき世^よは 園^{その}となりぬ
- 赤^{あか}きみこころ われを活^いかし
- み國^{くに}のさかえ いやかがやく
- こころの華^{はな}の かをりたく
- み國^{くに}のさかえ いやかがやく



1. イエズスのみこころ われらのたすけよ
 2. いつつのみきずは あげにそみたまひ
 3. みてにつくわれぞ いざいさみたてよ

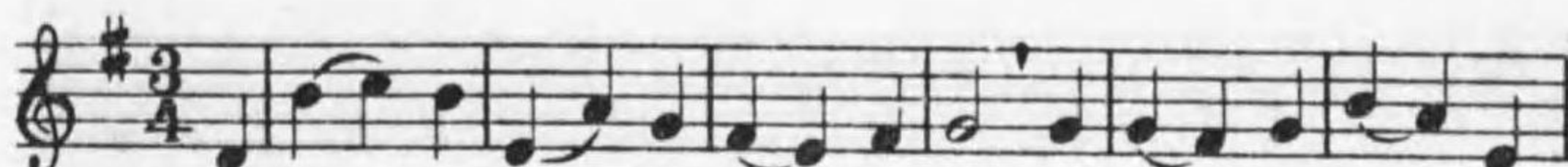


よのたたかひに きずつきつかるる
 われらのために いたみくるしみて
 みむねのままたたかひふるひて

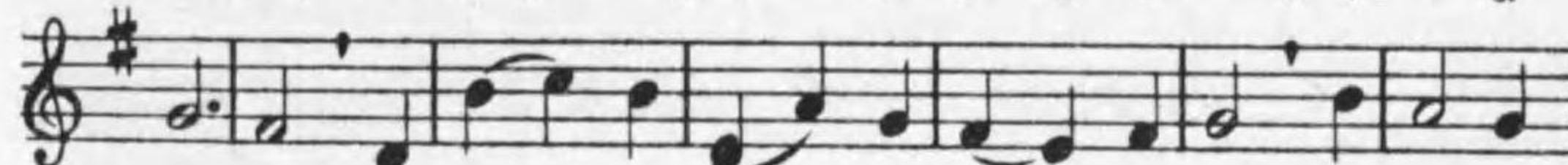


このみとりでと きみやたたせる
 にぶれるころを はげましたまふ
 かちのかむりをば あめにうけまし

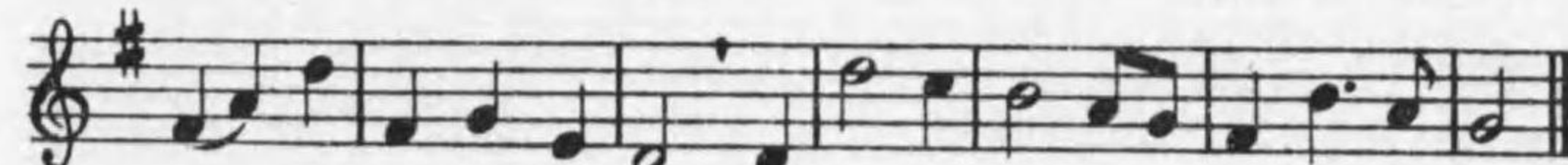
<p>四 君はわがのぞみ いのちの清水 裂かれし御脇に ほとばしる泉</p>	<p>三 みむねのままに 勝利の冠をば あめに受けまし</p>	<p>二 鈍れるころを われらの爲めに 痛みくるしみて はげましたまふ</p>	<p>一 イエズスの聖心 われらの助けよ 傷つきつかるる きみや立たせる</p>
--	---	---	--



1. あふぐもかしこし 主のみこころ
 2. さかえかがやけば よものくに
 3. たぎつましみづととこよにな




るよひにけにみたみはみなを
 たみとはのさちもとめみもと
 がれいためるこころをいかし



こそたのみてまなくぞよびまつる
 につどひきてつみのゆるしこへり
 ゆくいのちぞなぐさめのみこころ

<p>四 いまはの床にも ともにぞいまして みちびき給へかし</p>	<p>三 たぎつ眞清水と いためるころを 慰めのみこころ</p>	<p>二 さかえかがやけば 永遠のさちもとめ 罪のゆるし乞へり</p>	<p>一 あふぐもかしこし 日にけに御民は 間なくぞ呼び奉る</p>
<p>あいのみこころ 永遠の旅やすけく</p>	<p>とこ世にながれ 活しゆくいのちぞ</p>	<p>四方のくにたみ みもとに集ひきて</p>	<p>主のみこころよ 御名をこそ頼みて</p>



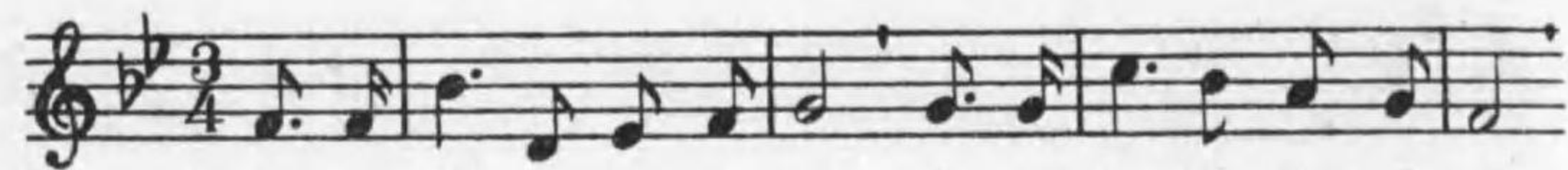
1. やーすみーししー わがおほーぎみは
 めーにみーえずー ふれずきこーえずー
をりかへし
 さあれわれーしるー みなびとの
 こふるみこころー おーとなへばー
 うべもこひーけりー たまのさやーけみー

四	三	二	(をりかへし)	一
憎みあへるを 照しおはさめ みこころや	ひとりし君が 死ぬる心の やすけさは	君はあはせれ 陰府の澳へに 地のはたて	恋ふる聖心 うべも戀けり おとなへば	八隅しし わが大君は 觸れず聞えず 眼に見えず さあれ我知る
われ安きあり 世のひとは	語りおはす日 黙ならす	尊ときろかも 我がゆくも	靈のさやけみ おとなへば	



1. ひーじりーらーを うみしきみーはーも
 おーほきーなーる あめのちかーらーの
をりかへし
 たーかくこもれーる あーるをあーり
 なきをぞなーしーと まーさやーけーく
 こといひなーせーと のーりしみこころ

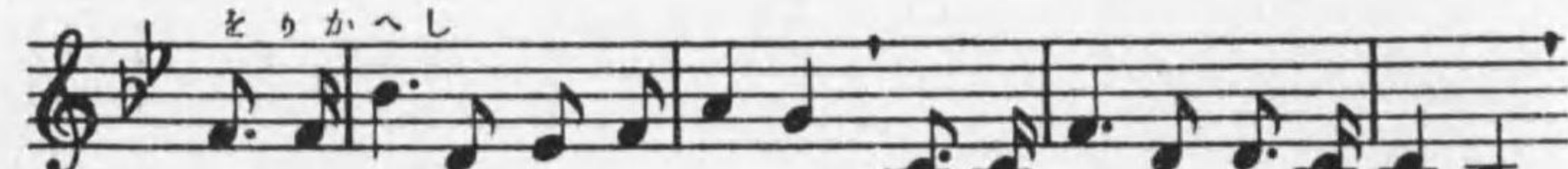
三	二	(をりかへし)	一
まづしかりけれ なびきしわれぞ	神のみこころ 彌しきゆかむ	あるをあり なきをぞなしと 言ひひ爲せと	生みし君はも あめのちからの 高く籠れる
きみが手に 禮や忘るる	福音ぞよき 日々なべて	まさやけく 宣りし聖心	大きなる



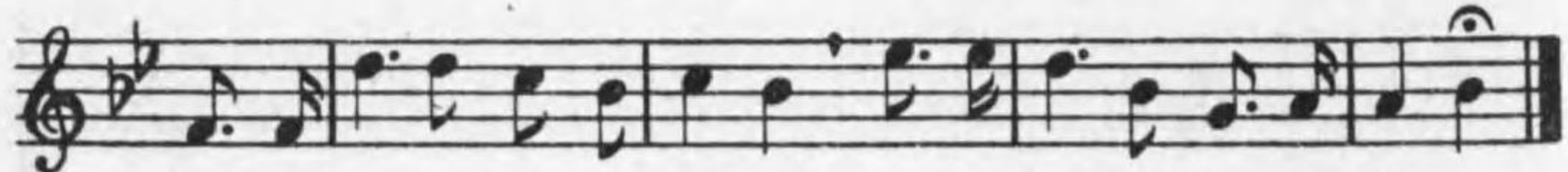
1. よろづのくにのきみたるイエズス
2. わがひのものとくにをさきはひ



やまとのくにをなれにぞささぐ
かみのみくにとなさしめたまへ



きみのみこころにわれらとこしへに



まことをぞちかはん主よわたりたまへ

一 よろづの國の 君たるイエズス
やまとのくにを なれにぞささぐ

(をりかへし)
君のみこころに 我等とこしへに
忠誠をぞ誓はん 主よ王たり給へ

二 わが日のもとの 國をさきはひ
神のみくにと なさしめたまへ

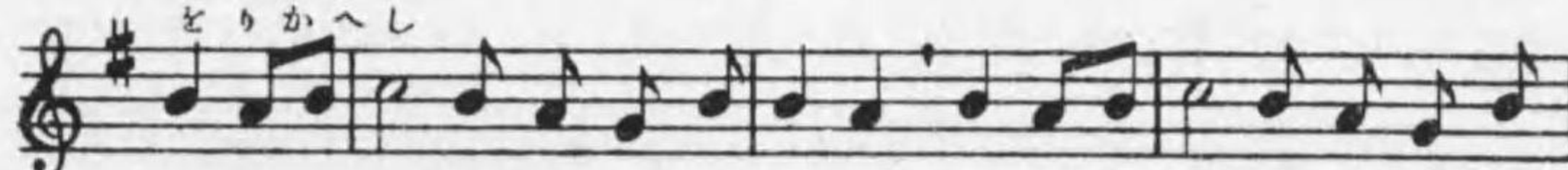
三 闇にむか伏す 敵をくじきて
み旗のもとに かちうたあがる



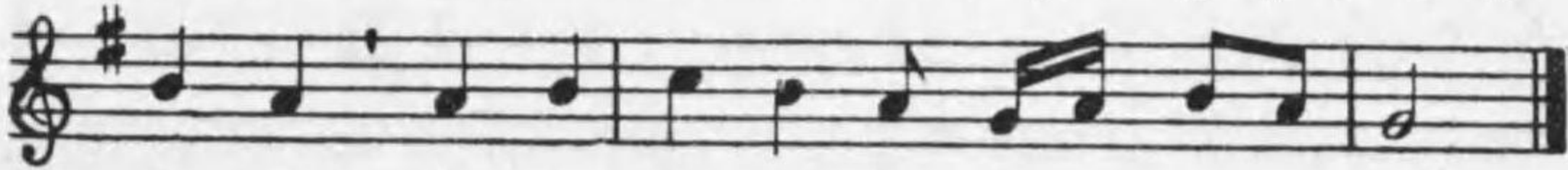
1. あはれみのみこころ わがなげかひを
2. ちちようたてわれは くさぐさのつみ
3. くいのみだふりて たぎるたきつせ



よそになみたまひそすくはたせまへ
みにしげけきをくゆかへりみたまへ
みなよびまつるさへわれやくづを



あはれみのみこころわれをなすてま



しそわれよりたのめば

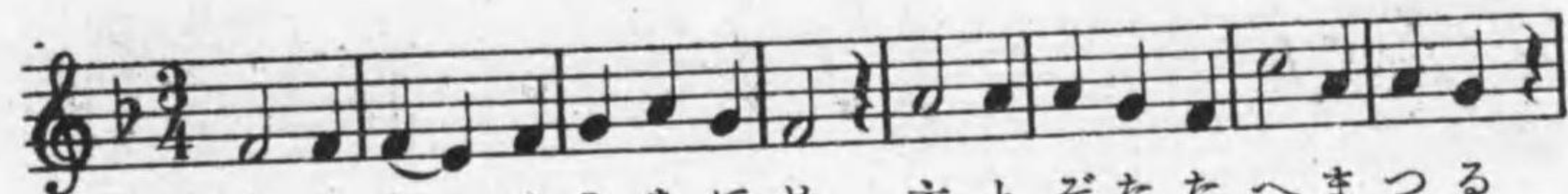
一 あはれみの聖心 わが歎かひを
よそにな見給ひそ 救はせたまへ

(をりかへし)
あはれみの聖心 我をな捨ましそ
われ依り頼めば

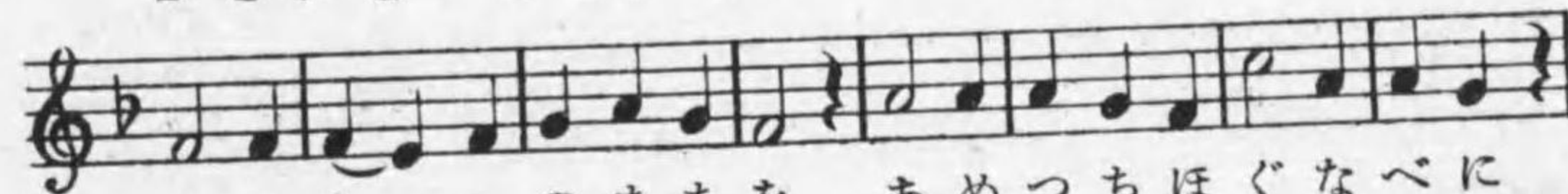
二 父ようたてわれは くさぐさの罪
身に繁けきを悔ゆ かへりみ給へ

三 悔いの涙零りて たぎる瀧つせ
み名よび奉るさへ 我やくづをる

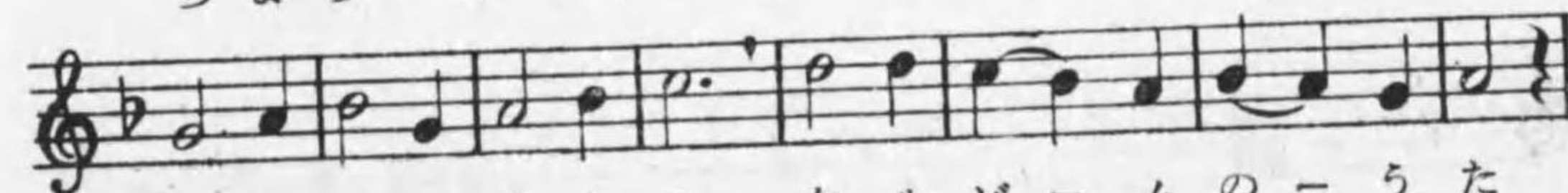
四 たふときみ救ひに 萎えたる足を
いまやい立たし我 み許にぞゆく



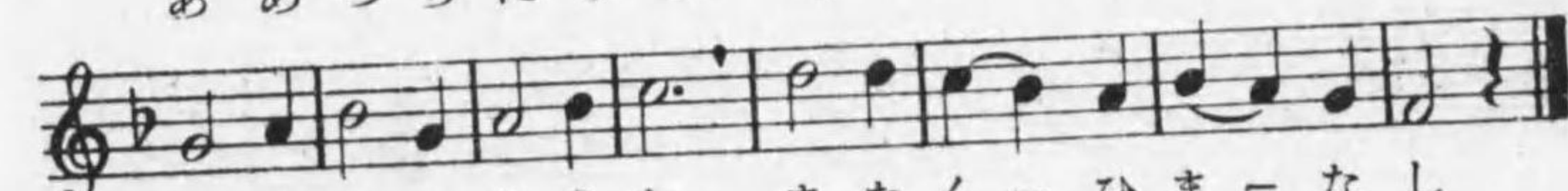
1. われら—かみをほめ 主とぞたたへまつる
2. せいなる—るせいなる せいなるわがみかみ



とし—へのちちを あめつちほぐなべに
ちよる—づのいくさ ひきゐきたまふわが主



みつかひうたふ ケルビ—ムの—うた
あめつちにみつ そのみ—さか—えと



セラフ—ムのうた まなく—ひま—なし
さけぶそのこゑ みそら—にと—よむ

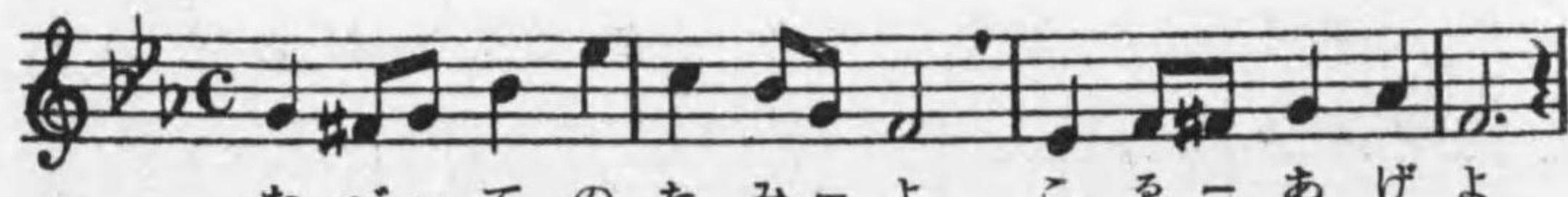
四 三 二 一

われら神を讃め
としへの父を
みつかひうたふ
セラフ—ムの歌
「聖なる聖なる
ちよるづの軍
あめつちに満つ
さけぶそのこゑ
尊ときみ弟子ら
生命をささげし
きみに屬くもの
量りもあらぬ
父と子と聖靈
ただひとり神
をとめにやどり
死と陰府に勝ち
主とぞ稱へ奉る
天地祝ぐなべに
ケルビムのうた
間なくひまなし
聖なるわが御神
率來たまふ我主
その御榮えと
みそらに響む
榮譽ある聖者ら
證し人らこそぞり
競ひうたへば
御稜威かがやく
三つに御座せど
世を救ひの爲に
くるしみしのび
天にゆきたまふ

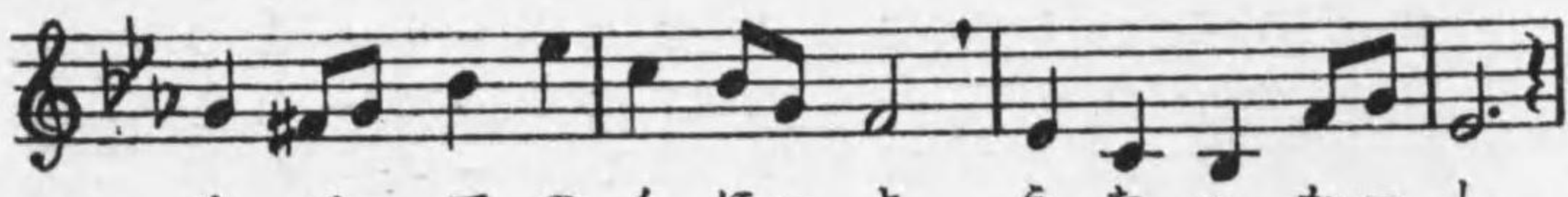
六 五

御門をばひらき
生るをば求めつ
主はまた來りて
世を審給ひなん
主よなが血もて
あがひしを受け
聖徒のむれに
入れたまへかし
主よ御民のため
み國の榮光をば
かぎりなく保ち
日にけに守ませ
われらはいのる
きみのあはれみ
主によるわれに
罪な賜ひそ

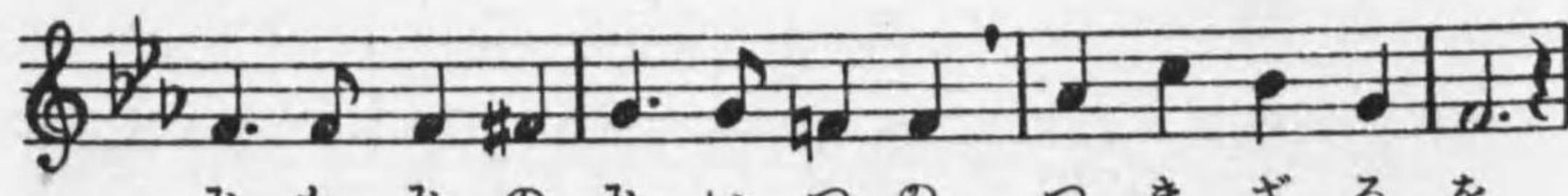
109 主に對する讚美



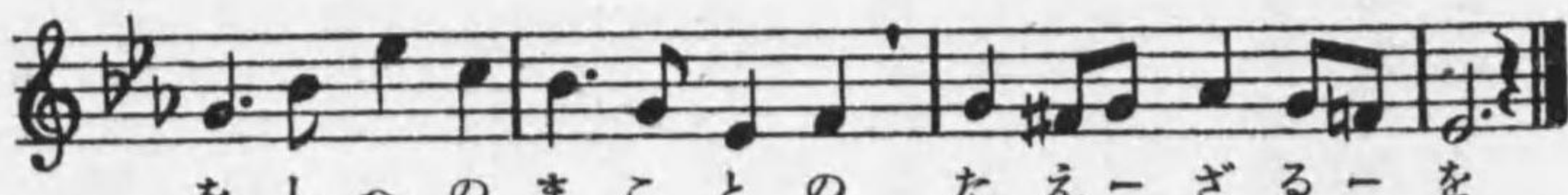
なべ—てのたみ—よ こゑ—あげよ



なべ—てのくに—よ うた—へか—し



みかみのみいつの つきざるを



をし—へのまことの たえ—ざる—を

二 一

なべての民よ
こゑあげよ
なべての國よ
うたへかし
御神の陵威の
盡きざるを
教への眞理の
たえざるを
三位にいます
ひとりの主
とはのみ榮え
あれよかし
始めに在し
そのごとく
今も後の世も
としへに

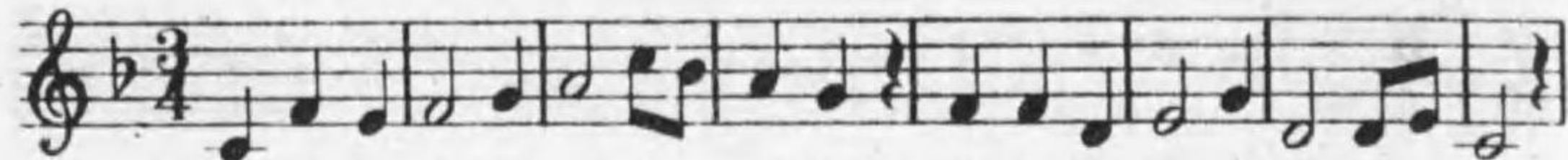
I. なみだのかわくひまなく うきよ
 のなげきしげし ただきみのみぞかは
 らぬ たのみにますぞうれし
 ろりかへし
 うつせみの はかなきよに は
 なげきよるかげもなし つみの
 ゆるしやいかで きみならでこひえめや

一 なみだのかわく隙なく
 うき世のなげきしげし
 ただ君のみぞかはらぬ
 たのみにますぞうれし
 (をりかへし)
 うつせみの儂き世には
 なげきよるかげもなし
 つみのゆるしやいかで
 きみならでこひ得めや
 二 み足のもとにうちふし
 おのがつみおもひ出で
 みあはれみを乞につつ
 いのるこころもかなし
 三 父のみいかりをなだめ
 身は十字架にかかりて
 罪の子をば召したまふ
 みいつくしみたふとし

1 主こそわがほまれよ ひかりよたからよ
 2. いのちよよろこびよ ちからよたすけよ
 3. あはれみのみかみよ あめのみたすけに
 うましきやすらひよ たぐひなきともよ
 ながなぐさめをこそ われはまちのぞめ
 とこしへのさちこそ さだやかにあらめ
 まごころつくして めでつかへまつらん
 ながみいつくしみ なにかはたとへん
 あだにすぎしひの みゆるしをねがふ

一 主こそわが榮譽よ ひかりよたからよ
 美しきやすらひよ たぐひなき友よ
 まごころつくして 愛で仕へまつらん
 二 いのちよ歡喜よ ちからよたすけよ
 汝が慰めをこそ われは待ちのぞめ
 ながみいつくしみ 何にかはたとへん
 三 あはれみの御神よ あめのみたすけに
 とこしへの幸こそ 定やかにあらめ
 徒空にすぎし日の みゆるしをねがふ
 四 數多あやまちてし つみのつぐのひを
 のこりなく果して み許にぞかへらん
 燃えよ愛の火よ めぐみにこたへて

(聖アウグスティノの言書より)



1. あめにますみちーちよ きよきみなをこーそ
 2. あはれ主のみくーによ のぞみきたれかーし
 3. ゆるしませわがーつみ さわれひとにせーば
 4. みめぐみたらひーなば ところのすさみに



あめつちーしもーこーぞり あがめせさせたまーへ
 みむねよーなさーれーかし ちにもあめのごとーく
 めぐみたーまへーけふしも ひびのいのちのかーて
 ところみーやおーそーひなん あくよりすくひまーせ

一 天あめにますみちちよ きよき御名みなをこそ
 あめつちしもこぞ舉り あがめせさせ給へ
 二 あはれ主しゆの御國みくによ のぞみ來たれかし
 聖旨みむねよなされかし 地ちにも天あめのごとく
 三 ゆるしませわが罪つみ 然吾われ他人ひとにせば
 恵み給へ今日けふしも 日々ひびのいのちの糧かて
 四 み恵み足らひなば ところのすさみに
 試こころみやおそひなん 惡あくよりすくひませ



1. あめにます われらのちちよ ねがはくは
 2. みくにきて みこころここに おこなはれ
 3. けふこのひ またもたまへや みとたまの
 4. そむきぬる つみゆるしませ われもまた



み な あめつち に は え ま さ ま し を
 さ な が ら に し て あ ま つ み く に み
 な く て ゑ た え ぬ ひ び の わ が か て
 わ れ に お ひ ぬ る ひ と を ゆ る せ ば

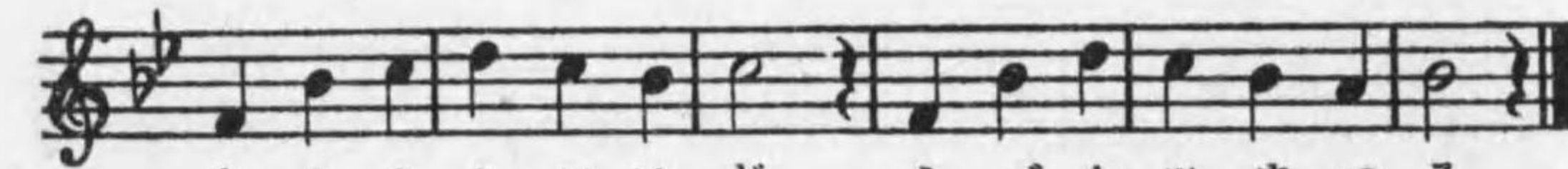
一 天あめにます 我等われらの父ちちよ 願ねがはくは
 御名みなあめつちに 映はえまさましを
 二 御國みくに來て 御心みこころここに 行おこなはれ
 さながらにして あまつみ國くにみん
 三 今日けふこの日ひ 又またも賜たまへや 身みと靈たまの
 なくてぞ堪たえぬ 日々ひびのわががて
 四 脊せききぬる 罪つみ赦ゆるしませ 我われもまた
 われに負おひぬる ひとをゆるせば
 五 世よにあれば 折をりの荒あびに 誘さそはれて
 惡あくきに入りなん 主まよまもりませ



1. かみにま—せば などやいつはりの
 2. みちかひ—こそ つゆもたがはじと
 3. かみのあ—いに ならへるわれらぞ



みさとしあらめと みことばすべて
 みあるじのたまふ とはのいのちの
 ところをつくして かみをばあいし



われうたがはず うづなひまつる
 すくひののぞみ きゆるときなし
 わがみのごとく ひとをもあいせん

三

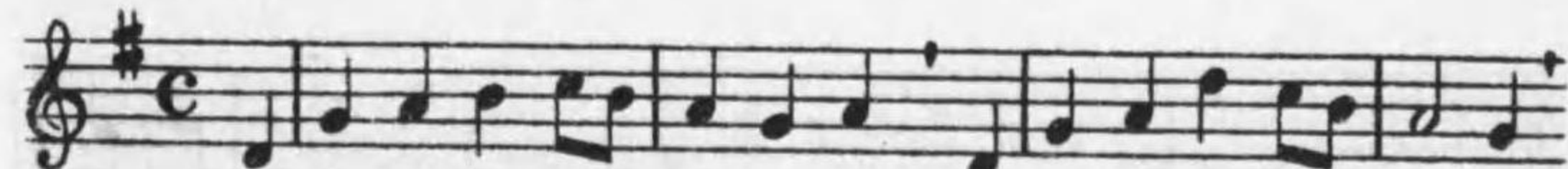
かみのあいに ならへる我等ぞ
 ところを盡して かみをばあいし
 わが身のごとく 人をもあいせん

二

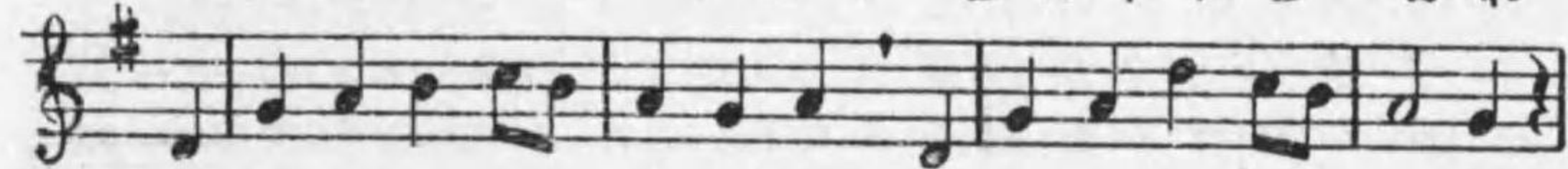
みちかひこそ つゆも違はじと
 みあるじの賜ふ とはのいのちの
 すくひののぞみ 消ゆるときなし

一

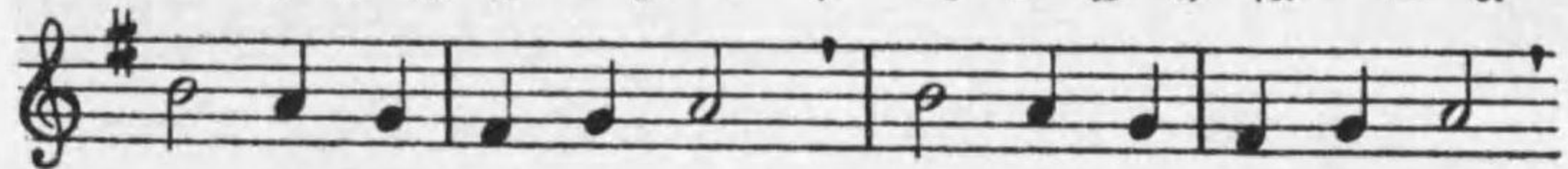
かみにませば などや虚偽の
 み啓示あらめと みことばすべて
 われうたがはず うづなひまつる



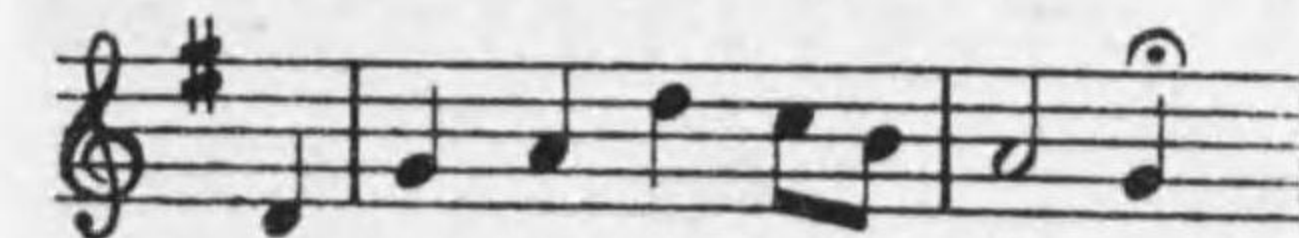
1. みかみのた—まひしまことぞたふとき
 2. みいつくし—みこそ あふれにあ—ふれ



とはにかは—りなき みめぐみの—もと
 のぞみはか—がやく そのあけぼ—のよ



よろこびわく このいづみに
 主のみちかひ おもひいでて



いのちくま—まし
 みそらをあ—ふぐ

三

わがつくり主に ところをつくし
 世の人ことごと あいもて睦ぶ
 あいもて知る あいのくにに
 身を捧げなん

二

み愛くしみこそ あふれにあふれ
 希望はかがやく そのあけぼのよ
 主のみちかひ おもひ出でて
 みそらをあふぐ

一

み神のたまひし 眞理ぞたふとき
 永久に變りなき みめぐみのもと
 よろこび湧く このいづみに
 いのち汲ままし

髪毛のことごと
かぞへたまへる
主はわが隠れし
よわきをすれば
なぞ善きたすけ
わすれやおはす

神よたかぶれる
われにむちうち
祈りごころもて
みせつりに倚り
雄々しくきよく
生かしめたまへ

五 六

117 奉 献



1. みもたまも 主にささげ
2. よにあるも よをさるも
3. あめにゆく そのひまで



みこころに ゆだねまつらなん
とこしへに みてにたよらなん
いときよく まもらせたまへ

一 身もたまも
主にささげ
みこころに
委ねまつらなん

二 世にあるも
とこしへに
御手に頼らなん

三 あめにゆく
その日まで
いときよく
まもらせたまへ

攝 理 116



1. わがともよなべて かみにゆだねよ
2. まがさちいかに かみぞしります
3. かなしみなやみに みはしづむとも



みかみのまさみち ゆくひとびとに
あたふるもとるも 主のあいなれば
そこひはかりなき かみのあいこそ



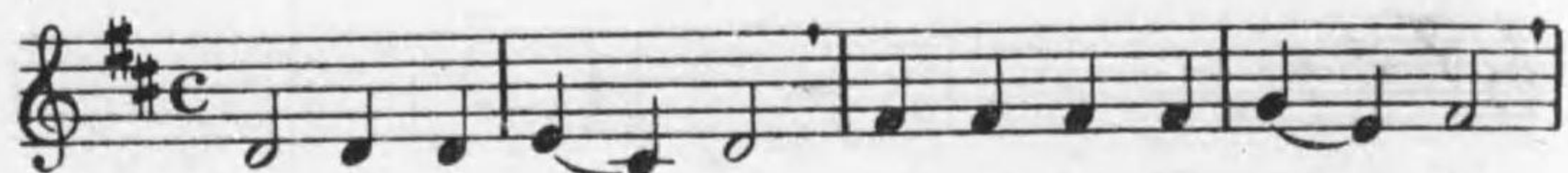
さちはいはほの きえなくをあらん
みてにあらみはきとこやすらけし
なれをみちびけ そのよきとのに

一 わが友よなべて 神にゆだねよ
み神のまさみち ゆく人々に
幸福は巖の 消なくをあらん

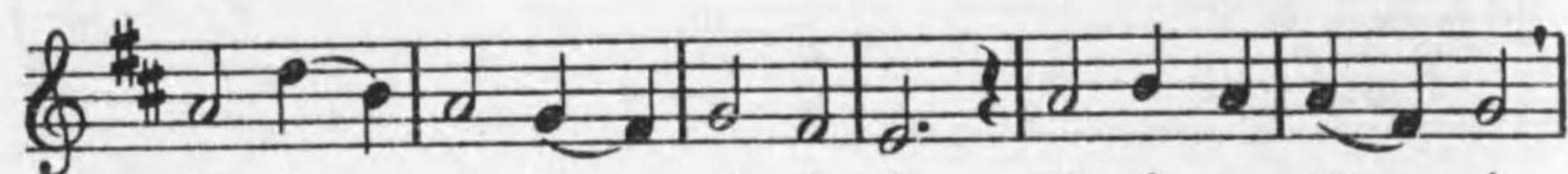
二 禍福いかにか 神ぞ知ります
與ふるも取るも 主の愛なれば
み手にある身は とこ安らけし

三 かなしみ惱みに 身はしづむとも
底ひ量りなき 神の愛こそ
汝をみちびけ そのよき殿に

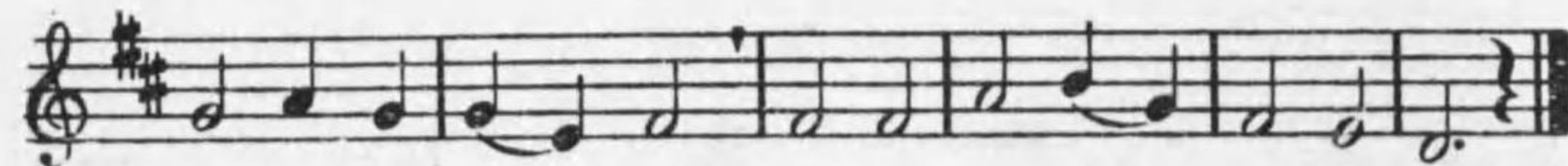
四 あらゆる苦しき 道ゆきましし
すくひの君こそ みちびきませば
まかせつる身に おそれやはある



1. うるはしーの主のみこころ
 2. カルメルーのりのことーり
 3. ヘルモンーのつゆとくだーり



たとーしへーもなし さきいでーし
 さへーづるーなべに おもほゆーる
 わがーようーるほす みこころーの



みちかひーの シャロンのーはなよ
 いにしへーの みたまらーのうた
 あいのみーづ さやにさーやけし

三	二	一
ヘルモンの露とくだり	カルメルの森の小とり	うるはしの主のみこころ
我世うるほすみこころの	轉づるなべに思ほゆる	例しへもなし咲きいでし
あいのみづさやにゆけし	いにしへのみ民らのうた	みちかひのシャロンの花よ



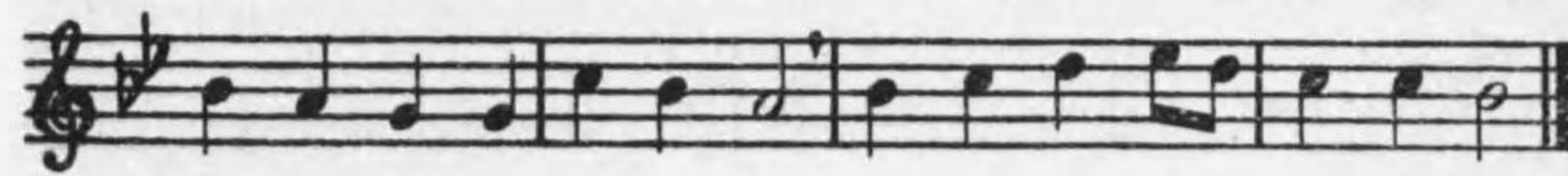
1. あめなるみかみーに みさかえーあれと
 2. あいなるみかみーよ ささぐるーいのり



みもたまもなべーて ささげまーつれば
 ことたらであれーどねがひさーさぐる



つとめといこひーの いづれのきはにーも
 うれしきかなしーき くさぐさのこころ

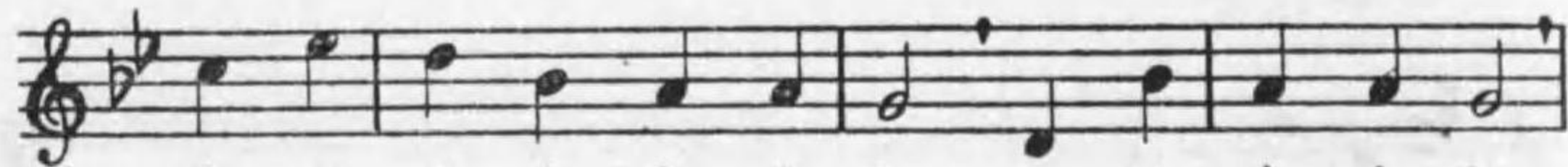


みむねをひたにかしこみーてあらん
 しのびあはれみきこしめーしませ

二	一
愛なるみかみよ ささぐる祈り	あめなるみ神に み榮えあれと
言足らであれど ねがひ捧ぐる	身も靈もなべて 捧げまつれば
嬉しき悲しき くさぐさの心	務めと憩ひの 何れの際にも
しのびあはれみ 聞き召しませ	みむねをひたに 畏みてあらん



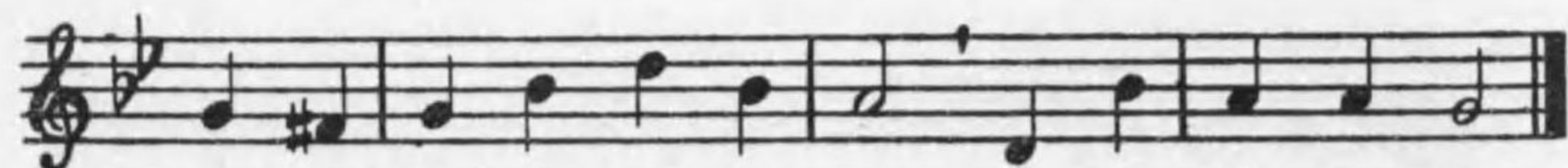
1. われをあいして わがために
2. あだびといかに たけくとも



みいのちたまふ いくしみ
主のてによりて われやかた



などわすれめや おのがみも
わがよろこびと わがほまれ



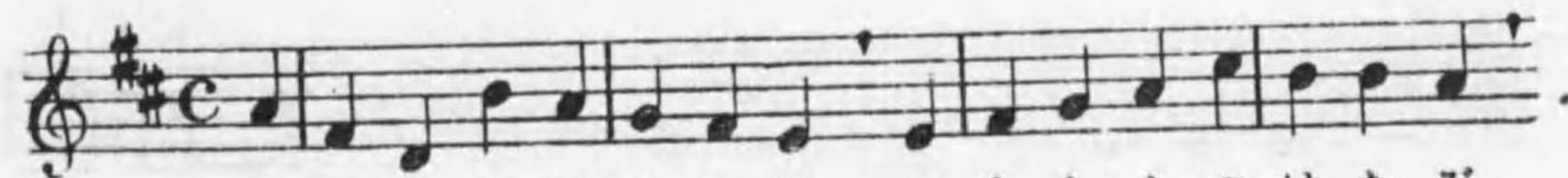
かみのみために ささげまし
あめつちしらす 主にぞある

二

仇人いかに たけくとも
主の手によりて 我や勝たん
わがよろこびと わがほまれ
あめつち統らす 主にぞある

一

われを愛して わがために
みいのちたまふ いくしみ
などわすれめや おのが身も
神のみために ささげまし



1. わがためじぶじかに つきしものはたぞ
2. われは主をあいす ひねもすよすがら
3. わがためにぞ主は みさかえすてまし



みかみのひとりご 主イエズスキリスト
わするるまもなく われは主をあいす
なやみくるしみて いきたえたまへる

一

わが爲十字架に つきしものは誰ぞ
み神のひとり子 主イエズスキリスト

二

われは主を愛す ひねもすよすがら
忘るる間もなく われは主を愛す

三

わが爲にぞ主は み榮え棄てまし
なやみ苦しみて 息絶えたまへる

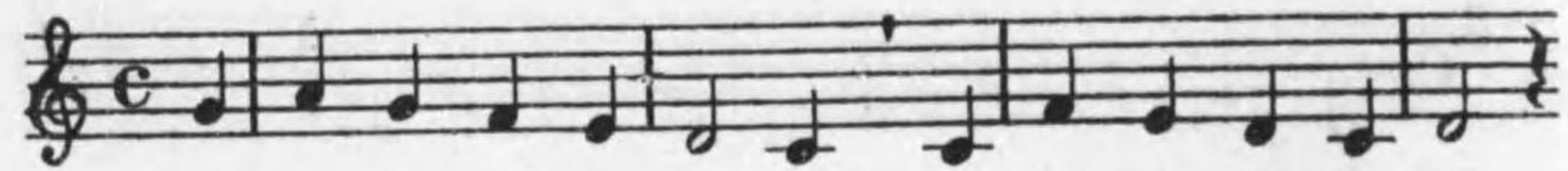
四

ふかきその愛に 天をも陰府をも
忘れてひたぶる きみをのみ慕ふ

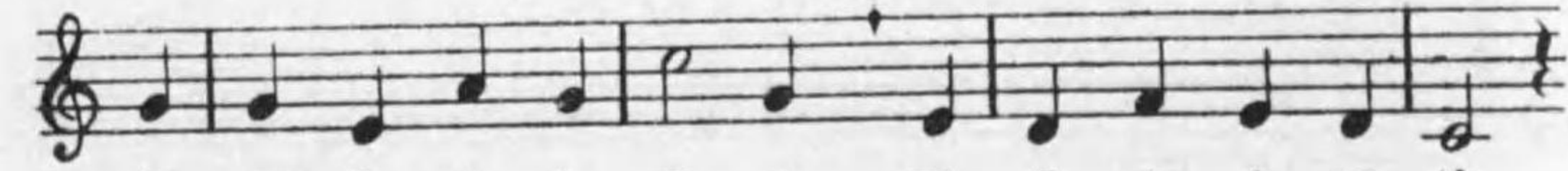
五

わが主わが神よ 我とはに愛せん
量り知らぬ主のみ愛にこたへて

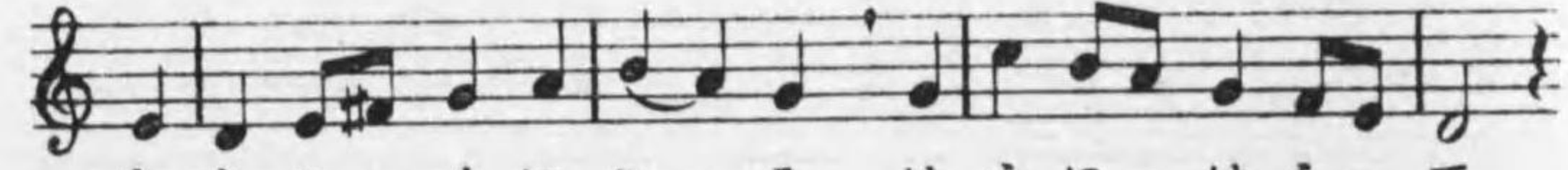
(聖フランシスコ、ザベリオの言葉より)



1. ぶりさけみれば めもはるかに
2. きららほしかげ てらすみれば



主のみひかりの てるおもほゆ
かなたにさちの まつおもほゆ



ちちのーくにこーそ はえにーはえーて
くらきーよはにーも のぞみーあれーと



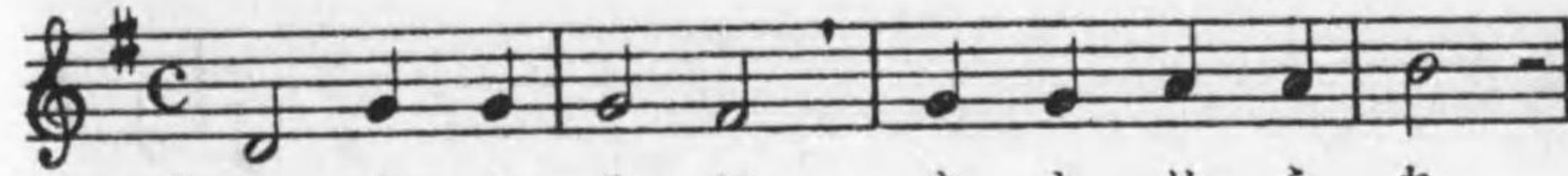
くーらきうきーよーも ややにあかし
すーぎがてにーすーる われぞいのる

三

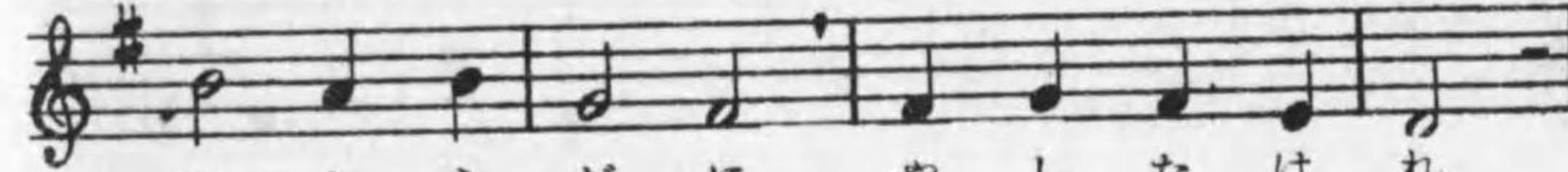
二

一

三	二	一
うれひの狭霧 救ひの御子の 寂しむわれを そなへし國に	かなたに幸の 暗き夜中にも 過難てにする われぞいのる	きらら星かけ てらす見れば 待つ思ほゆ のぞみあれと ややに明し
晴れてや見る 愛のみかほ 待ちたまひて 君やむかへん		振放け見れば 眼もはるかに 主のみ光りの 照る思ほゆ 父の國こそ 映えにはえて くらし憂世も



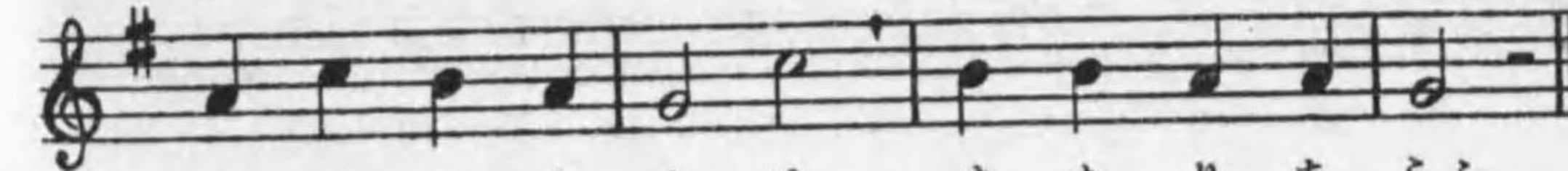
1. みこころろに きよめられに
2. みくるとしに きよめられに
3. はげみ たつ わがたまを



みかからだに やしなはれぢし
みかかきぶずのそ わかれこめはかし



みちしろほに ろもえたて
みこあしきも の こうきりぞき



みづみわきゆ きた りあらふ
みきえこよかるしのとみ わし たが りあめ

四

三

二

一

四	三	二	一
止む時なく 戀ひしたふ 主のみとの やすみ處は ひじり等の そのみくに 悪しきもの しりぞきて 聖心のみ しろしめせ とこしへの やすみ處は	はげみ たつ わがたまを みきすこそ かこめかし 消よかした わがいのる たかぶりの われを恥ぢ みくるしみ みしのびに	みからだに やしなはれ みちしほに ころ燃え 水み脇ゆ 来りあらふ	みこころに きよめられ

(聖イグナチオの祈り)



1. よきまきもりのすくひぬしよ
 2. あしたにははむみどりのくさ
 3. よしやしのたにさまよふとも

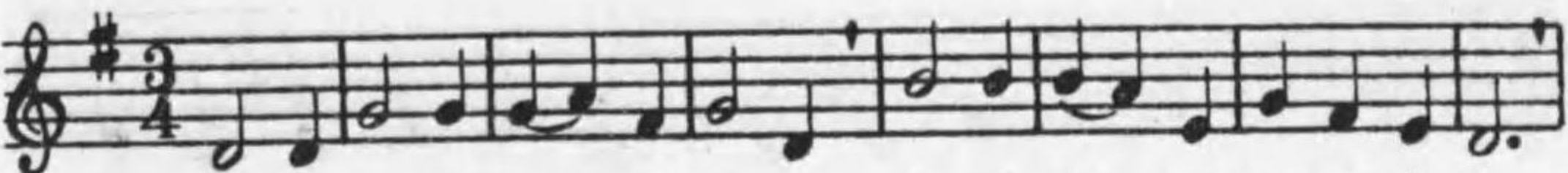


みてにかはれてのにいくとせり
 ゆふべはいこふみづのほとり
 よみのまがごとなどかおそれん



こかぜすすかぜにこころしなぐさむ
 主ともにしませばともしきをしらず
 きみしまもりせばしもとまたうれし

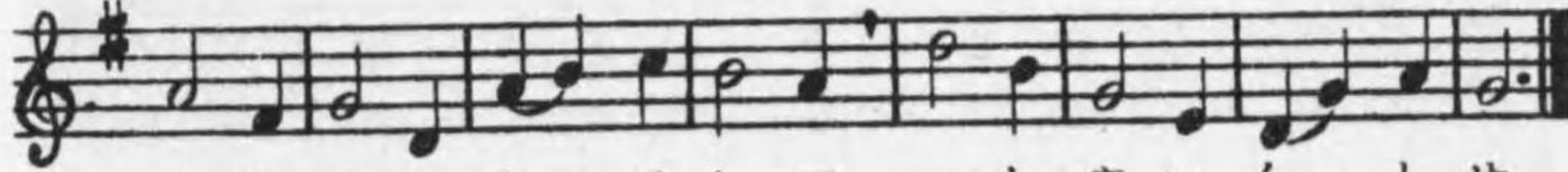
	四	三	二	一
わがさかづきは わがとこしへに 主の宮に住はん	めぐみの膏油 額にながれ	陰府のまがごと 君し守りせば 答またうれし	よしや死の谷 ささまよふとも	あしたには食む みどりのくさ みづのほとり 乏しきを知らず
				よき牧守の すくひぬしよ
				御手に飼はれて 野にいくとせ
				微風涼風に 心しなぐさむ



1. われこそひーときのぶだうーのいのちと
 2. みそらをかーざしてかかれーるみどりよ
 3. うましきみーのりとかかれーるそのふさ

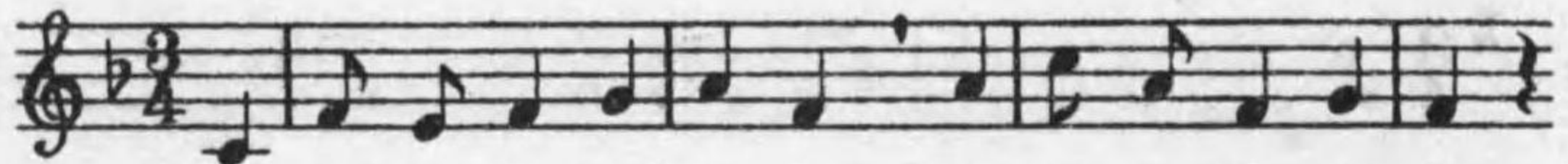


のりますきーみはもわれよそのーえだ
 しげりにしーげれるえだのみーのりに
 いにしへもーいまもかはらぬいーのち



ありやしなーはれてへしやいくーとせ
 こころゆくーかぎりかみやめでーます
 みかみにむーすびてよのうゑいーやす

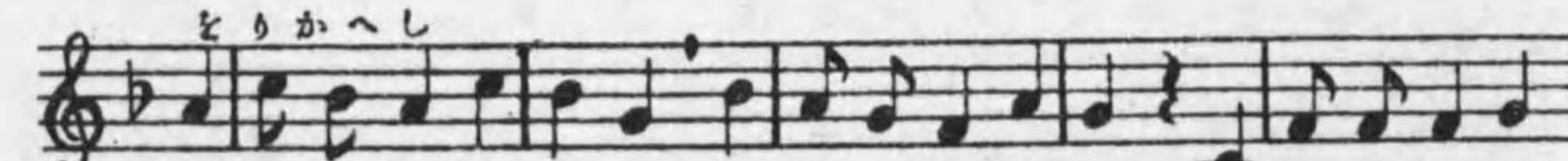
	四	三	二	一
主よわが靈をば 生命もかれ木の 切りな放ちそ	さあれ聖心を 悲しくをあらん	いにしへも今も 世の飢いやす	み空をかざして 懸れるみどりよ	我こそひと樹の 葡萄のいのちと
				宣ります君はも われよその枝
				在り養なはれて 經しやいくとせ
				美しき結實と かかれるその房
				しげりに繁れる えだのみのりに
				み神にむすびて 神や愛でます



1. わがみわがたま たがつくりし
 2. こころすきみて あしきなさば
 3. よのよるこびを もとめなさば



わが主に つくす うべよきかな
 あいのむちをぞ あたへたまへ
 主のみいたでをしめしたまへ

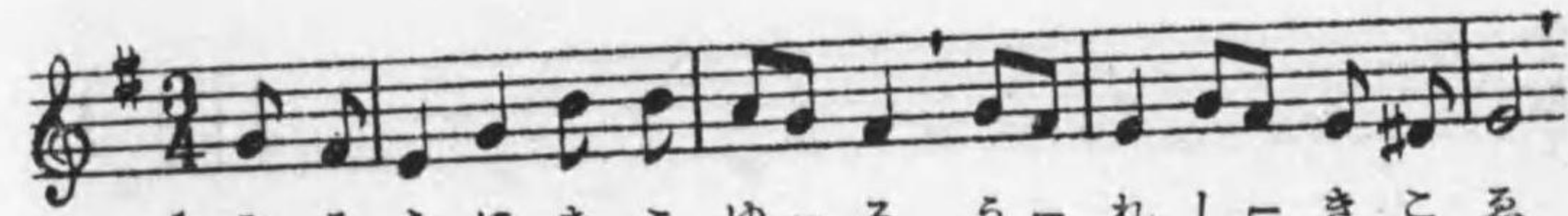


わがこころもえなみだわけば 主よかすな



らぬみにしあれど かへりみませ

一 わが身わがたま 誰がつくりし
 わが主につくす うべ善きかな
 (をりかへし)
 我がこころ燃え なみだ湧けば
 主よ數ならぬ 身にしあれど
 二 こころすさみて 悪しきなさば
 あいの鞭をぞ あたへたまへ
 三 世のよろこびを もとめなさば
 主の御痛手を しめしたまへ
 四 ひとのよわきを かなしみせば
 主よ汝が贖ひ しめしたまへ
 五 むくいもとめず 善きをなして
 主のみさかえを 仰ぎゆかなん



1. みそらにきこゆる うれしきこゑ
 2. おもにをおろして われにこよと



わがなをよびてぞ まねかせたまふ
 いこひのみぎはに 主はまちたまふ



いざわがともどち ゆきてまみえん
 かるき主のくびき ところよけく



われらのかひぬし すくひのきみ
 いまはおひつゆかん みくにのたび

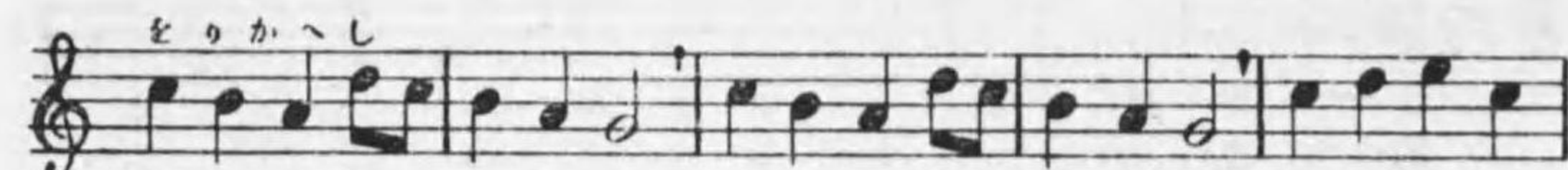
一 みそらに聞ゆる うれしきこゑ
 我名を呼びてぞ 招かせたまふ
 いざわが友どち ゆきて見えん
 われらの牧者 すくひのきみ
 二 重荷をおろして われに來よと
 いこひの水際に 主は待たまふ
 かるき主の軛 ところよけく
 今は負つ行かん みくにのたび



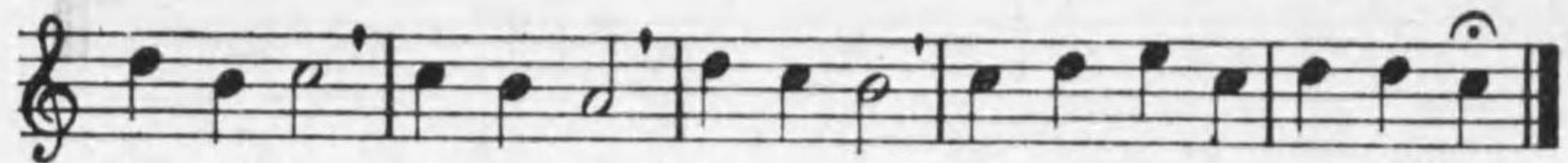
1. あーなめでたきかーな主のはは
 2. けーがれなきみはーはわれらを
 3. きーみばらのはなーとかをりて



かーみのみめぐみーぞあふるる
 みーくにむかへーてまもらへ
 うーつしよをまねーくさきはへ

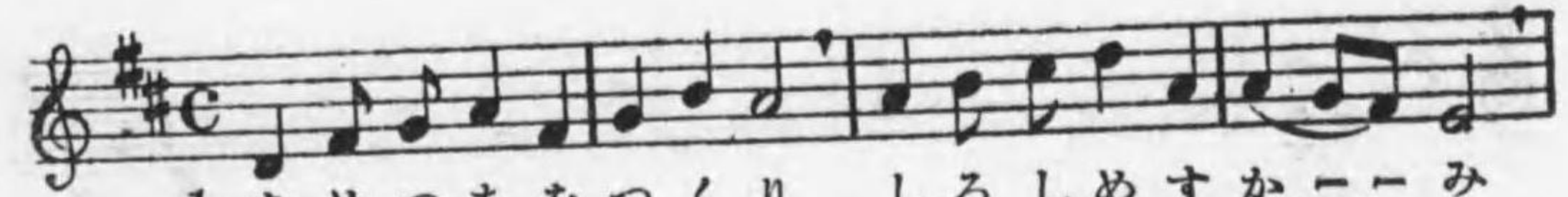


あめなるーきさいつきせぬーさちのうましき

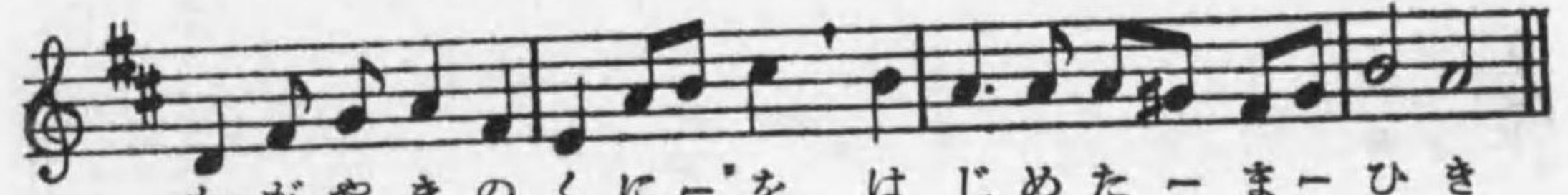


いづみあめのくにとはのよるこび

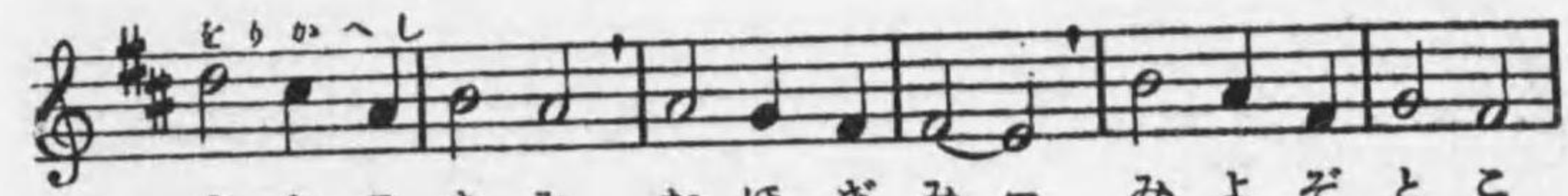
四 嬉しき御名をば 稱へなん
 三 きみ薔薇の花と かをりて
 二 けがれなき聖母 われらを
 一 あな慶たきかな 主の聖母
 神のみめぐみぞ あふるる
 (をりかへし)
 あめなる后 つきせぬ幸の
 美しき泉 天の聖國の
 常の喜こび



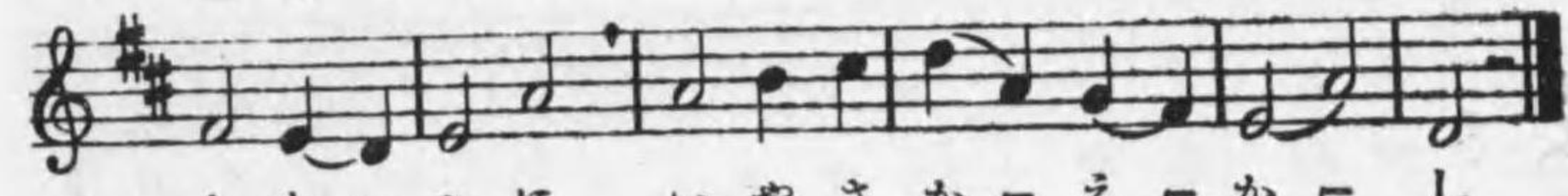
1. あめつちをつくり しろしめすかーみ
 2. まつろはぬやある みなきみのたーみ
 3. いざやわれまたくみをうちすてーて



かがやきのくにーを はじめたーまーひき
 あいのみつるぎーよ たましひーをーさせ
 ぎのみはたかざーし たたかひーにーいでん

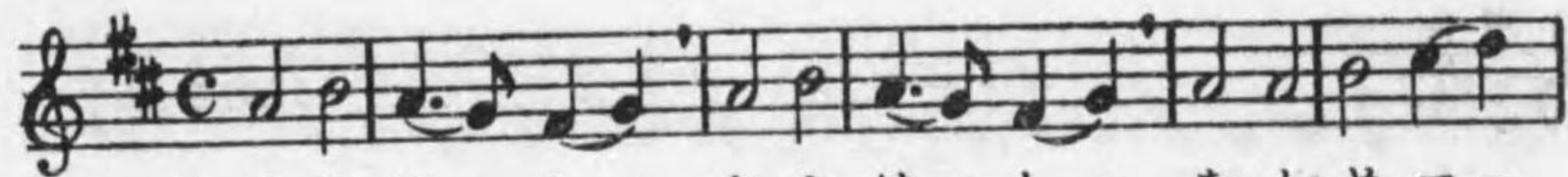


主なるきみ おほぎみーみよぞとこ

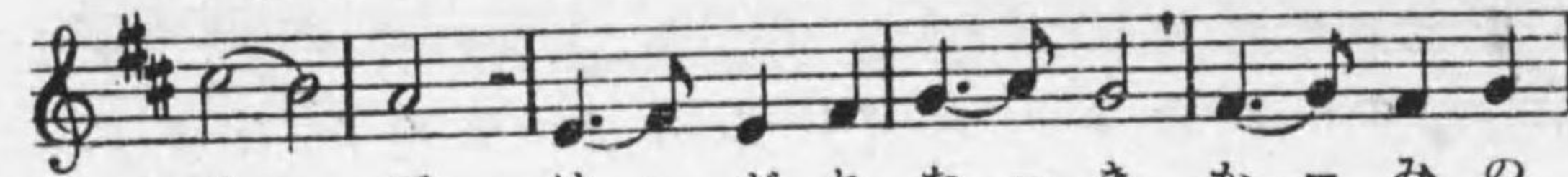


しなへに いやさかーえーかーし

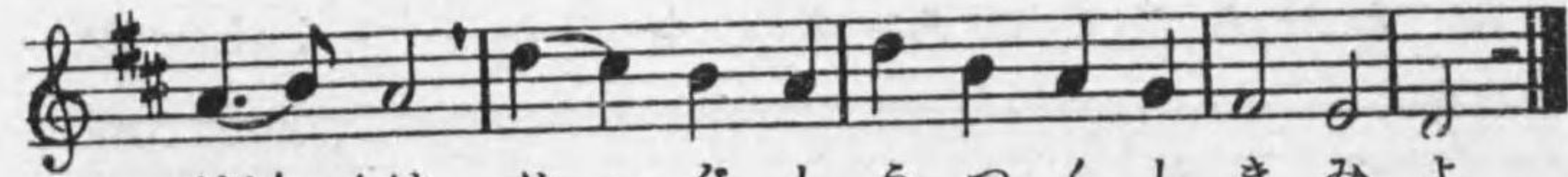
四 聖霊のみつるぎ 友よ執り持て
 三 いざやわれ全く 身を打棄てて
 二 服はぬやある みな君の民
 愛のみつるぎよ 靈魂を刺せ
 主なる君 大君
 御代ぞ永遠に いや榮えかし
 (をりかへし)
 一 あめつちを造り 知ろしめす神
 かがやきの國を 肇めたまひき



1. うるはしきよけしをとめマ
 2. なげきとかなしみいまはき
 3. みこころづくしのよはあけ



りアけがれなきかみのゆ
 えてつみのはきさりは
 ゆきみこはいきよみは



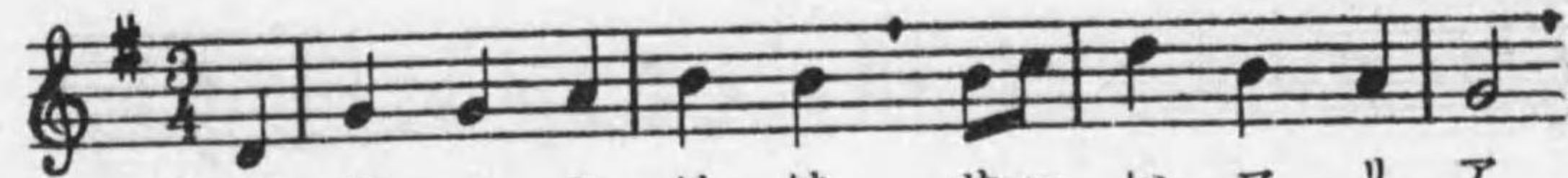
ははめぐしうつかりしきみよく
 けはばとのはのひつかりしがみやは
 うせおもわうつかりしがみやは

四 ながさめ たのしみ 充ちあふれよ
 主の聖母 執り成せば 神の恵み繁し

三 みこころ 盡くしの 夜は明けゆき
 御子は活き 陰府は失せ 面影美し聖母

二 なげきと かなしみ いまは消えて
 罪のやみ 去りゆけば 永久の光輝く

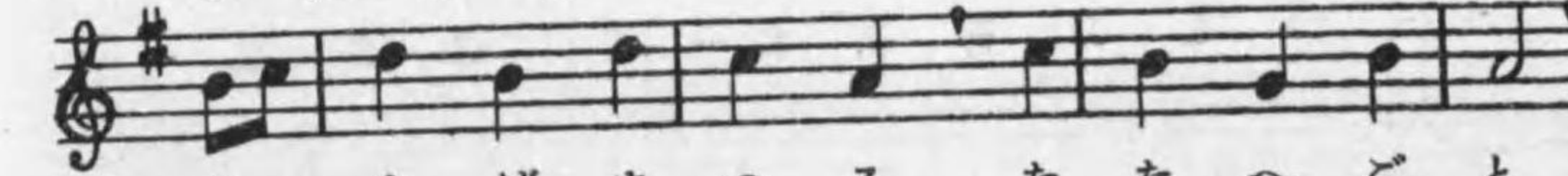
一 うるはしきよけしをとめマリア
 けがれなき 神のはは 愛し美し君よ



1. あまつみははせいマリリア
 2. まごころもはてすみどもたごま
 3. みこイエズス みもたごま



ながみまたへにしよのこらが
 おほしまたへにしよのこらが
 そだちませばいにつくらしみれ



ささげまつもるたたるへご
 あまがづつかさみもしよみやばし
 なたがづつかさみもしよみやばし



かたい ずふま なども ならきの ねなち どもも
 うたさ けまか たひえ まけゆ へりく

四 あまつみはは 聖マリア
 神のみむね おこなひて 昇りゆかん

三 御子イエズス 身も靈も
 そだちませば 主に召され 宮に柱

二 まごころもて 養育し立てし いたくしみ
 あまつかみも よろこびて たまひけり

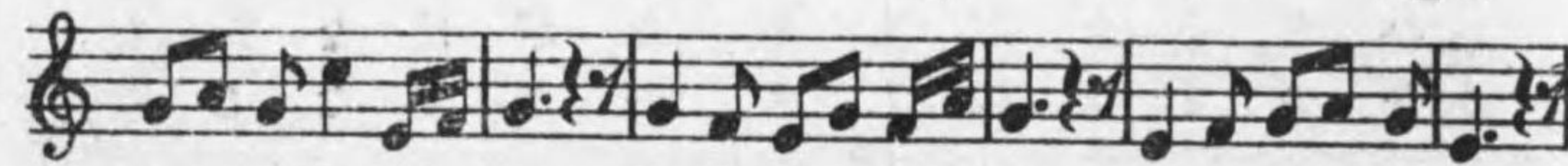
一 ながみまたへに 世の子等が
 ささげまつる たたへ言
 かすならねど うけたまへ
 みどり兒を いたくしみ



ア)ナのーみこ はしきーひめ かぐはーしく



さきいーでし にはのーべの ゆりのーはな



いーろもかーも かむさーびーて きよけーくも



みえにーけり たがうゑーし みさをかーも



いやたーかく みおもーひの あまかけーる



あまをとーめ かみのーはは たたへーまし

神	あま	いや	誰	きよ	色	庭	か	ア
の	ま	た	が	け	も	の	ぐ	ン
母	翔	か	植	く	香	べ	は	ナ
た	ける	かく	ゑ	も	も	の	し	の
た	あ	み	し	見	神	百	き	御
た	ま	おも	み	え	さ	合	い	子
へ	と	ひの	さを	に	び	の	で	は
ま	め	の	かも	け	て	は	し	し
し				り		な	き	き
							姫	姫



うるはしくも さきいでにし とげなきばら



のーはなよ たぐひもなき そのかをりに



われらがこころーなどむ みいつくしーみ



みちあふるーる もろびーとのはー

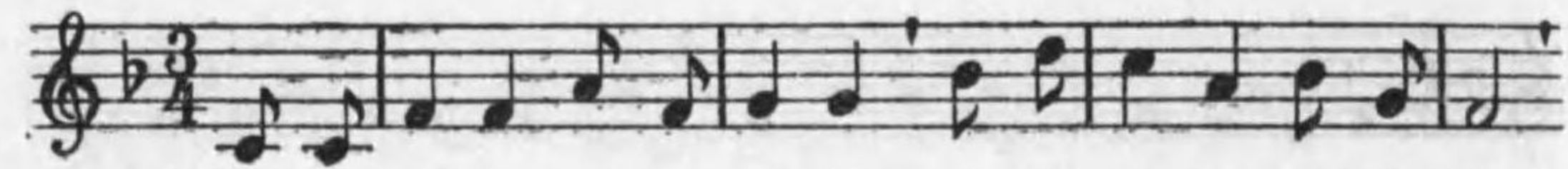


は マリア と きに は た た へー ま つ る

二

一

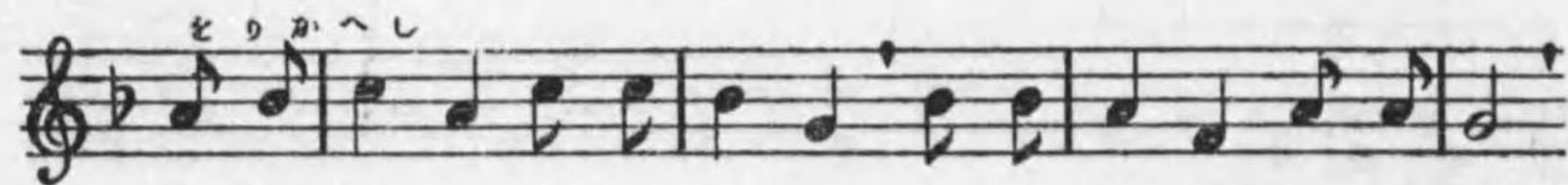
うるはしくも	咲きいでにし
とげなき薔薇のはなよ	
たぐひもなき そのかをりに	
われらがこころ和む	
みいつくしみ みちあふるる	
もろびとのにはマリア	
ときはにたたへまつる	
みちのほとり みどりさはに	
かざせるそのときは木	
あへぎあへぐ わがたび路の	
やすらひのすずかけよ	
みははマリア 汝がまもりに	
憂さ晴れこころいさみ	
ふるさと指してぞゆく	



1. われらの ははなる めぐみの マリア
2. みこは ものろひの きにあげられつ



みもとにむつびて はらからたのし
みはははつるぎをしのびたまへば



なみだのたににも あいのはなさき



かをりもゆかしくよろこびみたす

- 一 われらの母なる めぐみのマリア
み許にむつびて はらからたのし
(をりかへし)
- 二 御子はも呪ひの 木にあげられつ
み母はつるぎを しのびたまへば
なみだの谷にも 愛のはな咲き
香りもゆかしく よろこび充たす
- 三 かなしき憂世の 悪しきはさりて
かちうた祝ぎ歌 間なくひまなし
- 四 めでたしみ恵み みち満てる母
いまはの際にも いのりぞ賜はん



1. たかくたふとく ゆりはかをる
2. イエッセのめばえのときしきたり



みさをただしきながはなかも
みづきうれしきみどりなしぬ

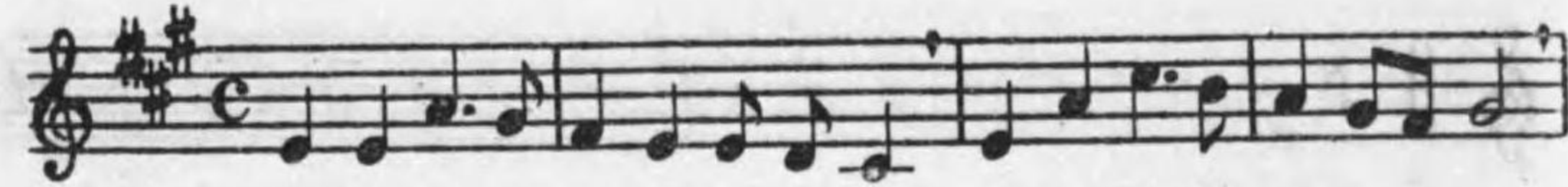


きよきをとめよ そのかぐはしさ
ときはのいろにわがころをも

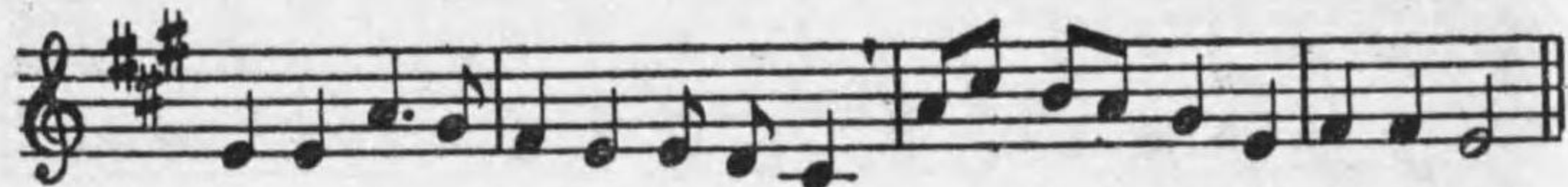


われにとめませ
かみよそめませ

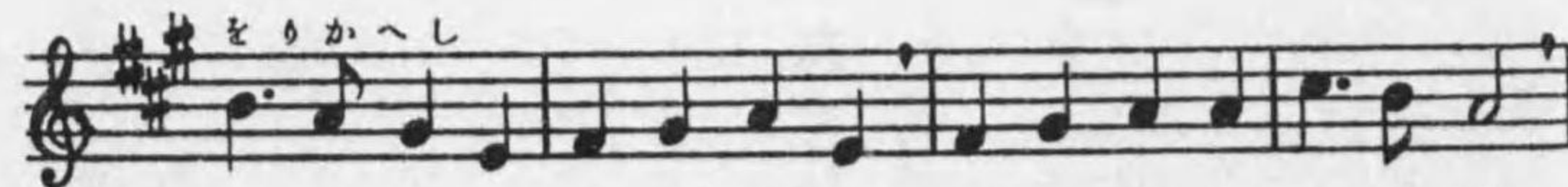
- 一 たかくたふとく 百合はかをる
みさをただしき 汝が花かも
きよきをとめよ その芳はしさ
われに留めませ
- 二 イエッセの芽生の 時し來たり
稚木うれしき みどりなしぬ
ときはのいろに わが心を
神よ染めませ
- 三 御子を呪ひの 木におくりつ
おのがみむねに やいば受けし
みははのしのび わが心にも
主よ印しませ



1.いとたかきみははよくすしきばらーよ
 2.わがたまのよるこびみははマリアーよ
 3.たぐひなくめでたきかみのみははーよ
 4.あまぢのわがたすけきよきマリアーよ



エワはきよめられぬおんみによりて
 よはよみがへりきてみこーのなにいる
 をみなのはたかみきみによりきぬ
 われらのいのりをばとーりーなしたまへ



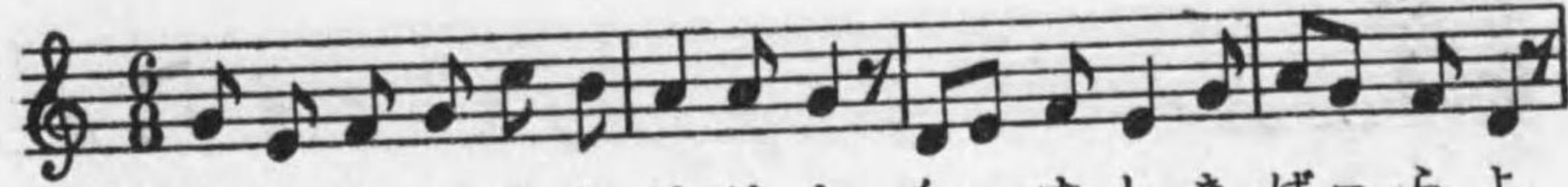
あまねきよのははせいなるマリア



われらたたへゆかんみさかえをば

歌詞は前頁と同じ

(但しをりかへしの最初の一句のみ相違)

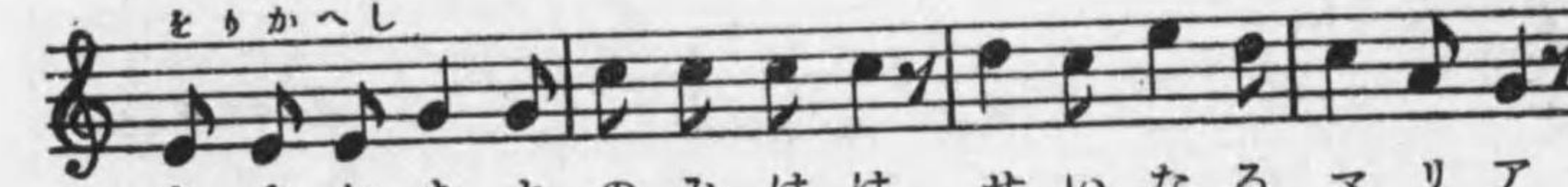


1.いとたかきみははよくすしきばらーよ
 2.わがたまのよるこびみははマリアーよ



エワはきよめられぬおんみによりて
 よはよみがへりきてみこーのなにいる

をりかへし



あまねきよのみははせいなるマリア

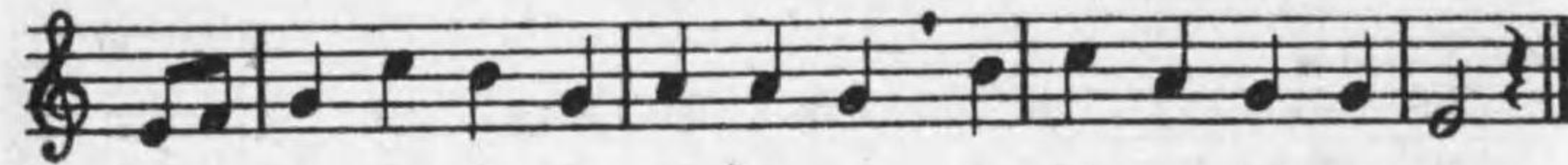


われらたたへゆかんみさかえをば

四	三	二	(をりかへし)	一
天路 <small>あまぢ</small> のわがたすけ	たぐひなく慶 <small>めで</small> たき	わが靈 <small>たま</small> のよるこび	あまねき世 <small>よ</small> の聖母 <small>みはは</small>	いとたかき聖母 <small>みはは</small> よ
われらの祈 <small>いの</small> りをば	女 <small>をみな</small> の名はたかみ	世 <small>よ</small> は甦 <small>よみが</small> へり來て	われら稱 <small>たた</small> へゆかん	エワは淨 <small>きよ</small> められぬ
執 <small>と</small> り成 <small>な</small> したまへ	神 <small>かみ</small> のみははよ	御子 <small>みこ</small> の名 <small>な</small> に入る	みさかえをば	御身 <small>おんみ</small> によりて
きよきマリアよ	きみに倚 <small>よ</small> り來ぬ	みははマリアよ	聖 <small>せい</small> なるマリア	くすしき薔薇 <small>ばら</small> よ



1. さーさぐるうたこーそまづしくあーれ
 2. みーここそきたりーてサタンをうーち
 3. みーかどはひらけーてみくにきたーり
 4. みーかみのみのりーにみははとなーり



こーころはみははにそなへまつる
 かーしらをくだきてすなくひとげぬ
 うーせにししみめぐみまたもと
 みーこをはぐくみしきみたふとし

一 ささぐる歌こそまづしくあれ
 二 み子こそ来りてサタンを打ち
 三 み門はひらけてみくに來たり
 四 み神の御宣にみははとなり
 失せにしみ恵みまたも得たり



1. めでたきかなかみのみはは
 2. ガブリエルのみつげにより
 3. つみのかせはうちくだかれ
 4. たぐひもなきへいわのみち



うみのほしーよかがやきーませアメン
 エワはアヴェーとさきははーれぬ
 やみはきえーてひかりいーでぬ
 かをりさかーえこころなーどむ

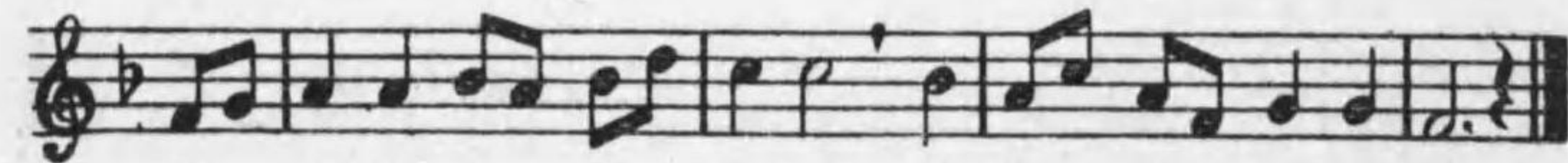
一 めでたきかなかみのみはは
 うみのほしよかがやきませ
 二 ガブリエルのみ告げにより
 エワはアヴェとさきははれぬ
 三 つみのかせはうちくだかれ
 やみは消えてひかり出でぬ
 四 たぐひもなき平和のみち
 かをりさかえこころなどむ
 五 きよきあゆみのこししきみ
 み子をいまでもしめしたまへ
 六 ち子みたまみさかえあれ
 みははともにわれら歌はん
 アメン



1. そらのかなた まーさーやーけーく
 2. あしたゆかば あーけーのーほーし
 3. こごしきいは かーくーれーいーは



ふなぢしめす うーみーのーほーし
 ゆふべゆかば うーみーのーほーし
 たゆたふふね みーづーさーきーに

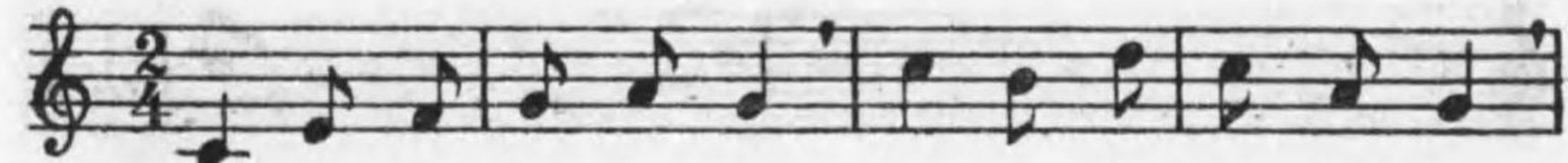


なーみをけーたーてて われーらーはゆく
 こーぐにこーりーえの みちーもーなほし
 なーみにうーつーらふ のぞーみーのほし

一 そらのかなた まさやけく
 ふな路しめす うみのほし
 波をけたてて 我等はゆく

二 あしたゆかば あけのほし
 ゆふべゆかば うみのほし
 漕ぐ濁り江の 道もなほし

三 峻しき岩 かくれ礁
 たゆたふ舟 みづさきに
 波にうつらふ のぞみの星



1. か の を か こ え この か は ゆ き
 2. く も の う へ に み は は マ リ ア
 3. ア ヴ エ マ リ ア い ま も い つ も



お つ げ が あ れ ひ び く よ
 み み を ば か た む け ま し
 わ れ ら の よ わ き こ こ ろ



み は は マ リ ア め で た し
 き や り お は す い の り を
 ま も り た ま へ ア ヴ エ マ リ ア

一 彼の丘こえ この川ゆき
 お告げが あれひびくよ
 「聖母マリア めでたし」

二 雲のうへに みははマリア
 耳をば かたむけまし
 ききやおはす いのりを

三 アヴェマリア いまもいつも
 われらの よわきこころ
 まもりたまへ アヴェアヴェ

どりかへし

ああなつかしーきみはーはマリア

うーみのほしーとかがやきませ

1. よもかきくらしつばーさをーなみ
2. ただよふをぶねなみーをまーくら
3. ころくもりてやすーきさーらば

われーやいづーこ とびーゆくーみぞ
みちーびくきーみかへーりみーませ
などーわがたーまいくーべしーやは

- (をりかへし)
- ああ懐かしき みははマリア
うみのほしと かがやきませ
- 一 四面かき暗し つばさを無み
われやいづこ とびゆく身ぞ
- 二 ただよふ小舟 なみをまくら
みちびくきみ かへりみませ
- 三 ころ曇りて やすき去らば
など我がたま 生くべしやは
- 四 やよ浮き雲よ ころあらば
わがふな路に 君な隠くし

1. あめのかどきみはのぼーり
2. みつかひもひかりそへーて
3. やみびとをなぐさめまーし

ゆかしくもかがよひまーす
きみぞわがよみそなはーす
めぐみふらしたまふはーは

どりかへし

アヴェアヴェうみのほし

アヴェアヴェうみのほし

- 一 天の門きみはのぼり
ゆかしくも耀よひます
- (をりかへし)
アヴェアヴェ海の星
アヴェアヴェ海のほし
- 二 み使ひも光り添へて
君ぞ我が世みそなはず
- 三 病人をなぐさめまし
めぐみ零らしたまふ母
- 四 罪人を主にかへらせ
かなしむを勞りたまふ
- 五 きよき御姿したはし
早も御手に歸りゆかん
- 六 波路くらく寂しきを
のぞみの星照らしませ



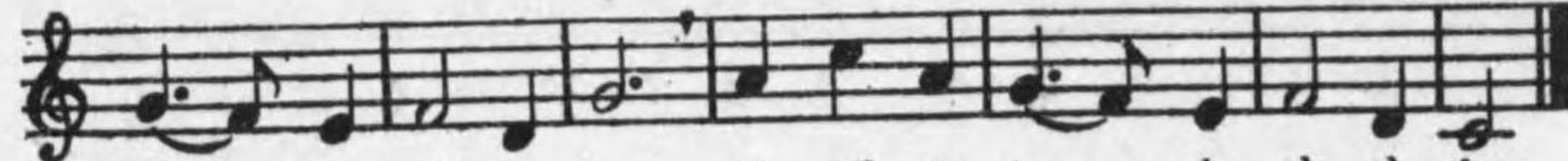
1. あか - つきのほ - しよ やみぢの - し
2. され - ばわがは - はよ みてによ - る



る - べよ くら - きはおひ - しき われを
わ - れは この - よのゆふ - かげ しづみ



か - こむとも みひかり てらせば たゆた
ゆ - くときも みたすけ たのみて みくに



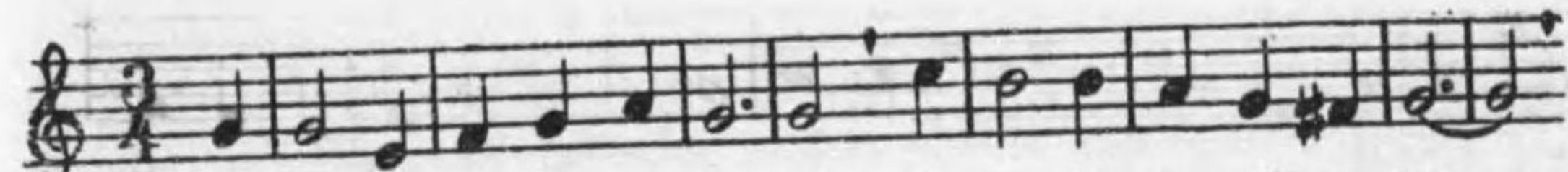
ふ - わがたま はげみた - ちすす(まん)
の - みすがた しのびつ - つすす(まん)

三

二

一

主(しゆ)に見え奉(まう)らん	み國(くに)の門(かど)べに	こころの空(そら)はれ	世(よ)の旅(たび)終(は)らば	世(よ)の旅(たび)終(は)らば	世(よ)の空(そら)はれ	こころの空(そら)はれ	主(しゆ)に見え奉(まう)らん
入りて樂(たの)しけく	涙(なみだ)もあとなく	涙(なみだ)もあとなく	きみの祈(いの)りにて	御國(みくに)のみすがた	しづみゆく時(とき)も	み手に倚(よ)る我(われ)は	闇路(やみぢ)のしるべよ
				御國(みくに)のみすがた	しづみゆく時(とき)も	み手に倚(よ)る我(われ)は	闇路(やみぢ)のしるべよ
				御國(みくに)のみすがた	しづみゆく時(とき)も	み手に倚(よ)る我(われ)は	闇路(やみぢ)のしるべよ



1. なつかしのははよ なれはいづこに -
2. さみしきやまかげ あれにしさとを -
3. よはいとどふかみ みちはるかなり -



く - みにそ - なはし ましませすや -
の - ぞみの - こらは かけるとかも -
あ - かつき - のほし いでたまへ -

一

なつかしのははよ 汝(なん)はいづこに
國(くに)みそなはし ましますや

二

さみしきやまかげ 荒(あ)れにし里(さと)を
のぞみの子(こ)等は 驅(か)けるかも

三

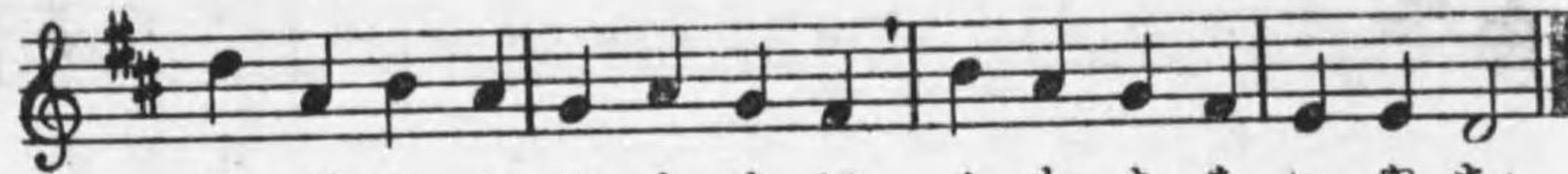
夜(よ)はいとどふかみ 路(みち)はるかなり
あかつきのほし いでたまへ

四

あけぼのに富(ふ)士(じ)は 浮(う)みいで來(き)ぬ
みははマリアよ 祝(い)くしませ



1. おマリーア うましき かみのみははーよ
 2. われらーぞゆかしき ながふところーに
 3. まがさーちさだめの いかによりとーも

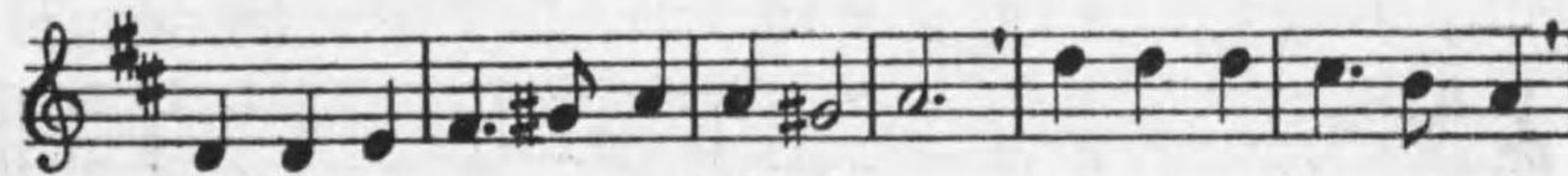


めぐみのみちちに かわきをいやさん
 いこひやすらひて ながさめえまし
 もりますひとみに ところたのめる

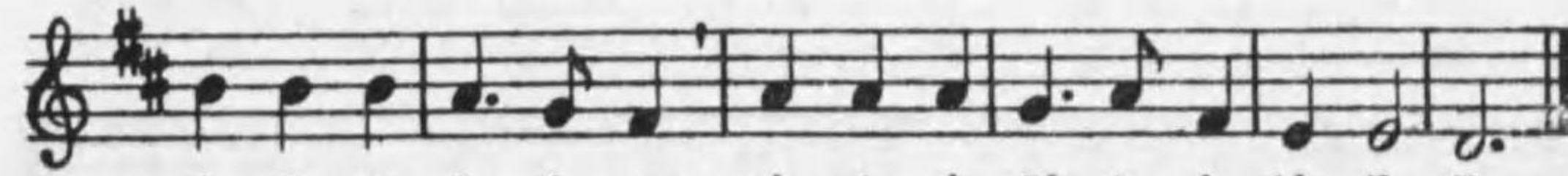
四	三	二	一
あめのみかどなり	まがさちさだめの	われらぞゆかしき	お(お)マリア美しき
われらのははなり	守りますひとみに	いこひやすらひて	めぐみの御乳に
御きさいなり	如何にありとも	汝がふところに	神のみははよ
あがめ奉らなん	ところたのめる	ながさめ得まし	めぐみの御乳に
		渴きをいやさん	



1. うつしよにも よろこびあり
 2. みこよきたり わがまぶたに
 3. みははよいま わななくむね



みははともにませば ながさめわきて
 みくにしのぶなみだ ただよはせて
 しづめついのりする われのたまを



かみのみと のちか くぞおもはるる
 うましこ かわれに めぐみたまへ
 みてにま もり よもひもかれずま

三	二	一
み母よいま	御子よ來たり	うつし世にも
沈めつ祈りする	わがまぶたに	よるこびあり
われのたまを	ただよはせて	聖母共に在せば
夜も日も離すませ	われに恵みたまへ	ながさめ湧き
		神の御殿
		近くぞおもはるる

とりかへし

みははよながこらは みもとにつどひ

あはれみのみーざに いのりをささぐ

1. わがいのちたのしみ たのみなるマリア
2. ここはなみだのたに ながみなをよびて

エワのこわれらのこゑをきこしめせ
みたすけのいのりあふぎこひねがふ

(をりかへし)

聖母よ汝が子等は みもとにつどひ
あはれみの御座に いのりをささぐ

一 わが生命たのしみ 頼みなるマリア
エワの子われらの 聲をきこしめせ

二 ここはなみだの谷 汝が御名を呼て
みたすけのいのり 仰ぎこひねがふ

三 この流離の世を 終なんその日に
たふとき御子をば しめさせ給へや
(サルヴェ レヂナヨリ)

1. あめなる きさいの みは [は マリア
2. みつかひ こぞりて きよきみなを

したはし ちにては くるしみ あめに
たたへつ あさなに ゆふなに みうた

てはーさかゆ ゆかしよそーのみな
をさーさげて みそばよはーなれず

一 二 三 四 五

一 あめなる きさいの 聖母マリア慕はし
地にては くるしみ あめにてはさかゆ
ゆかしよその御名

二 みつかひ こぞりて 聖きみ名を稱へつ
あさなに ゆふなに みうたをささげて

三 なみだも しぬぬに み側戀る世の子等
まみゆる 日をのみ よろこびしのびて
いや増すのぞみや

四 のぞみは みそらの 暁の星とかがやき
日にけに あふぎて みははぞなつかし
みたすけ乞ひつつ

五 みははよ 汝が子は 涙の谷いぶせく
したひに したひて みたすけ乞ひ禱む
とりなしたまへや

をりかへし

うーれしきこのとのに またもむれつどひきぬ

いーざともーどーちーよ たのしくーうたへ

1. あ ま つ み く に を よ も さ な が ら
 2. み く に の そ の は い ま よ く だ り
 3. み は は は ゆ り よ き よ く か を り

う つ し て わ れ ら む つ び う た はん
 に ほ ひ も ゆ か し は な ぞ き ほ ふ
 け だ か く た ち て ゑ ま ひ た ま ふ

- (をりかへし)
- 一 あまつ御國を 世もさながら
 うつして我等 睦びうたはん
- 二 みくにの苑は 今よくだり
 匂ひもゆかし 花ぞ競ふ
- 三 み母は白合よ きよくかをり
 氣高く立ちて 笑まひたまふ
- 四 われらは小鳥 膝に群れて
 楽しきうたを 捧げまつらん

1. あ い の み は は よ わ が よ ろ こ び よ
 2. く ら き よ あ れ て か ぜ ふ き す き み
 3. な み だ の た に も あ と な く き え て

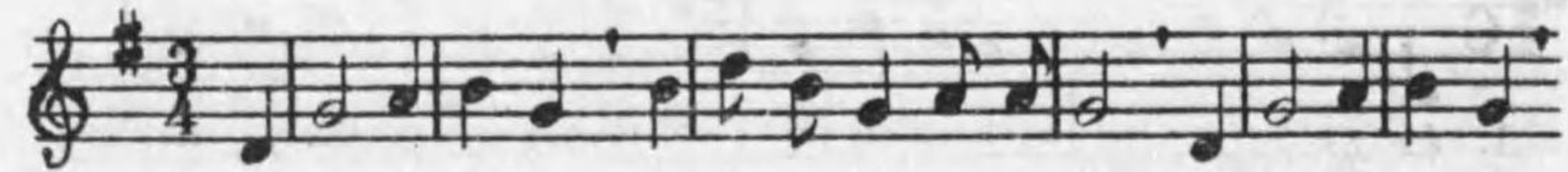
わ れ の た の み よ き み し の び き ぬ
 わ な な く た ま は み て に や た よ る
 き み の み す が た か が や く を ま た ん

をりかへし

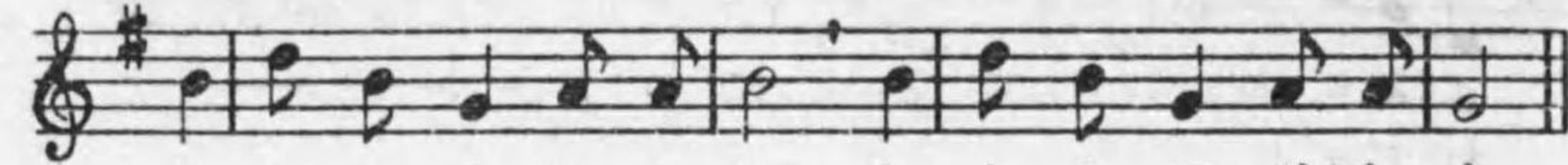
い つ の ひ に か ま み え ま つ ら ん

は な さ き か を る そ の み そ の は も

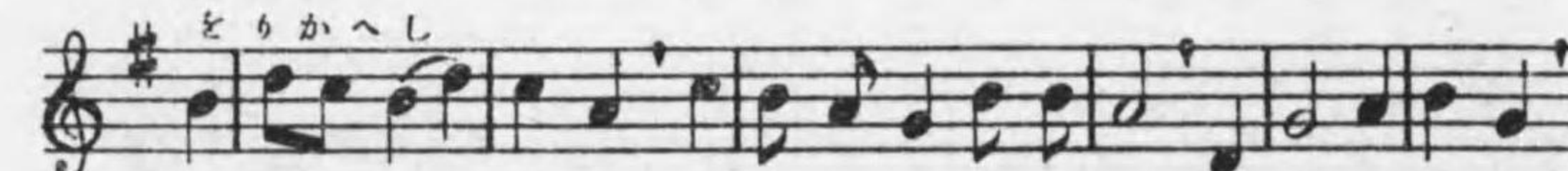
- (をりかへし)
- 一 愛のみははよ わが喜びよ
 われの頼みよ 君しのび來ぬ
- 二 暗き夜あれて 風ふきすさみ
 わななく靈は み手にや頼る
- 三 なみだの谷も 跡なくきえて
 君のみすがた 輝くを待たん
- 四 その日我身も 汚れとどめず
 きみに比へむ 靈得てしがな



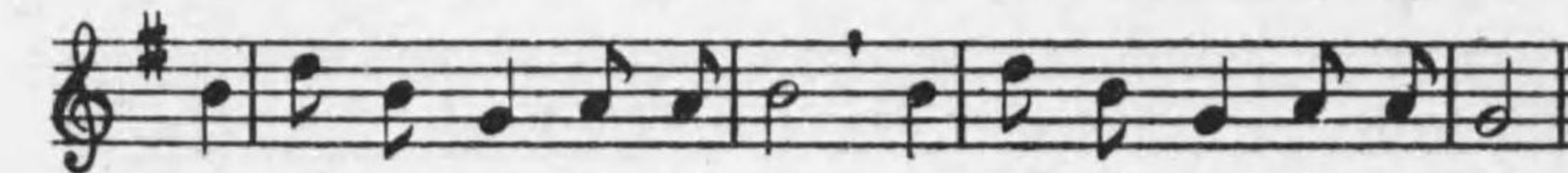
1. やまとはは よろこびのいろ さはなれど
 2. うきひとの うきのうせまく うきつるぎ
 3. つみびとの よりてかくらふ そでなれや



あかと きほしに しくものぞなき
 しのび いけりし つよき きみはも
 やさし きみか げ たまの きよけみ



わがこころ なぐさめかねつ たまちはふ



かみの たすけを みははのりせま

四	三	二	一
やみびとの 薬師とい倚る いためる傷を	つみびとの 依りて隠らふ やさしき御蔭	憂きひとの 憂の失せまく 忍び生けりし	やまとはは よろこびの光 あかと き星に
御手なれや 灰に觸れませ	袖なれや 靈のきよけみ	憂きつるぎ つよき君はも	さはなれど 如ものぞなき
		わがこころ 慰めかねつ 神のたすけを	わがこころ なぐさめかねつ たまはのりせま



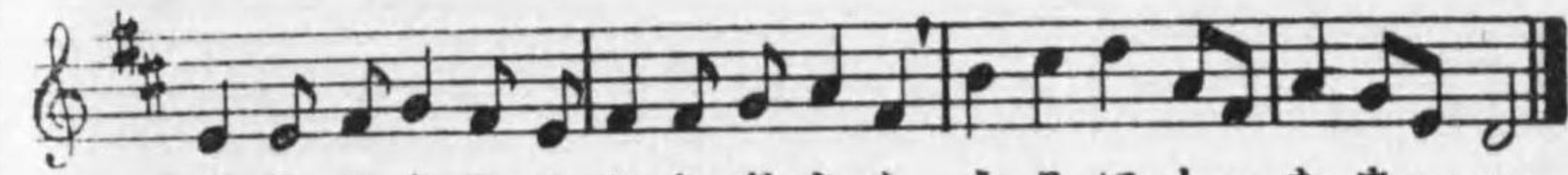
1. わがたまのひとりしをればたまゆらの
 2. さにづらふきみこそいませあまつくに



さそひにもおちむ ははよもりませ
 わがねぎごとを ちちにこふべく



めぐみのいづみよ たぎちながれゆき



あまねくよのひとぐさをうるほしたまへ

三	二	(をりかへし)	一
稚ければこころや みははよまもれ	さにづらふ君こそ わがねぎごとを	めぐみのいづみよ 治ねく世の人草を	わが靈のひとりし さそひにも陥ちむ
愛のひとみに	父に乞ふべく	うるほし給へ	居れば玉響の 母よ守りませ
	道に惑ひなむ	激ち流れゆき	

1. かをしたかみみくにのかけ
 2. やすきところもゆるあいの
 3. あめのみめときよききみは

かがよひてあなわがはは
 てりそひてかみのみはは
 のぼりましわがよまもり

きよきはなとさきでぬ
 メシアをこそうみせれ
 あけのほしとかがやく

とりかへし
 うるはしのゆりのはなとをとめ

一 香をし高み み國のかけ
 かがよひて あな我が母
 きよき花と 咲き出ぬ

(をりかへし)
 うるはしの 百合の花
 とをとめ

二 安きところ 燃ゆる愛の
 照りそひて 神のみはは
 救主をこそ 産みせれ

三 あめの后と きよき君は
 のぼりまし わが世守り
 あけの星と かがやく

1. いのりするところのきはみ
 ほーのにしてともにのりーまーす

とりかへし
 きみをしぞもふわがははひとーり

よのこらのためきのふもけふーも

いのりしませーりたまさきくあれーとー

一 いのりする
 ところのきはみ
 ともに禱ります
 君をしぞ思ふ

二 われからと
 まよひ出でぬる
 おほにしてのみ
 たまなれや
 天國おもへる

三 悔いに悔い
 なげきになげく
 神にとりなせ
 たらちねの母

(をりかへし)
 わが母ひとり
 世の子等のため
 いのりしませり
 昨日も今日も
 靈幸くあれと

一 灰にして
 君をしぞ思ふ



1. めーでーたーし みめぐみみてる
2. そーのーみーこ しゆくせられかし



せいマリア 主ぞともにます
かみのははいのりをたまへ



をみなのをみな
をはりのひまで

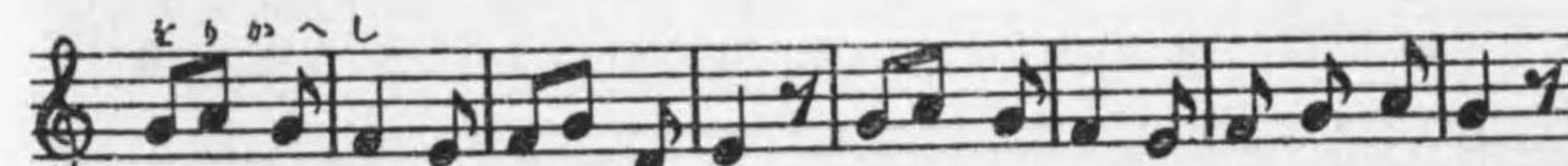
臨終の日まで	いのりを賜へ	神の母	祝せられかし	二	そのみ子	をみな	主ぞ共にます	聖マリア	み恵み充てる	一	めでたし
--------	--------	-----	--------	---	------	-----	--------	------	--------	---	------



1. きよきをとめーとて をみなのうちーより
2. やどりけるみーこぞ よをあがなふーかみ



えーらびわかーたれ みははとなりーけり
ほーろびゆくーみを すくひたまひーけり



めーでたしマリア めーぐみみちみてり



いーまもいまーはも いーのりたまひてよ

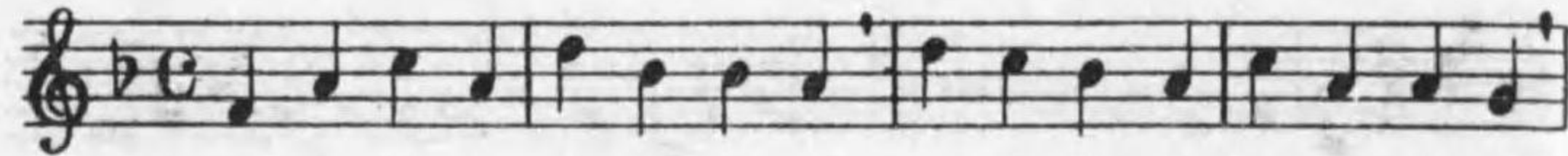
四	あかとき暮に み告げのかねの	三	世の終りまでも 神のみ名よぶ	二	孕りける御子ぞ ほろびゆく身を	(をりかへし)	めでたしマリア いまもいまはも	一	きよき處女とて えらびわかたれ
	眞晝にうれしき いのりの一時		み子とみ母こそ かはりなき方便		世をあがなふ神 救ひたまひけり		恵み満ちみてり いのり給ひてよ		をみなの中より 聖母となりけり

1. みよやゲツセマニのその みこはあのあ
 せしげく たがためぞいのりませる わがこ
 ころもささるる ^{をりかへし} みははよわがーたー
 めに みこにとりつぎたまひ せちなるわ
 がいのりをば なせそむなしきこゑと

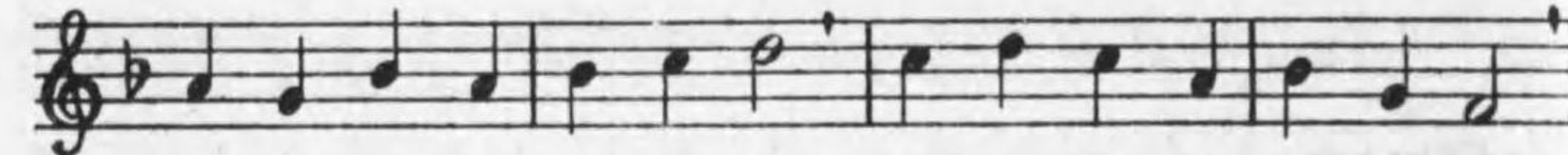
- 一 見よやゲツセマニの園 ^(をりかへし) み子は血の汗繁く
 誰が爲ぞ祈りませる わが心も刺さるる
- 二 罪なきさへ鞭打たれ ^(をりかへし) みははよわがために
 わがために償ひせず ^(をりかへし) 切なるわが祈りをば
 な爲そ空しき聲と
- 三 人のあざみ茨なる 御肌あけに染みて
 主の御名を誰かは恥 ^(をりかへし) われぞ君に從はん
- 四 生木はおもし十字架 ^(をりかへし) 二度みたび倒れ
 いたましき主の道行 ^(をりかへし) その木我にも賜へ
- 五 われからと御壽捨て ^(をりかへし) 民を生かしむる君
 あやに尊ときその釘 ^(をりかへし) 罪の身にも打てよ

1. みつかひののりたまへばへりくだりま
 すーマリア みすくひのみこのははと
 まことさだまりましぬ ^{をりかへし} みかむりはローザー
 リオばらのはなうちかをりいのりはた
 まのかずかず みまへにただよへかし

- 一 天使の宣りたまへば ^(をりかへし) 謙下りますマリア
 み救ひのみ子の母と ^(をりかへし) まこと定りましぬ
- 二 やまざとにその友垣 ^(をりかへし) 恵み訪ひませば
 我主のみ母來ますと ^(をりかへし) 胎の兒は躍りたり
- 三 玉の臺をしりぞけ ^(をりかへし) 賤が馬屋に來りて
 救のみ子あれましぬ ^(をりかへし) 聖き母のやどりに
- 四 掟をば無みしまさで ^(をりかへし) 大宮にみどり兒を
 み父のみ手に委ねて ^(をりかへし) 捧げまつりし聖母
- 五 再びみ母の御手に ^(をりかへし) 歸り給ふよろこび
 再びみ母の御手に ^(をりかへし) 歸り給ふよろこび



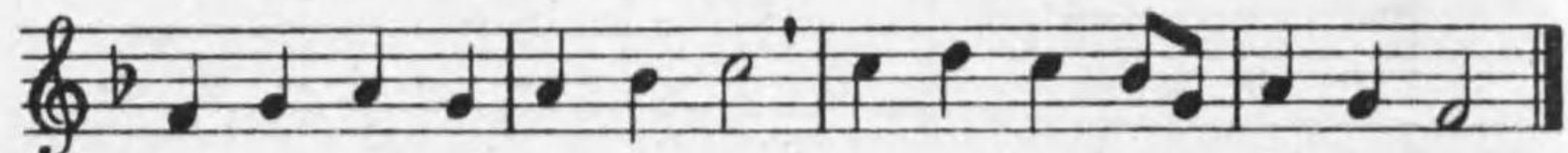
1. 此ころもきよけき つみなきマリアよ
2. おもひもことばも ひごとのしわざも



われらをあめに みちびくかどよ
ながみてにより きよめわかちつ



こよなくめでたき みははときみをし
サタンのいざなひ ををしくはらひて



た たへあがめて ひにけにーうたはん
みあとただしく たのしくーいきなん

三	二	一
こひねがはまし み神のみははに いやしきわれも 汚れを知らざる 聖母のまな子と	こころも清けき 罪なきマリアよ われらをあめに みちびくかどよ こよなく愛たき みははと君をし たたへあがめて 日にけに歌はん	こころも清けき 罪なきマリアよ われらをあめに みちびくかどよ こよなく愛たき みははと君をし たたへあがめて 日にけに歌はん



1. しのはりよいまいづこ 主こそなはめをときて
2. あれみよくもはひらけ みそらに主はのぼりて
3. みたまはゆたにくだり みでしにやどりせずを



よみがへりまししか われもまたかくぞあらん
みくにのそのさかえ われにもやたまはりなん
などわれにいなみて きまさでやはあるべき

五	四	三	二	一
あまつ后のかむり 聖母うけましませば 我等もまた小さき 終のかむり得まほし	御子のみ許に昇り よろこびます聖母に いざ御歌ささげて 死の日の幸を祈らん	聖靈は豊にくだり み弟子に宿りせずを などわれに否みて 來さでやはあるべき	あれ見よ雲は開け みそらに主は昇りて み國のそのさかえ 我にもや賜はりなん	死の刺よ今いづこ 主こそ束縛を解きて 甦へりまししか 我も亦かくぞあらん

夜はなほ降ちて
 二
 あかつき未だきに
 なみかぜも荒磯の
 われよ捨小舟
 照らせ海の星かけ
 のぞみのわが光り
 三
 いなづまひらめき
 いかづちとどろに
 わが主臨み來ます
 時しいたりなば
 あかつきの星影よ
 わが靈まもれかし

無原罪の聖母

とりかへし



あめつちのわかれしときゆみえらびに



みははためりしけがれなききみ



1. みなびとのうけつぐけがれもちまさで



めぐしうつくしかみのはははも

(をりかへし)

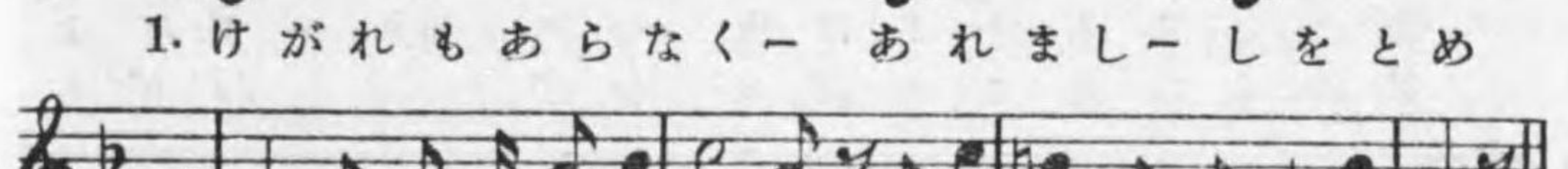
一
 あめつちの
 わかれし時ゆみえらびに
 聖母ためりし汚れなき君

二
 たかくあり
 きよく荒磯の百合のはな
 きさいの花の白百合の花

三
 ははのあい
 處女のみさをならびもち
 君はまたなき母なる處女




1. けがれもあらく— あれまし—しをとめ



いまよ、あめにませばほしとかがやきて



まさやけ—くみ—ひかりを わがよに—お



とりかへし
 く—りませ なれこそわ—がた—まの



たらちねのははなればみたすけをぞ



たまへかしわがあやふき—ときし

一
 けがれもあらく
 生れまししをとめ
 いまよ天にませば
 ほしとかがやきて
 分明くみ光りを
 我が世に送りませ

(をりかへし)
 なれこそわが靈の
 垂乳根の母なれば
 み助をぞ賜へかし
 わがあやふき時し



1. かぜもか-を-り-てあをばわ-か-ば
2. わかぐさ-も-ゆ-るののつか-さ-に



さつきせせら-ぎくしきしらべ
ひともとさけ-るそのしらゆり



こかげにたたすと-はのみはは
みさをかぐはしと-はのをとめ



みかげしたひわ-れ-らこそゆけ
いざたたへなんひ-と-のかがみと

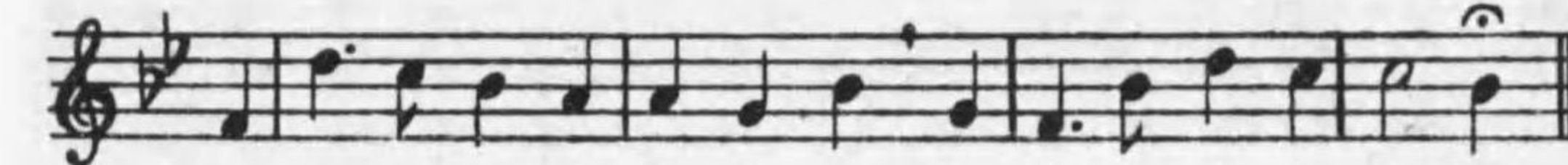
三	二	一
あふぎあふぎ あがれる雲雀 高きところの	いざ稱へなん 操かぐはし 一本咲ける	風もかをりて 五月せせらぎ 木蔭に立たす みかげしたひ
御名や呼べる かそけきそら とはのきさい 御榮うたはん	野の高處に そのしらゆり とはのをとめ 人のかがみと	あを葉わか葉 奇しきしらべ とはのみはは 我等こそ行け



1. さつきのきさいをさつきはうたふ
2. マリアのみまへにちぐさみだれて
3. みどりのまきばにみははのこらは



ひととせ-め-ぐりてゆ-りさくどぐつ
いるとり-ど-りにぞに-ほふくにばら
ひつじの-ど-とくぞむ-れつどひつつ

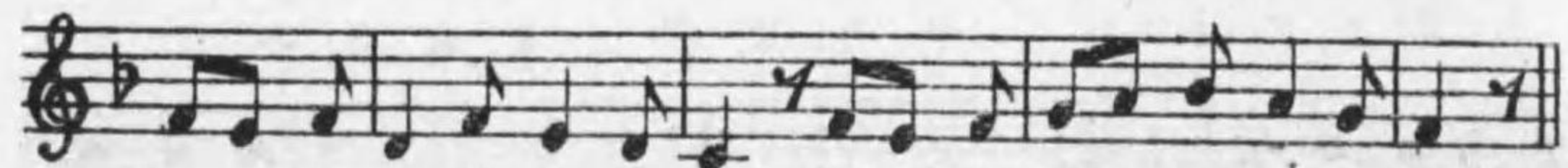


マリアしゆくしませしゆくせられませ
みかざりにせまくちはさきいでぬ
さゆりてにかざしことほぎまつる

四	三	二	一
み母立ちませば 世は宛がらなる みははの御恵み	羊のごとくぞ さゆり手に翳し	みどりの牧場に 色とりどりにぞ み飾りに爲まく	阜月のきさいを ひと年めぐりて マリア祝しませ
あまつ風吹き とこ春なして 地に満足らふ	群れ集ひつつ ことほぎ奉る	聖母の子等は 地に咲出でぬ	さつきは歌ふ 百合さく五月 祝せられませ



たのしけく まつるさつき ほぎうたよ



しーらべもさやに あーめにーひびかへ



- 1. みそらには みつかひうたひ ゆきかひて
- 2. みたたしに ちぐさやちぐさ みどりなし
- 3. きよけさよ みははのこころ きぬにみて



みーたみのははを たーたへーあへるも
 みーけしなづさひ たーむけーするかも
 あーやにきほしき そーのみけしはも

四

わが垂乳根の
 その母の子は
 ははなれや
 母に似ほしき

三

あやに着欲き
 聖母のこころ
 衣に見て
 そのみ衣はも

二

御衣なづさひ
 千草八千草
 手向するかも

一

御民のははを
 御つかひ歌ひ
 稱へあへるも

(をりかへし)

たのしけく
 まつる五月の
 調べもさやに
 ほぎうたよ
 天にひびかへ



- 1. うるはしみ みははなぞへて ゆりーの
- 2. かをたかみ かくらふべくも ゆりーの
- 3. さゆりばな ゆりはまみえむ ははに



はーな さつきのもりーに ながめするかも
 はーな さつきやみさへ かくさふべしや
 こーひ みなかぐはしみ いのりするかな



みそらゆくつーきと たのむかけあまねき



かみのみはーはよ みめぐみたーまへ

三

さゆりばな
 後はまみえむ
 御名芳はしみ
 いのりするかな

二

香をたかみ
 隠らふべくも
 さつき闇さへ
 隠さふべしや

(をりかへし)

み空ゆく月と
 神のみははよ
 みめぐみたまへ

一

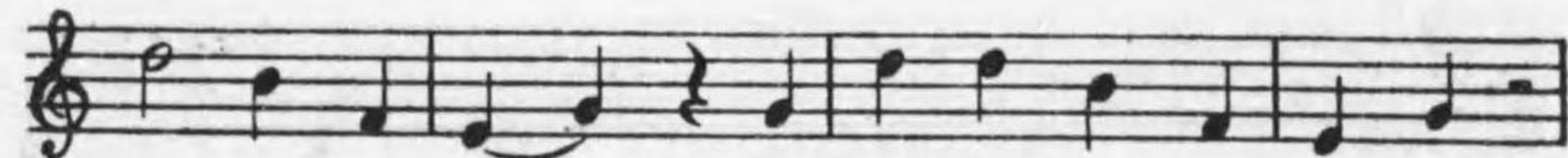
うるはしみ
 聖母なぞへて
 さつきの森に
 ゆりのはな
 ながめするかも



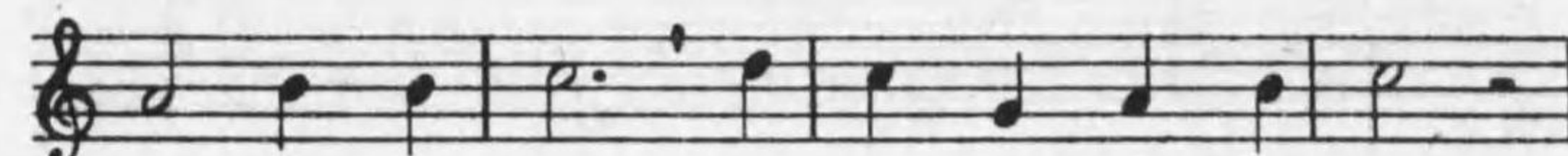
みつ かひ あきのみ やるに



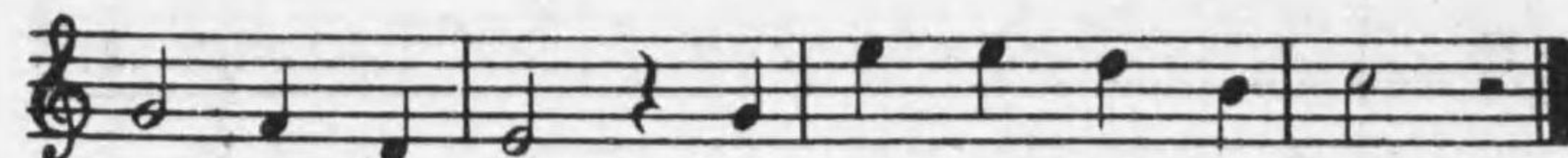
い み じ く い つ く み れ ば



み は は の - あ め の ぼ り ま す



と き き ぬ あ れ き こ ゆ る

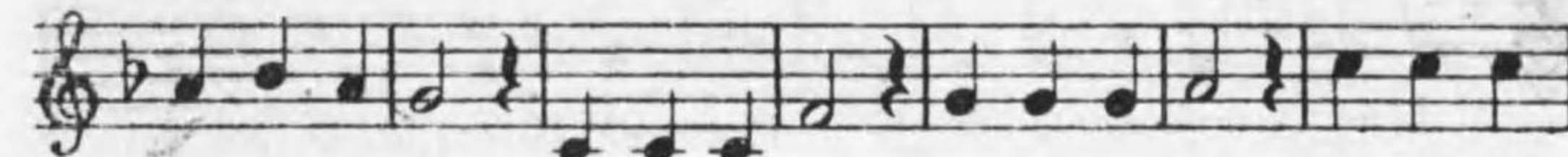


ほ ぎ う た た か し き よ し

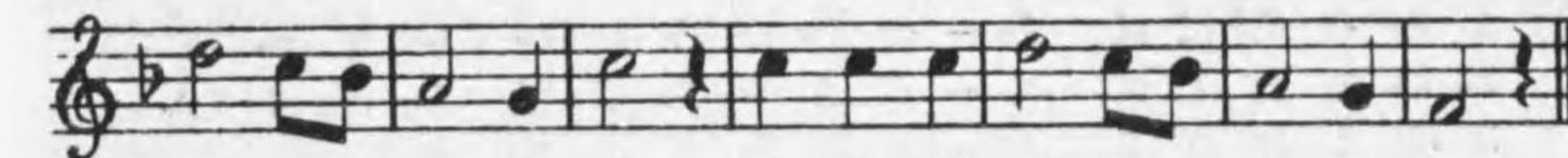
<p>三</p> <p>か の と き 君 は う た ひ し た か き を 神 は お ろ し ひ く き を 高 き に 擧 ぐ と け ふ こ そ あ ま つ き さ い き み は も い 往 せ た ま ふ</p>	<p>二</p> <p>か し こ し 生 れ ま し し か か き は に か み の 母 た る さ だ め も 君 し ら ゆ り ゆ き ま す あ ま つ そ ら へ</p>	<p>一</p> <p>み つ か ひ 秋 の 宮 居 に い み じ く い つ く み れ ば み は は の あ め 昇 り ま す と き 來 ぬ あ れ き こ ゆ る ほ ぎ う た た か し き よ し</p>
---	---	---



1. わ が 主 の み は は よ い ま は 主 の み
2. こ ふ れ ど つ き せ ず き よ き み な を

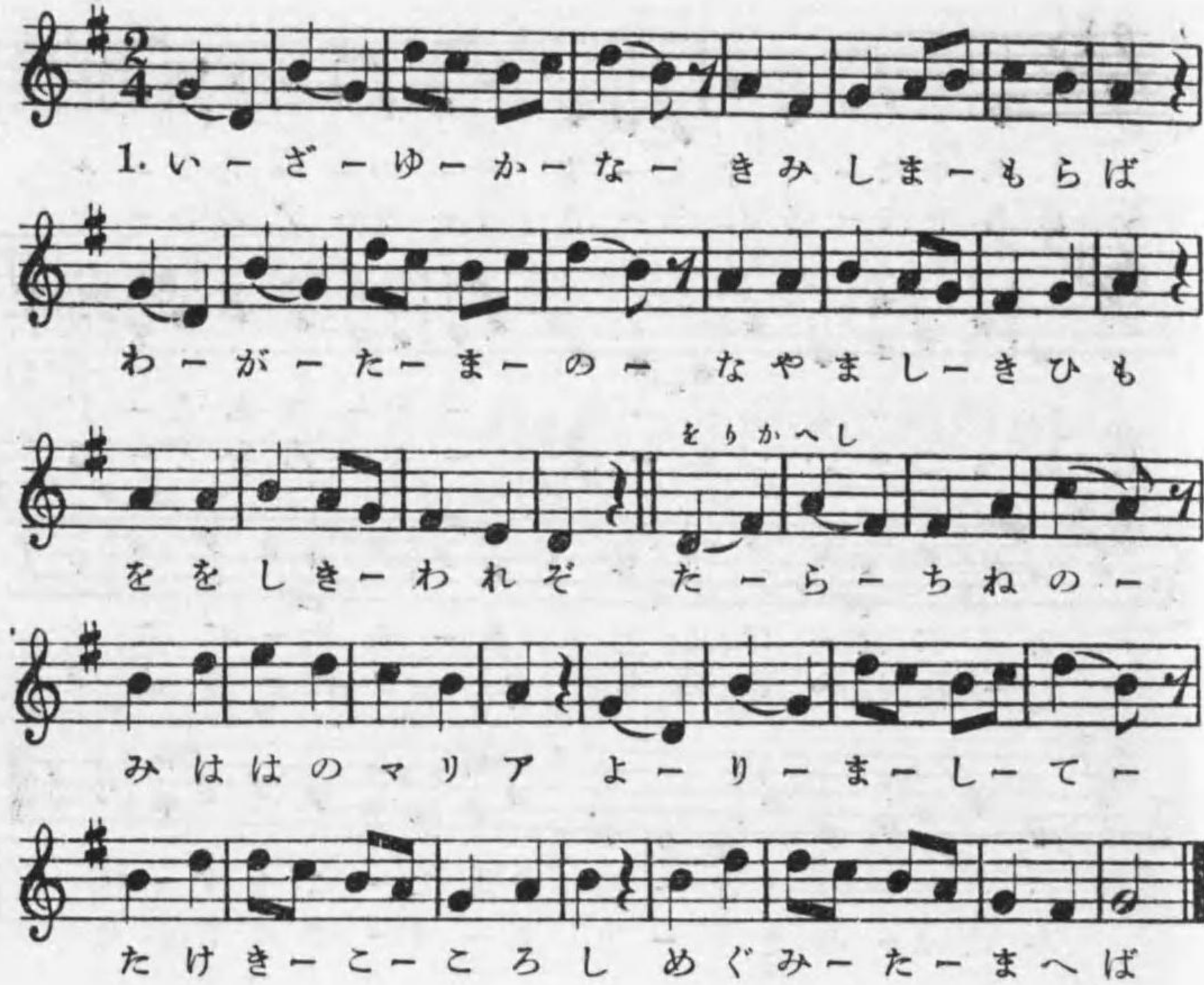


て に よ り あ め な る さ か え に の ぼ り
あ が め て こ の よ の あ ゆ み を み は は



ゆ か - せ た ま ふ み か げ ぞ し - た は し
に あ - や か り た た へ つ つ - す ぞ さ ん

<p>四</p> <p>さ か え に さ か ゆ る 后 マ リ ア み は は よ う た へ ど う た へ ど つ き せ ぬ 我 が う た み く に に ひ び か へ</p>	<p>三</p> <p>み は は よ マ リ ア よ 汝 に た よ る こ の 身 は な み だ の た に よ り み と り な し い の る み く に に 入 る ま で</p>	<p>二</p> <p>戀 ふ れ ど つ き せ ず き よ き 御 名 を 崇 め て こ の 世 の あ ゆ み を み は は に あ や か り た た へ つ つ 過 さ ん</p>	<p>一</p> <p>わ が 主 の み は は よ 今 は 主 の 御 手 に よ り あ め な る さ か え に 昇 り ゆ か せ た ま ふ み か げ ぞ し た は し</p>
---	---	---	---



1. い - ざ - ゆ - か - な - きみしま - もらば
 わ - が - た - ま - の - なやまし - きひも
 ををしき - われぞ ^{とりかへし} た - ら - ちねの -
 みははの マリア よ - リ - ま - し - て -
 たけき - こ - ころし めぐみ - た - まへば

三	二	(をりかへし)	一
つるぎ太刀 折なば折れよ 闇のちからは	呼びまつる 御名は芳はし この心はも	たらちねの 聖母の マリア 猛きころし	いざ行かな 君し護らば 惱ましき日も
ぬばたまの 君し消ちます	いときなき あめにい向ふ	寄りまして めぐみ給へば	わがたまの 雄々しき我ぞ



^{とりかへし}
 わ - がみはは みななつかしみ
 こ - ひにつつ あはむひ - のた - め
 みた - す - けいの - る 1. わたの - はら
 こ - ぎたむ - ふねの ゆふぐ - れて -
 うみぢのほしの かげをたのまな

三	二	一	(をりかへし)
のぞみの星と 光りな隠くし 舟泊つるまで	わがふねの こぎの進みに 覆りもやせむ	わたのはら 漕ぎたむ舟の うみ路の星の	わがみはは 御名懐かしみ 逢はむ日の爲
わが依れば 舟泊つるまで	岩に觸り 君しあらずば	夕ぐれて 影をたのまな	戀ひにつつ み助けいのる

をりかへし

マリアさーま おててあはせて いつのひーも
あたしのために いのりくださるー

1. おきるから やすむときまでー ちちははの
2. めがさめて イエズスマリアー ヨゼフさま
3. なにごとも すなほにうけてー かんがへて

みこころにそひよいこであれと
まもりたまへるといひのるやうにと
かみのこころにそひまつかれよと

(をりかへし)

一 「おきるから
やすむときまで
みこころに添そひ
良よ兒こであれ」と

二 「めがさめて
イエズスマリア
まもりたまへと
祈いのるやうに」と

三 「なにごとも
すなほに受けて
かみのこころに
そひ奉まれよ」と

マリアさま
お手あはせて
あたしのために
いのりくださる

いつの日も

ちちははの

ヨゼフさま

かんがへて

1. あやにーくすしーき そーのーみなこーそ
2. あやにーうれしーき マーリーアのみーな

あめにーもちにーも たーぐーひあらーじ
おもひーいづれーば こーこーろをどーる

よーべはーけふし あーらたーにこそ
わーれはーいのらん いーまはーのとき

いのちーのははーに あふこーこちすーれ
みははーのきたーり たーすーけたまふを

一 あやに奇ましき その御名こそ

天あめにも地ちにも たぐひあらし

呼よべは今日けふし あらたにこそ

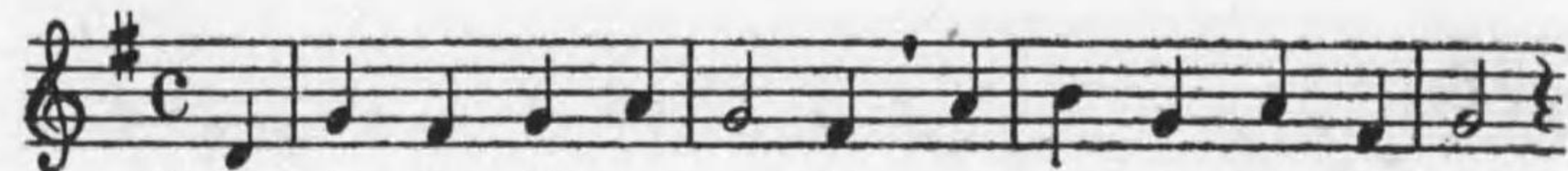
いのちの母ははに あふ心こころ地ちすれ

二 あやに嬉うれしき マリアの御名

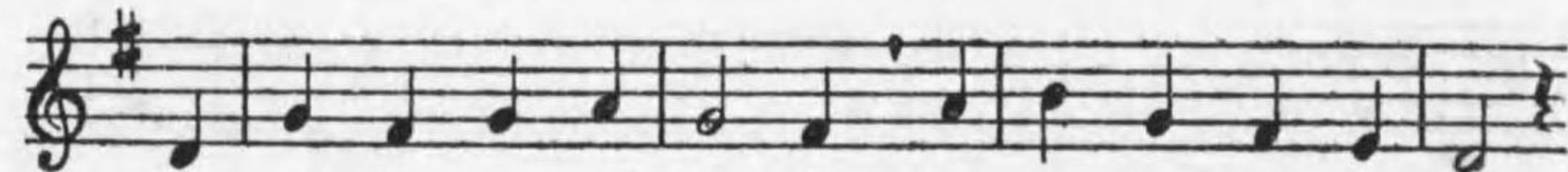
思おもひいづれば ころをどる

われは祈いのらん いまはのとき

聖母まははの來きたり 助たすけたまふを



1. あさなゆふなにまもりたまふ
2. よひやみせまりみつみて



みつかひぞよきよのたびぢに
くらきいきほひわなをそなへ

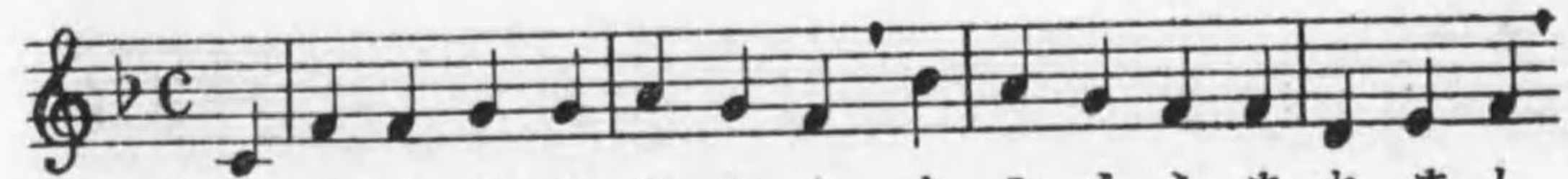


わがなぐさめのこころのとも
あやふきときにきみしきまし



すぎこせぬせのたすけのふね
しるべせよかしやすけきみち

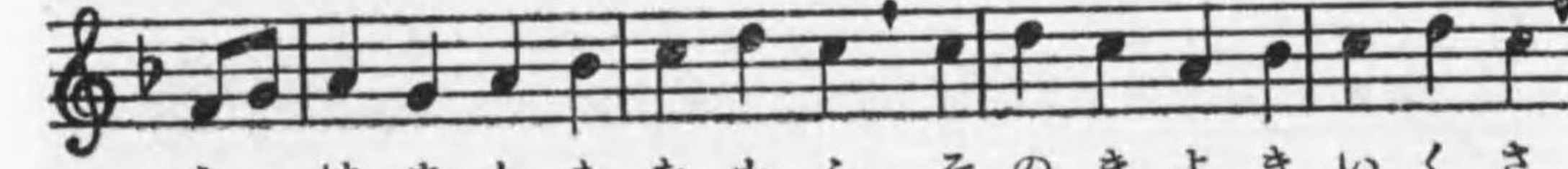
三	二	一
あめにみちびけ この世のたびの 死のあらなみの われを呑みなば この靈はも	よひやみせまり くらきいきほひ あやふきときに しるべせよかし やすけきみち	あさなゆふなに みつかひぞ善き わがなぐさめの 過ぎこせぬ瀬の たすけのふね
い行き暮れて ひと時にし	身をつつみて わなをそなへ 君し來まし	まもりたまふ 世のたび路に こころのとも



1. みつかひのをさときみえらまれまし
2. まもりのつはものかちうたうたひて



あめなるみかみのおほみちからをば
みいくさにむかふあたもあらなくに



うーけましたたかふそのきよきいくさ
みーつかひのをさはみまへにやすきや

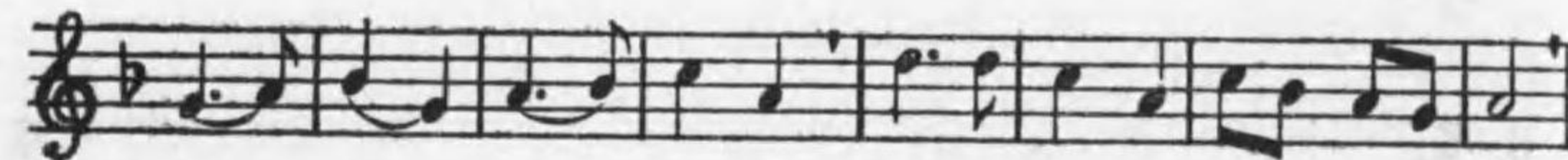


みはたぞかーがやく
ことほぎまーつれる

三	二	一
われを護りませ 聖なるミカエル わが靈魂はも きみの守らひを 聖なるミカエル	みつかひの長は ことほぎ奉れる みつかひの長は みまへに平和や	みつかひの長と あめなる御神の 受けまし戦ふ み旗ぞかがやく
こひ願はましを みつかひの長よ	勝ち歌うたひて 仇もあらなくに	君えらまれまし 大みちからをば その聖きいくさ



1. ひーとごーとにまもーらくうれし
2. みーえねーどもみてーあたたかく



あーまーつーかひ そのみあるーじーの
たーまーにーふり わがゆきまーどーふ

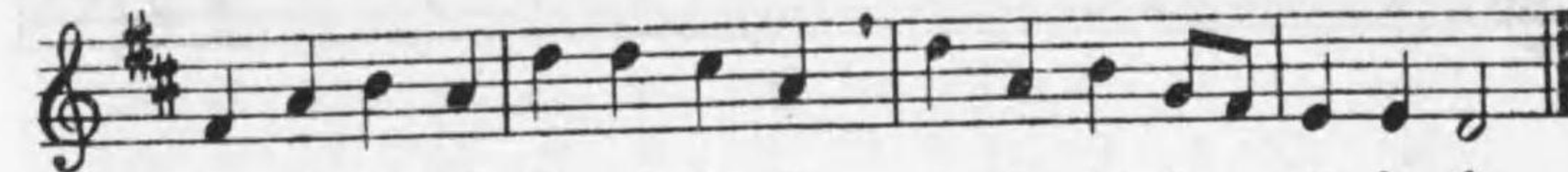


まけのまにーまーに
みちにたーたーせる

- 一 人毎ひとごとに 守まもらく嬉うれし あまつかひ
そのみあるじの 任まけのまにまに
- 二 見えね共ども 御手みて温あたかく 靈たまに觸かり
わが行ゆきまどふ 道みちに立たたせる
- 三 幼稚いはげなく 道みちゆき知らに 羽はぐ含くみの
あめのつかひよ 負おひて通とほらせ
- 四 今いまなほに 天路あまぢは遠とほし 泊はつる迄まで
つばさに乗のせて まもれみつかひ
- 五 折節をりふしに 魔ま鬼きや襲おそひなん 劍つるぎ太また刀
わが利ときころ まもれみつかひ



1. わがみのまもりの あまつつかひよ
2. いざなひしりぞけ みくくにすすみ
3. むらがるあをば うちしりぞけて



みてにぞゆだぬる このみこーのたま
いそしみはげみて つとめをーはたさん
いまはのきはにも きみよみーまもれ

- 一 わが身みのまもりの あまつつかひよ
み手てにぞゆだぬる この身みこのたま
- 二 いざなひしりぞけ みくくにすすみ
いそしみはげみて 務つとめをはたさん
- 三 むらがるあをば うちしりぞけて
いまはのきはにも きみよ見みまもれ